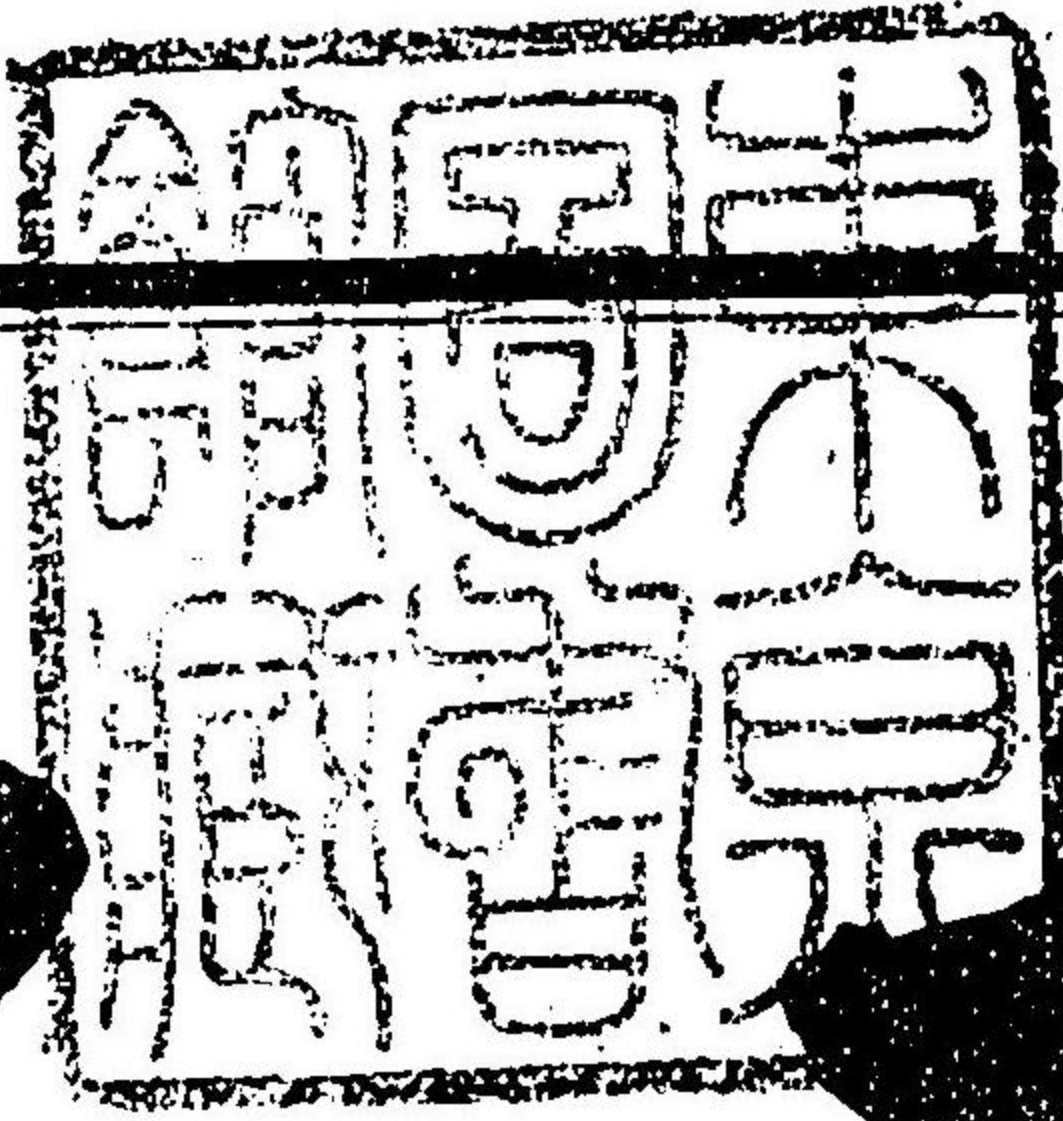
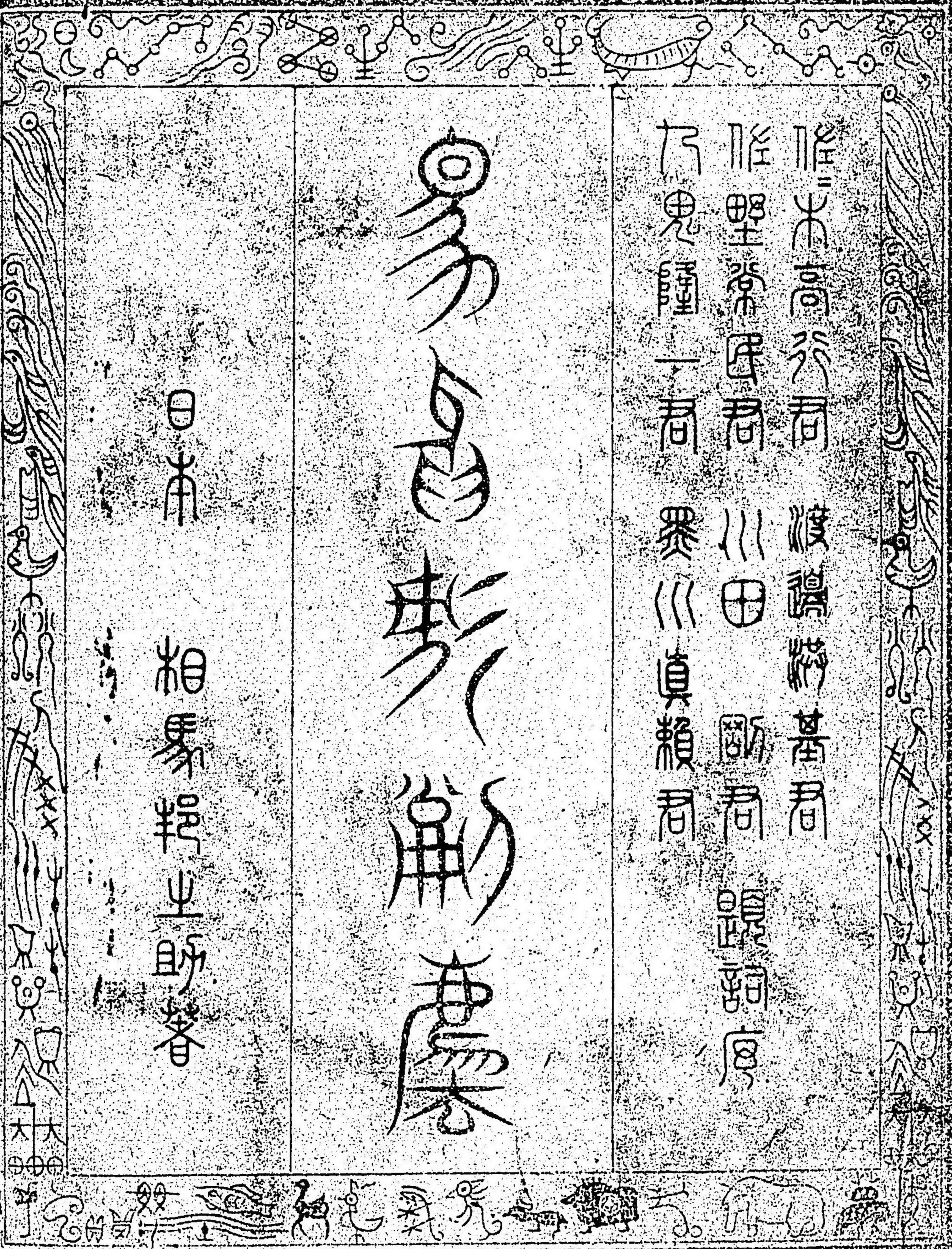


No 2519/23



強 左
方 準



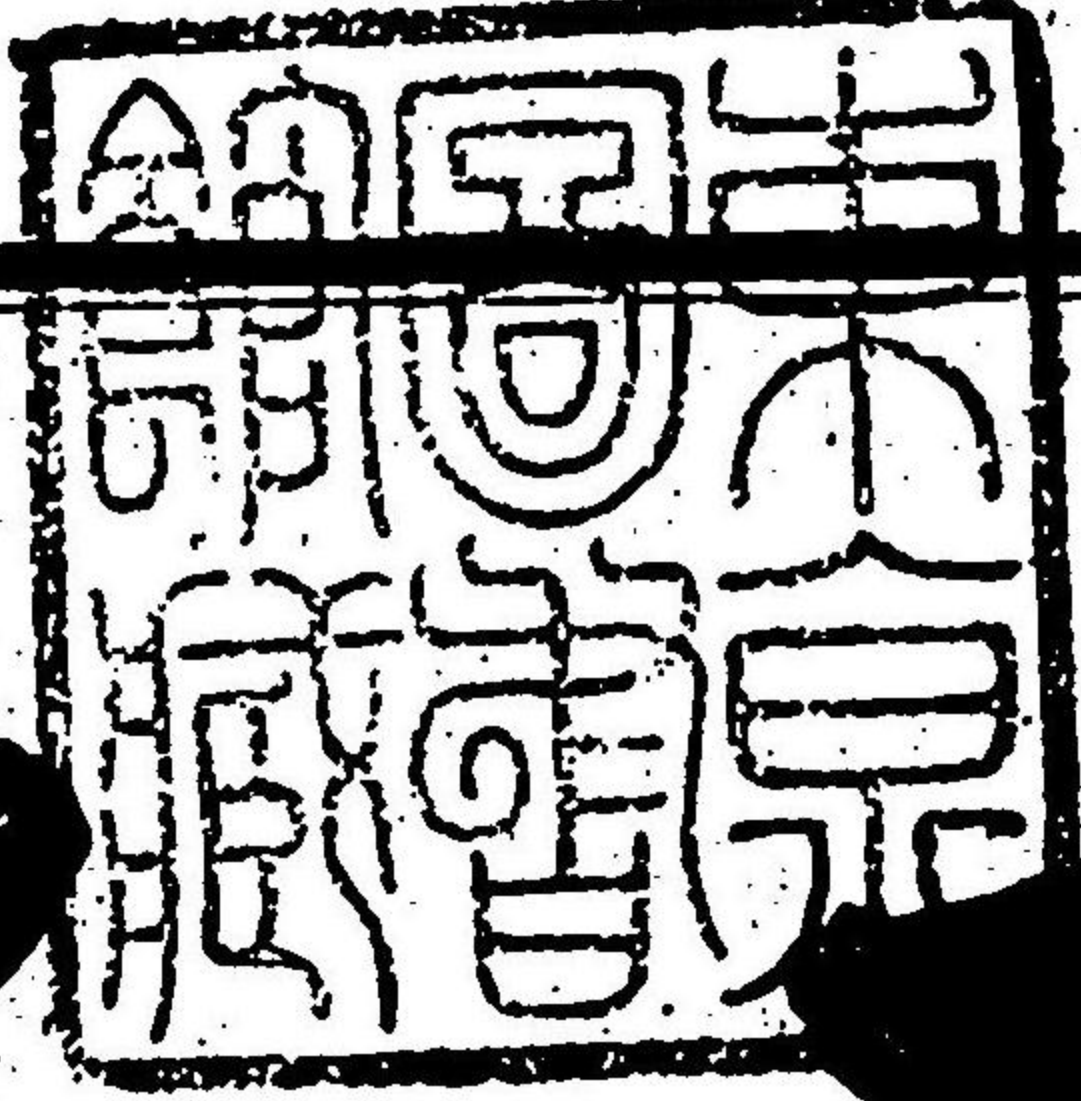
易 曰 匪 離 不 處

惟 大 高 於 天 溥 濟 濔 濔 萬 邦
惟 聖 濟 民 濟 川 田 賦 國 有 歸 詞 序
乃 鬼 歸 一 君 衆 川 貞 類 君

田 井

田 井 田 井 田 井

No 2519/23

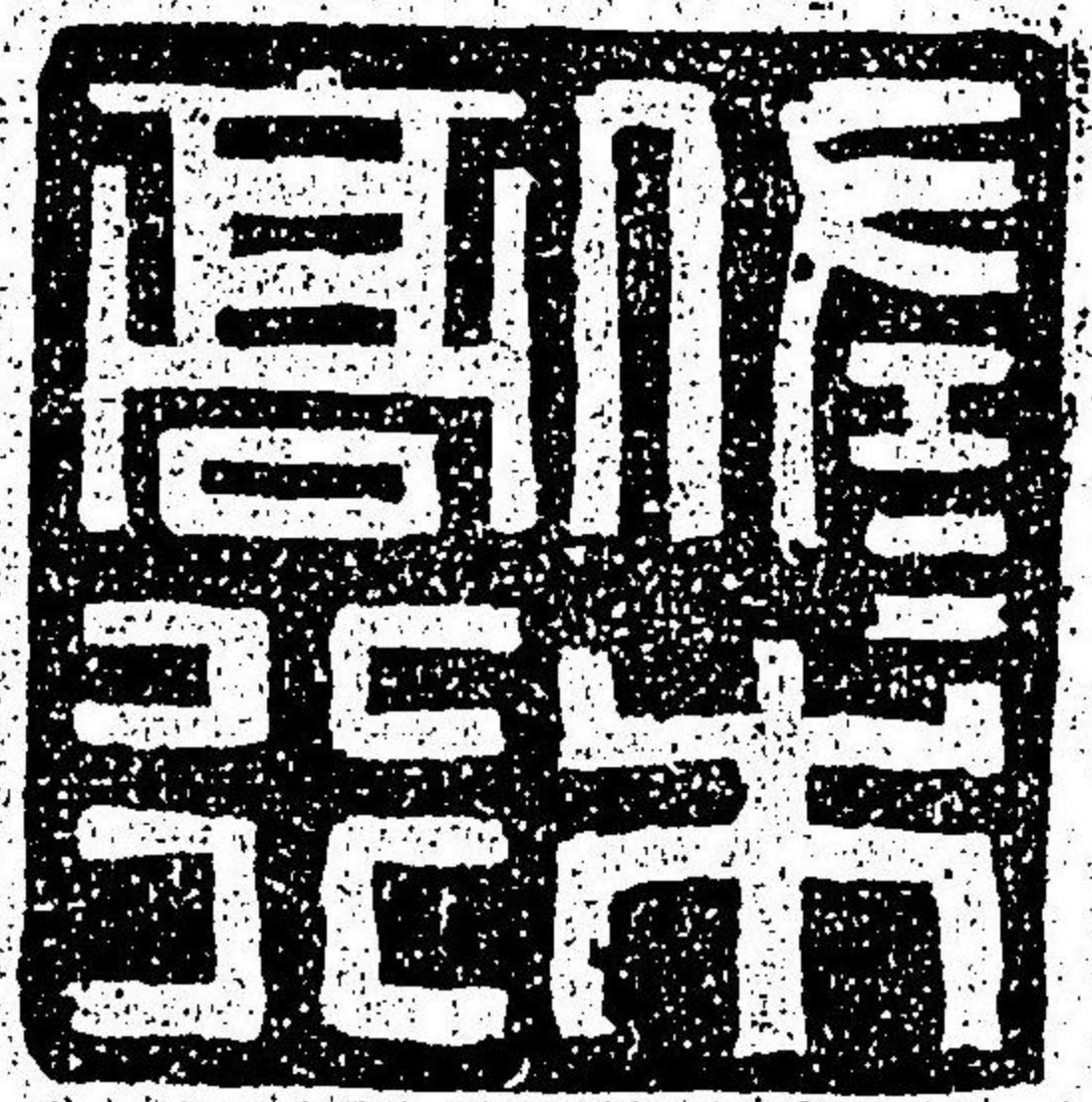


繩在
者準



規矩

方



象牙彫刻法序

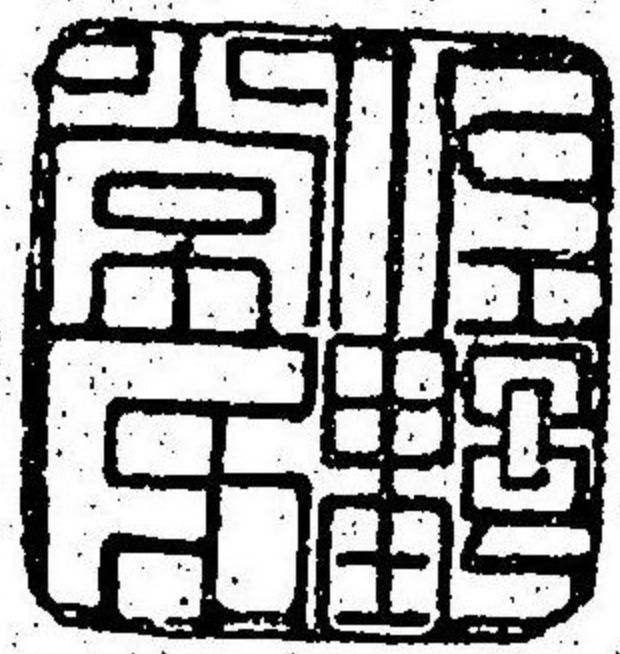


我邦繪畫彫刻之術自古師授相承。具有其法。但未有筆之於書者。夫口傳而手受之。受者或遺之。傳者或不悉。固不如書之可據也。頃者相馬仙齡著象牙彫刻法。

以便初學。牙刻之行於諸美術為最新。今其出先成。木石五金繪畫。蕭繡之書。將續之而出。仙翁此著。蓋為之先驅矣。若夫手精腕熟。縱然自在。遊于法之外。則所謂默識心會者。非文字之所能傳也。修美

術者宜求法於有形。而得神於無形矣。仙翁乞序。因出與之。

明治己丑臘月。雪津漁叟題於靜觀居之南軒。



大森惟中書



彫刻片岡雄六



録大慧之禪師歌

題彫刻法

大森惟中

大森惟中

大森惟中

藝之有也

可也

藝乃有也

可也

成海



序



凡百藝術自脫草昧之域以上

皆有典型而典型之立漸次

長進積數百年之工夫而成

後人更加意匠致精累巧

其進無有窮極此所以貴
於練磨也本邦彫刻之術
既長機巧又饒雅致其所
製出中外珍之久矣但其術
師弟相授口傳手受無有成

書東京彫工會員相馬邦之介君
當今之志和也常憂之頃叩
其澁奧筆之于書以為授業
之範名曰象牙彫刻法蓋欲
益精其術以揚國華焉余

喜其裨益于後進匪鮮
也為年數言愆慝公世

云

明治二十二年十二月

東京彫工會頭渡邊浩基



彫刻片圖稿六

自叙

去ル明治十五年門生ヲ養ヒ是レニ彫刻ノ道ヲ授ケント欲ス種々方法ヲ
求メテ學ビ易カラントヲ試ムト雖モ其適切ナル方法ヲ得ル能ハス畢竟
學力資財ノ及ハザルガ爲メニ良方法ヲ得ル能ハザル者也同十九年門生
ヲ辭讓シテ自ラ單身トナリ專ラ彫刻上ノ方法手段ヲ明カニシテ後日ノ
便ヲ得ントラ計リ孜孜倍ラス工業ノ傍ラ製作時間先後ニ必ス其形ヲ認
メ截リ碎方ノ未タ精密ナラザルモ圖ヲ編シテ初學ノ階梯トナサント欲
ス而シテ其間ニ亦見聞ト諸書ニ雜出スル趣旨等ヲ得テ之レニ圖画ト私
見ヲ以テ稍修正ヲ加ヘ彫刻上ニ適用センコトヲ以テセリ故ニ解説ノ如キ
ハ俗語アリ畧語アリ皆錯雜シテ章句ヲ成サバシ看者之レヲ恕シテ
只其意ノアル所ヲ察セバ余ガ幸福之レニ過キタルナシ其編輯ノ次第ハ
先ツ起因目的及ヒ施落道具ヨリ工場迄ヲ初メニ列シ次キニハ第一避俗
愛鈍ヨリ第九蚋蜂逃生ノ間余ガ心中象形ノ思想ヲ起スヲ主眼トナシ故
ニ規矩繩墨ヲ以テ是非善惡ヲ責メス只道具及ヒ小刀等ノ使用ヲ練熟セ
ンコトヲ務メ漸ク運刀ノ進歩ヲ看ルニ及ンテ各画良刻ノ諸品ヲ鑑ミ精粹

ノ端ニ趣クヲ得タリ、亦ニ編ノ顔面、手足部ニ於テ、由申甲田等ノ十字面貌
及ビ手足ノ正斜仰伏等ノ形狀ヲ象リテ、全体ヲ作ルヲ學ブ、第十五處女
閑適ヲ彫刻スルニ當テ、大ヒニ悟ル所アリ、茫然削剝ノ一技ニ老ユルモ、到
底妙想至感ノ体ヲ表ハシニ、標目ナク、是ニ於テ、畢生ノ腦力ヲ此學ニ浮べ、
全身ノ腕力ヲ此術ニ注ギ、萬有ノ彫刻物ニ向テ、眞想形ノ排列ヲ設ケ、自己
ガ行路ヲ定メ、修業ノ順序ニ惑ハザランヲ期ス、古人明カニ説ヲ爲サス
ト雖、不識ノ間ニ彫刻セシ物体ハ、自ラ眞想形ニ影彩ヲ備フル者ニ
シテ、其證ヲ舉レハ、希臘古代ノ彫刻品ハ、多ク裸体ヲ以テ、眞ニ迫ラシメ、印
度ノ佛像ハ、不動尊、魔鬼等ノ如ク、想像ヨリ出テ、入テ感動セシム、我邦鴨
川人形、奈良人形、及ビ飛彈彫等ノ如キハ、形狀簡畧ニシテ、尤モ清觀ヲ表ハ
ス、尚其妙想ト云フベキ一体ハ、彼十二天ノ如キ者ヲ云フ、是レ眞想形ノ体
ヲ發見シタル所以ナリ、若夫是レヲ標木トシテ、旅行セハ、五里復五里ノ遠
キヲ知レ、凡岐路ニ躊躇スル憂ヒナシトスルニ、庶幾ラント、門生童蒙ノ爲
メニ上梓シテ聊カ述ブルヲ云爾、

于時明治二十二年七月孟夏

陸相邦謹誌

凡例

- 一 此書ハ、專ラ象牙彫刻上ニ関スル方法ヲ掲ク、故ニ象牙彫刻法ト名稱
ヲ附シタル者也、書中一二ノ号ヲ附セル設題數ハ、二十二ニシテ、其變
圖ハ、木地形ヲ除ヒテ、上底、前後、左右、都合八十一アリ、別ケテ乾坤ノ二
編トス、三編四編ハ、他ノ實業者カ經驗シタル、圖画ヲ掲載スヘシ、
- 一 設題ノ下ハ、元物ノ重量、寸法、製作ノ日月ヲ記載セリ、重量ハ、木地ノ時
價ヲ計テ時々比較スルヲ得セシム、寸法ハ、初學ノ子弟ヲ教育セシム
ルニ、假リニ、木材ヲ以テ象牙木地ノ形ヲ削表セシムルヲ務ム、製作ノ
日月ハ、一題号ヨリニ延ノ間ヲ推算シテ、一個凡ソ幾日ヲ費シテ製ス
ルヤ、粗密ノ差アリト雖、凡大畧ノ日限ヲ期センヲ慮リ、
- 一 此書起稿ノ考按秩序ハ、日本美術協會、鑑畫會、東京彫工會等ニ於テ、見
聞ヲ擴メ、思想ヲ養ヒタル者也、然レ、凡短才疎能ニシテ、克ク各會意ノ
アル所ニ進ム一能ハス、且書中ノ文章、圖画、筆耕共ニ各專門家ニ依頼
セシテ、余一己ノ手ニ編述シタレハ、誤字差意アルヲ免カレス、看者
夫レ之レヲ恕セヨ焉、

○目錄乾

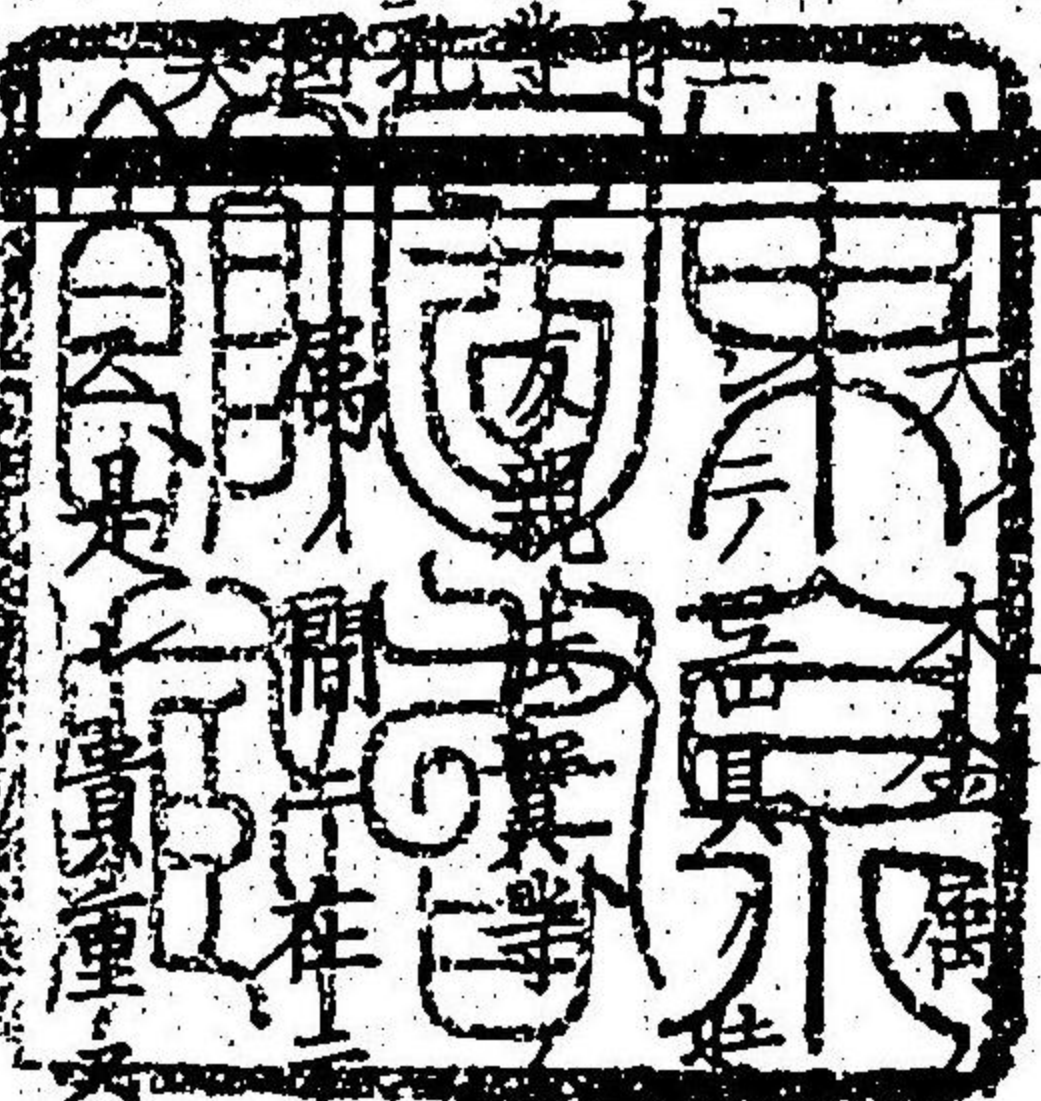
彫刻起因及目的	一 避俗愛鈍 参考圖	三 心忙兩避
鹿落道具鋸諸類	二 主美弄醜	三 左右愛憐
稚木 佻鑢十形	三 牧童思婦	五 舞蹈演習
小刀燒方	四 育兒嬉戲	五 處女鬧適
木竹小刀十三形	五 勿侮長者	○ 真想形
象牙骨角刀廿四形	六 猫兒失母	六 戲花蛺蝶 真
金屬刀	七 婦容可愛	七 威伏靈蟲 想
比例線解	八 新婦愛兒	八 慈悲善惡 形
比例尺解	九 蚋蜂逃生 参考圖	九 二女讀書
人体割合	○ 二編坤	十 抱子剥果
衣服	應用推理佛像	世前題再試
象牙	頭面手足全体	世美人贈花 右說明
題意	十 姊妹待賓 截碎十着 面貌八圖	○ 終目錄 終
工場	土稚兒慕乳	

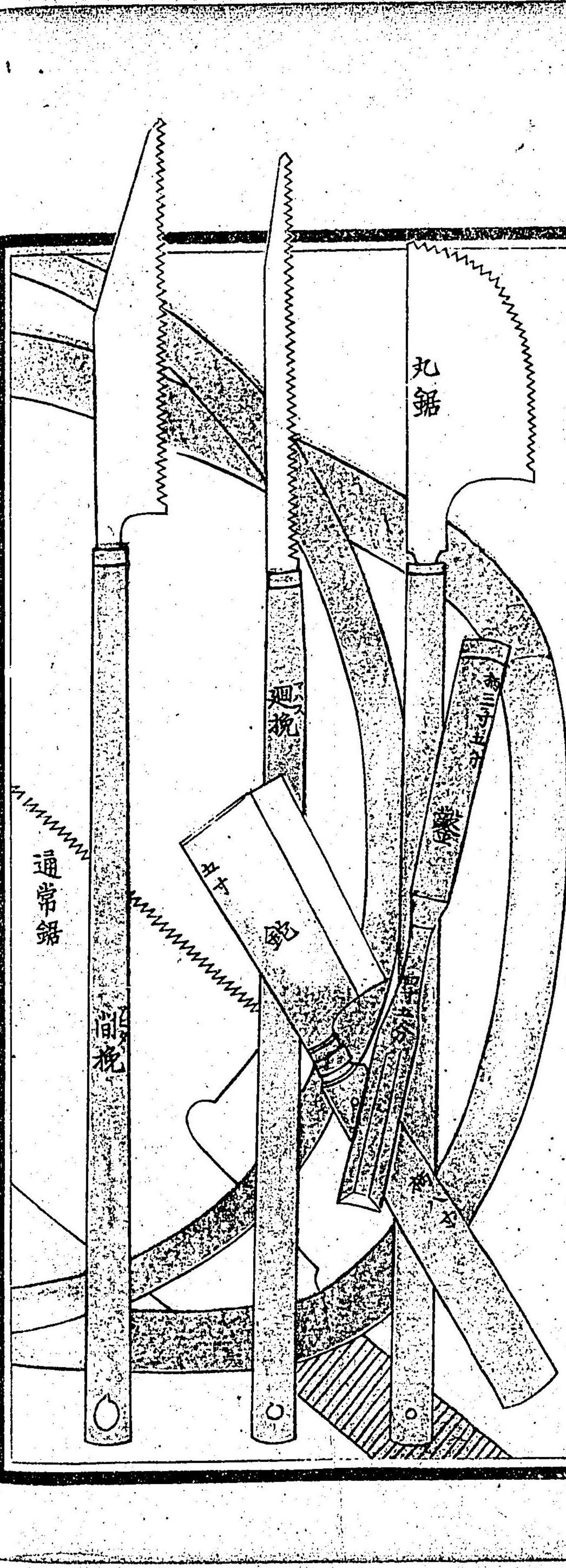
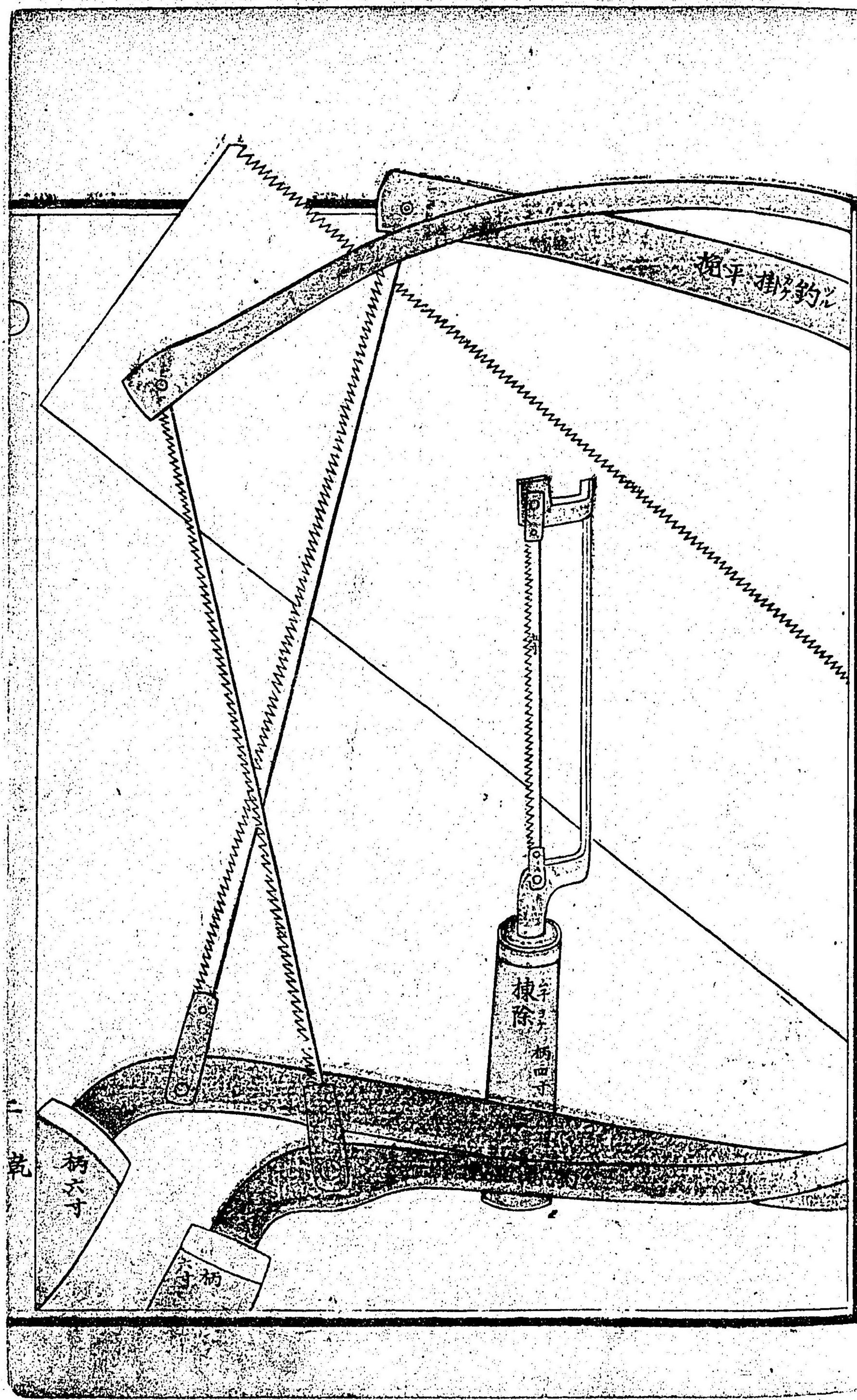
象牙彫刻法乾

彫刻起因及彫刻者目的

彫刻タル其創始甚々古シ、近古象牙ノ舶來セシヨリ之ヲ刻
 飾トナシ或ハ印籠烟袋ノ根付トナス、近世ニ至リ、彫山、周山、
 徒出テ、專ラ象牙彫刻ヲ業トセリ、抑モ象牙ノ性質ハ木金
 精密ニ製作スルモ木質ノ如ク脆カラズ、金屬ノ如ク堅カラ
 爾ノ如何ヲ觀ミサル者アリ、尙シ營利ノミヲ目的トシ、汲々トシテ刀ヲ把
 ラハ、其技或ハ老熟ニ至ルト虫尸、到底其鄙俗ナルヲ免レス、之ニ反シテ技
 術ヲ精研シ、名譽ヲ墜サ、ラン、一ヲ務メハ、或ハ一時ノ利ヲ攫取スル能ハ
 スト虫尸、他日必ス高妙ノ域ニ到ラサルヲ莫ルヘシ、白樂天ノ詩ニ云ク、人
 各有偏好、物能莫兩全、ト豈贏利ヲ愛セサランヤ、品位ヲ尚フノ樂キニ如カ
 ス、學者必ス目前ノ贏利ニ迷フ、トナク、能ク其本末ヲ辨シテ意匠ヲ定メ、一
 鑿一カヲ施シテ苟モセスンハ、蝶蛾ノ窩ヲ脱スルカ如ク、粗糲ノ体ヲ變シ
 テ、其觀ヲ美ニシ、其術隨テ進達スル、ト蓋シ疑ヲ容レサルナリ、

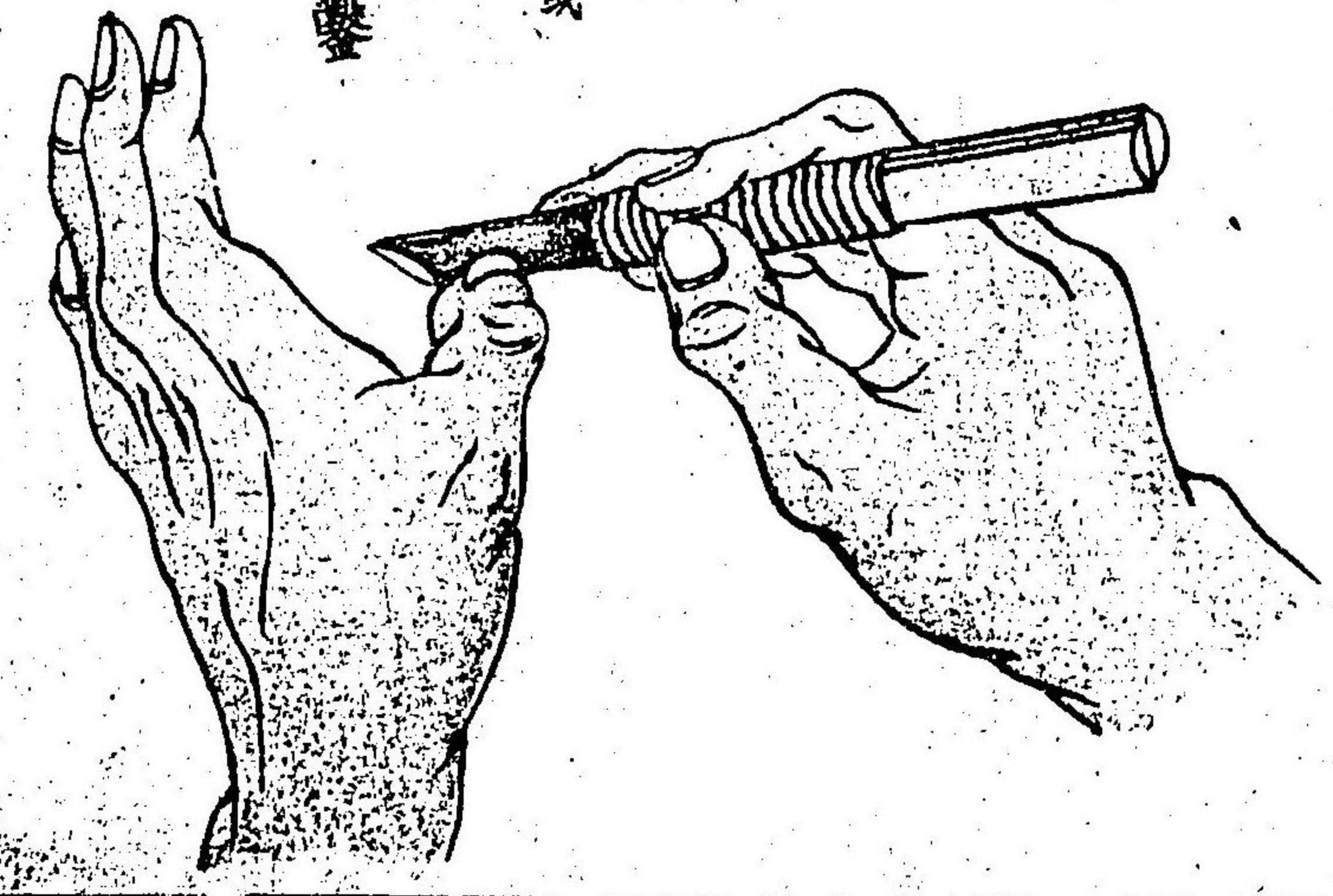
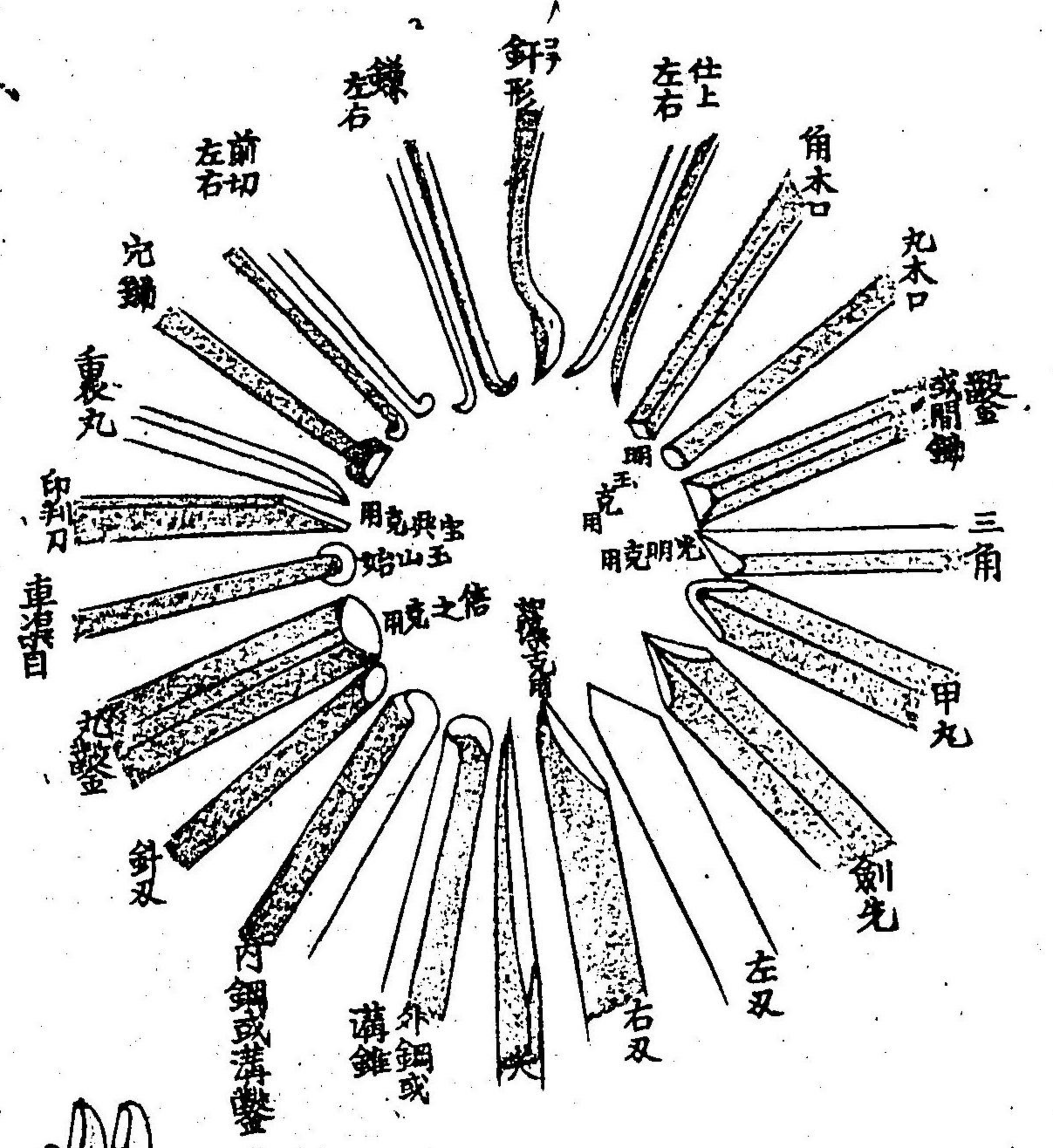
彫山有盧
 夢園周山
 列仙龍神
 國友親有
 聖觀歌器
 法寶有英
 怒園





鹿落道具諸類
 アノオシ
 凡テ彫刻ノ鹿落シハ鋸又ハ鑿鉋等ヲ用ユル者ナリ、借其象牙挽ノ鋸ハソ
 ノ日ノ形三角ニシテ、即チ之ヲ劍目ト稱ヘ、總テノ堅貨物体ヲ挽割ルニ用
 ヒ、倘シ一邊平ニシテ一邊斜ナル片ハ、挽障リ鈍ク、及テ切斷スルト遅ス、左
 ニ圖シタル鋸ハ、及形ノ両様ヲ示セル者ナレハ、實際彫刻スヘキ物体ニ臨
 テ、ソノ銳利遲鈍ヲ試ムヘシ、

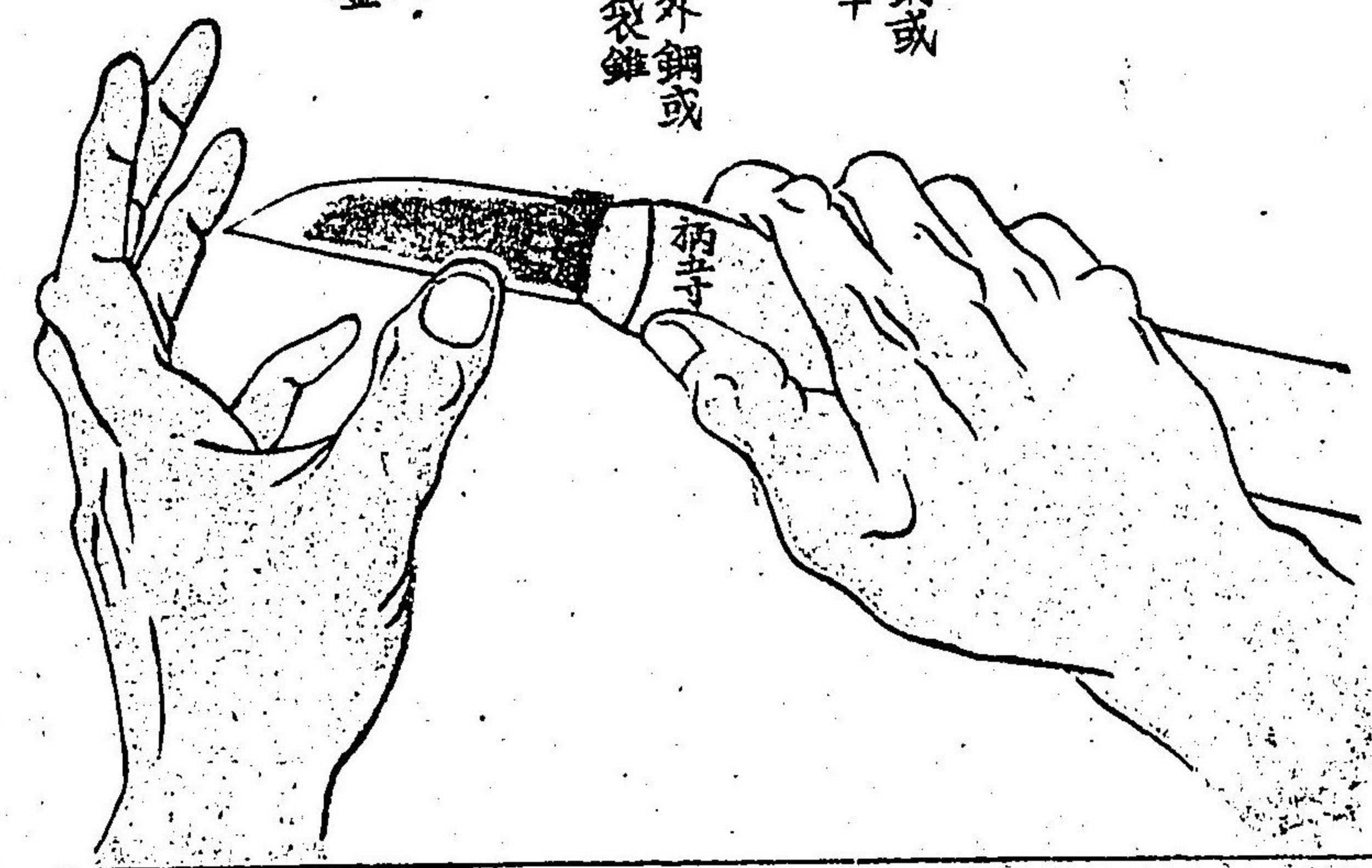
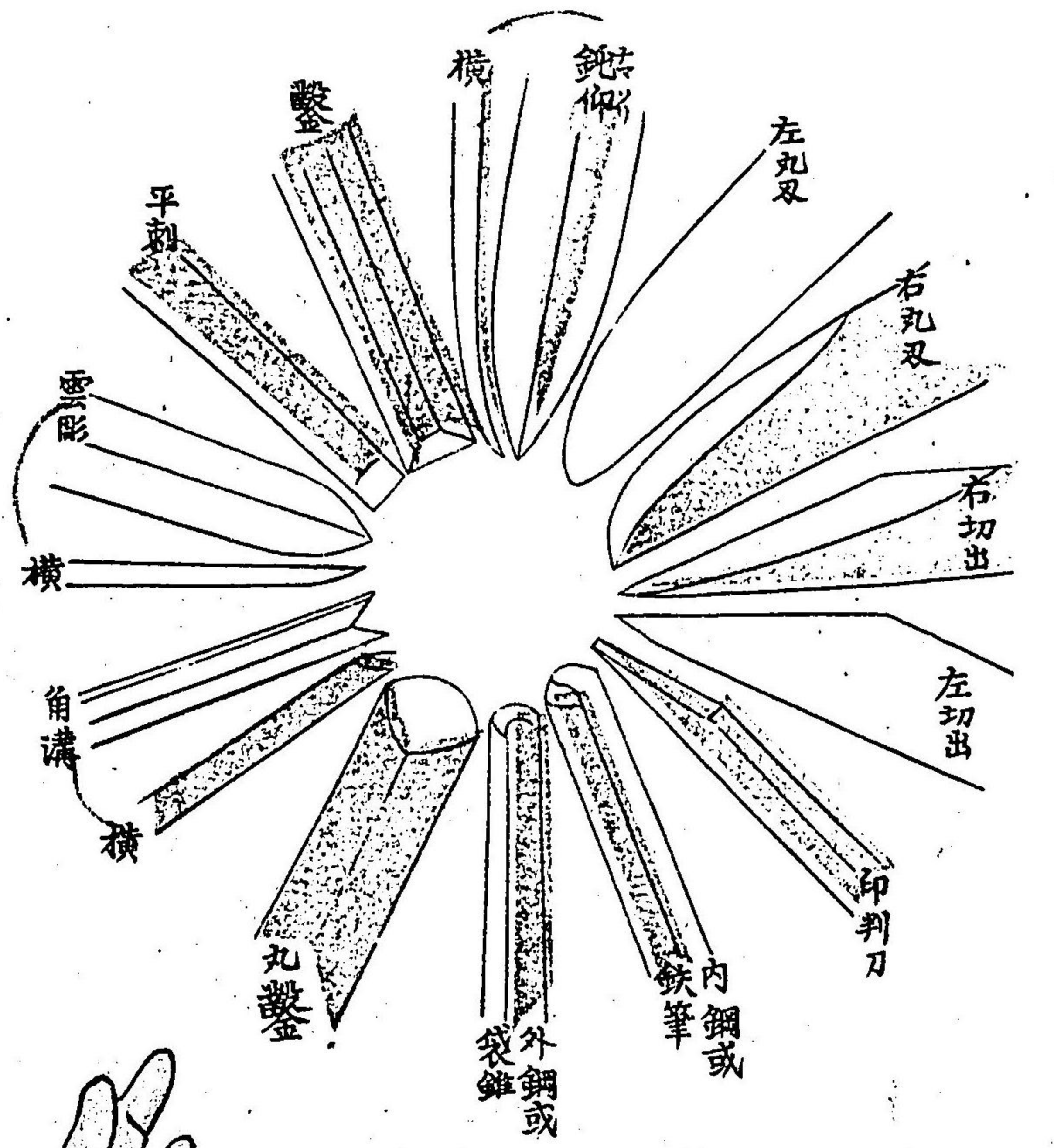
象牙刻ノ小刀ハ、其数多シト、虫刀形ハ、大抵圖ノ如キノ形ニ基ケリ、然レモ、
 礪ク片ニ當テヤ、其人ノ手ニ馴僻アリテ、小刀ノ刃ニ自ラ變態ヲ生セシ
 ムル也、
 而シテ
 ソノ小
 刀ニ凡
 ソ一形
 五六本
 ヲ要ス
 ル者十
 レハ都
 合百四
 五十本
 ヲ備ヘ
 サル可ラス、



四乾

拙ノ判ヲ下スニ、皆刀痕ヲ以テ批評スル者ナレハ、能ク小刀ヲ礪カサルヘ
 ケンヤ、尚十分彫刻物躰ニ就キテ精密ヲ尽サントスル片ハ、小刀ノ大小ヲ
 備フヘ
 ク、而シ
 テ又ノ
 付ケ容
 ハ、皆ソ
 ノ使フ
 所ノ場
 合ニ於
 テ自ラ
 エ夫ヲ
 回ラス
 ヘシ、

象牙骨角小刀二十四形併手付

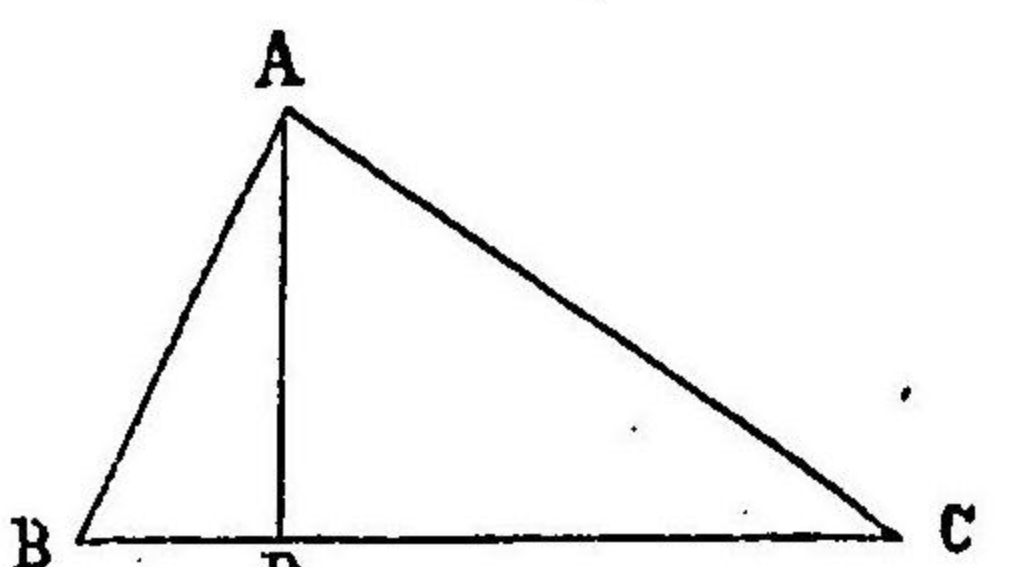
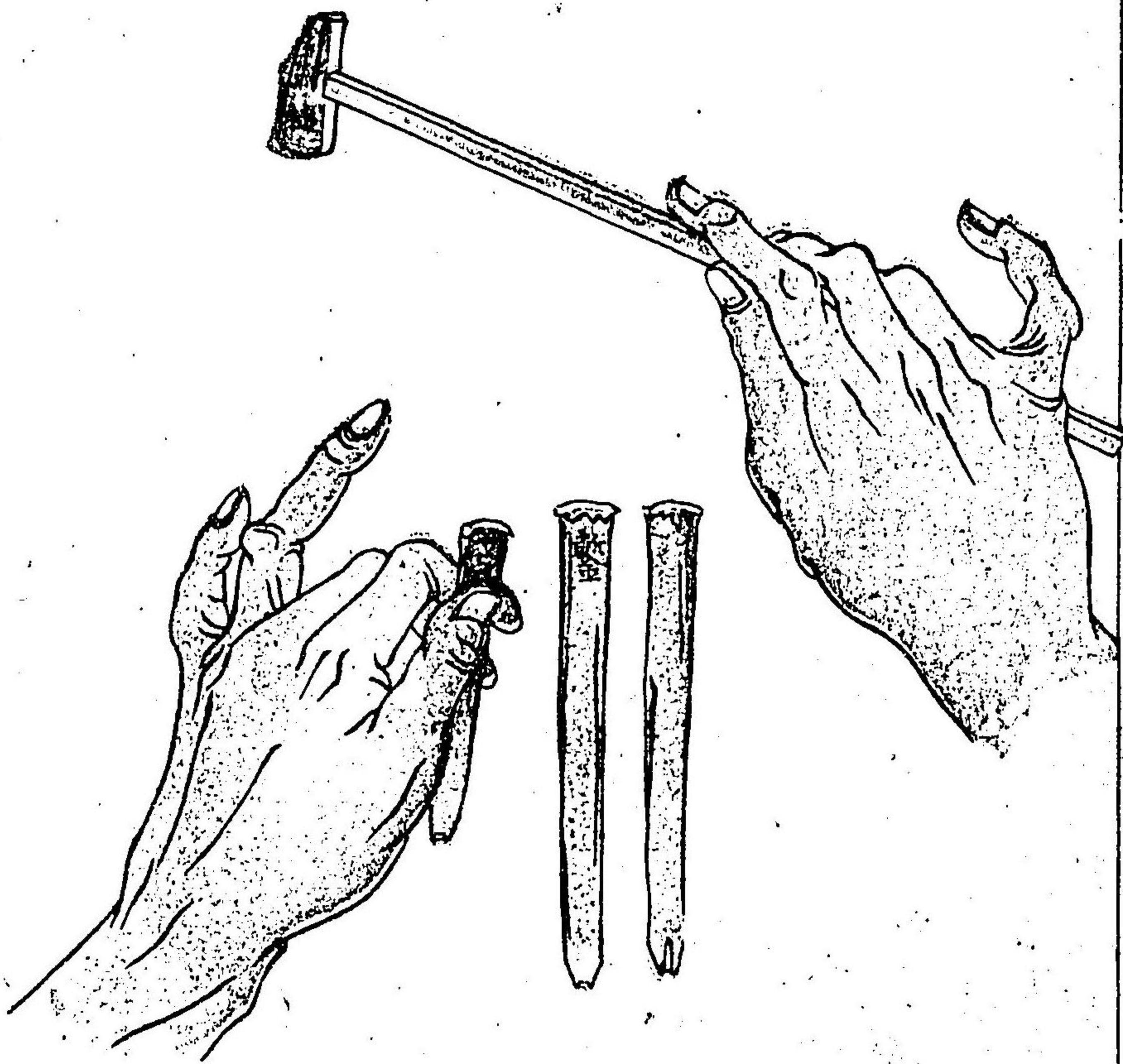


金屬刀併手付

金屬ヲ彫刻スルハ、他ノ木竹
 牙角ヲ彫刻スルト、其仕方大
 ニ異リテ、鑿ヲ使フ者ナレハ、
 槌ヲ以テ叩カサレハ、刀痕ヲ
 見セシムルヲ能ハス、故ニ圖
 ノ如ク鑿ノ形ト手付ヲ見テ
 其理ヲ考フヘシ、又ハ皆木竹
 牙角ニ用エル所ノ又ニ、稍急
 又ナルノミ、其種類ハ甚タ多
 クシテ三十五六品モアリ、彼
 是大小三百本餘ヲ用ユ、

比例線解

此ノ圖ハA、B、Cナル不等辺三角形ナリ、A点ヨリD点ニ垂線ヲ下シテO
 D線ハ法ト名ケ、D、B線ハ適用スヘキ物体ノ尺度トスル也、故ニ今ニ寸ノ



牙角ヲ碎ヒテ人躰ヲ造ルニ當テヤ、人間普通ノ身
 ノ丈ケハ五尺三寸ト定メ、而シテ腕ノ長ハ二尺五
 寸トカ、又顔ノ長ハ七寸トカノ連合ヒヲ以テ、二寸
 ノ牙角ニ當嵌ント欲スルモ物理上出未得ヘキニ
 非ラサレハ、一層之レヲ縮メテ、人躰ヲ

五寸三分ニ腕ヲ二寸五分ニ顔ヲ七分トス、而モ
 尚未タ二寸ノ材料ニ之レヲ適用スルヲ得サル
 カ為メ、是ニ於テ比例式ヲ以テ

$$(53 : 25) = 20 : 20 = 94 \frac{2}{3}$$

$$(53 : 25) = 20 : 20 = 26 \frac{2}{3}$$

シカ如キノ勞ヲ執ラサルヘカラス、
 夫レ如斯事ノ物ヲ彫刻スルニ從テ、
 筆算ヲ弄スルニ於テハ、煩雜究マリ

キ、故ニ之レカ繁文ヲ
 省畧セントスル片ハ、

三浦清俊傳ハリ

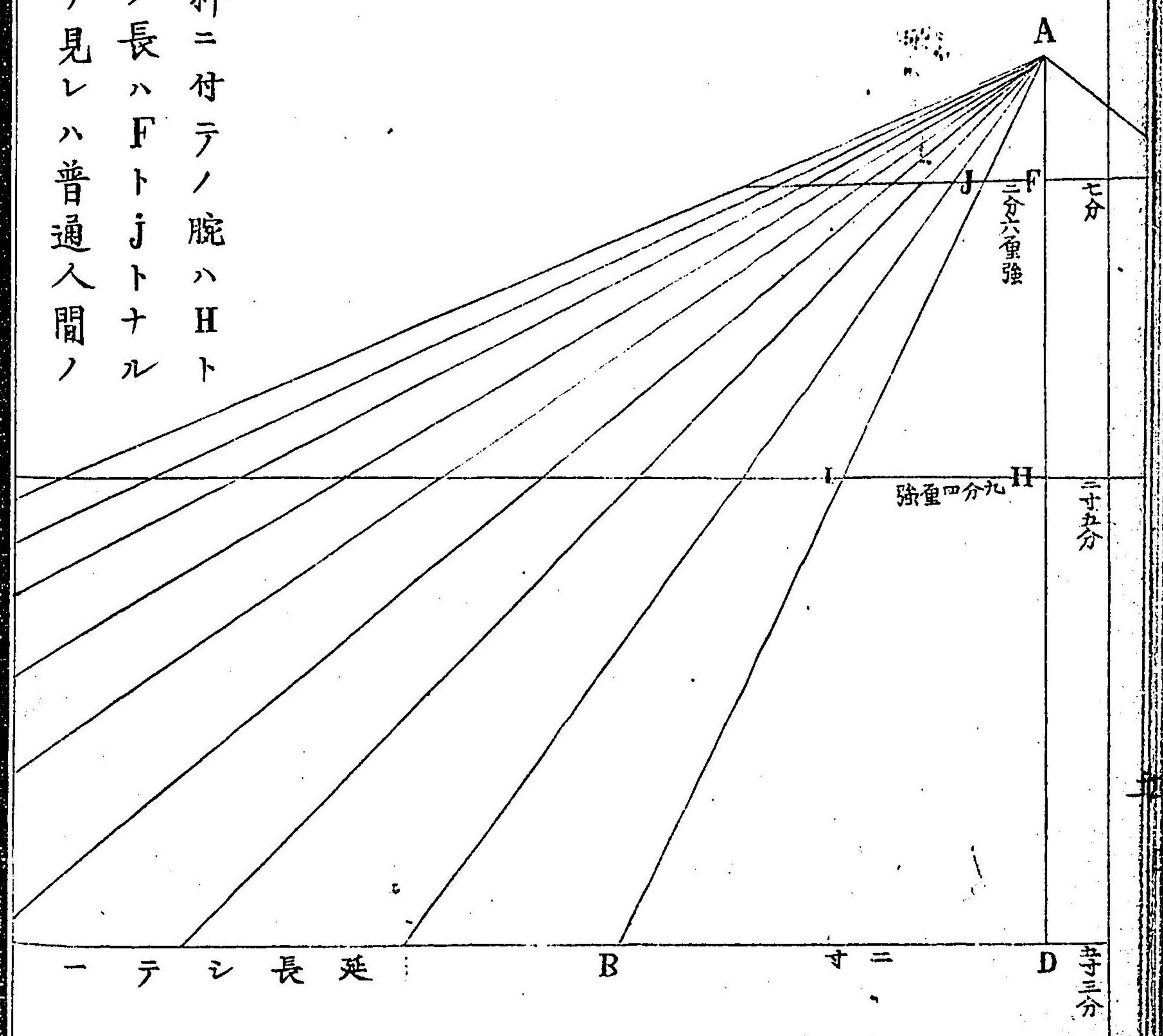
五寸三分

二寸五分

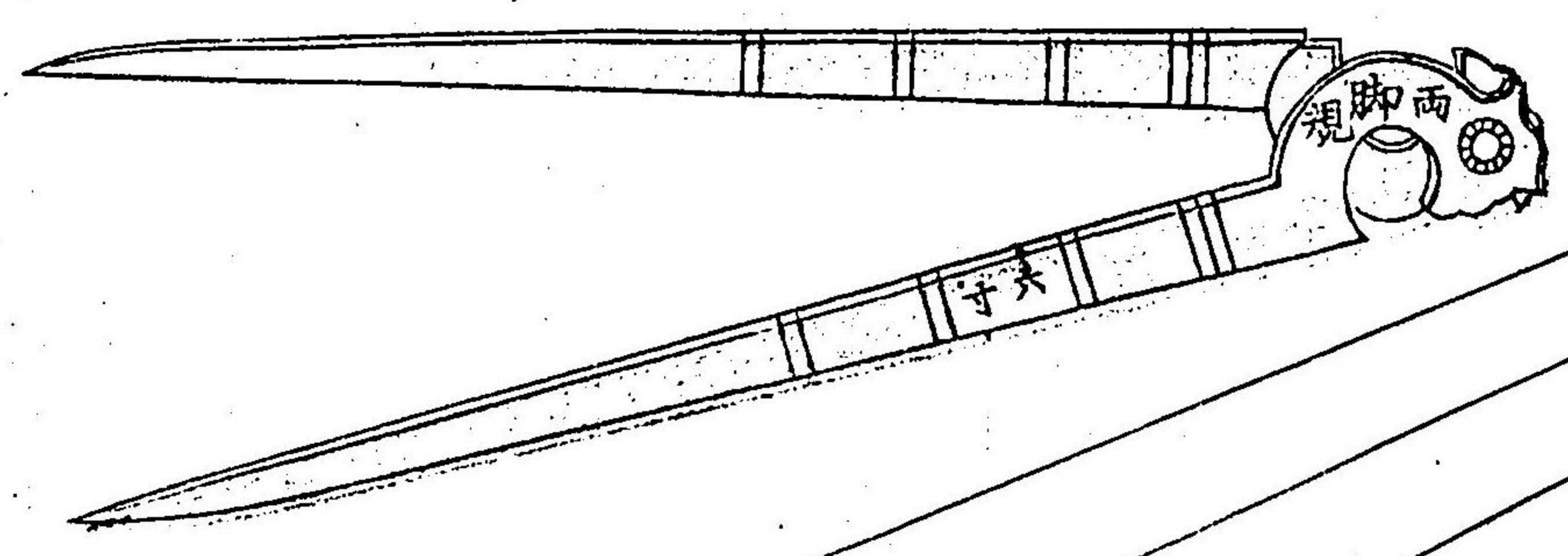
E
七分

五
乾

圖ノ如クスヘシ
 今DC線ノ間則
 子五寸三分ナル
 入躰ノ縮寸ナル
 ヲ定メ置キ尚延
 長シテB点ニ至
 リA点ヨリB点
 ニ邊線ヲ畫キ又
 GH線及ヒEF
 線ヲ延長シテI
 jトナシDBノ
 間ヲ即チ二寸ト
 スル片ハ二寸ノ材料ニ付テノ腕ハHト
 Iトナルヘク顔ノ長ハFトjトナル
 ヘシ是ヲ以テ之レヲ見レハ普通人間ノ



丈及手足等ノ寸法ヲ解スレハ其彫刻ス
 ヘキ牙角ノ長短ヲ問ハス手足顔貌等調
 度割合宜クスルヲ得ルナリ只其OD線
 及ヒDB線ノ長短ニ從ヒ則チ延長ノ如
 何ニ依テ顔及ヒ手足等ヲ比例シ得ヘキ
 ナリ例ヲ攀クレハ三尺ノ鶴ヲ六尺ノ材
 料ニ彫刻スルニ於テモ同シ理ニテ出未
 シ得ヘキ也故ニ既ニ明カナリ居リタル
 尺度ヲ兩脚規ヲ以テ之レヲ定メ置キ今
 新ニ求メント欲スル向キニ轉ジ其比例
 ヲ以テ彫刻セハ技藝ノ工拙ハ其人ニア
 リト虫躰ハ小格ニシテ頸太ク又顔小サ
 ク腕肥太ニ或ハ足長クシテ躰格ノ瘦細
 ナルカ如ク餘リ見苦敷繪画彫刻物ノ改
 良ヲ裨補スルニ庶幾ラレ歟



尺 延 ノ 用 = 拱 ス

比例尺解

先ツ圖ノ如ク尺度ヲ作り、A点ニ線線ヲ付ス、既ニ解説セシカ如ク人間ヲ五尺三寸ト定ムル片ハC点ニアル尺ヲ五寸三分ノ處ニ据置キ、又材料ヲ二寸ト定ムル片ハB点ニアル尺ヲ二寸ノ處ニ据置キ、而シテ

此ノ人
躰ニ對

シテ求ムル所ノ腕ノ長サニ寸五分トセハ、則チA点ニアル線線ヲ二寸五分ノ處ニ張ルヘシ、然ル片ハ其二寸ノ材料ニ對シテハ、B点ノ尺度ニ九分四厘幾等ト云距離ヲ見ルヘシ、即チ之レヲ西脚規ニ度リ采ツテ直ニ現品ノ材料ニ轉遷セハ前



尺ノ人 伊 沢

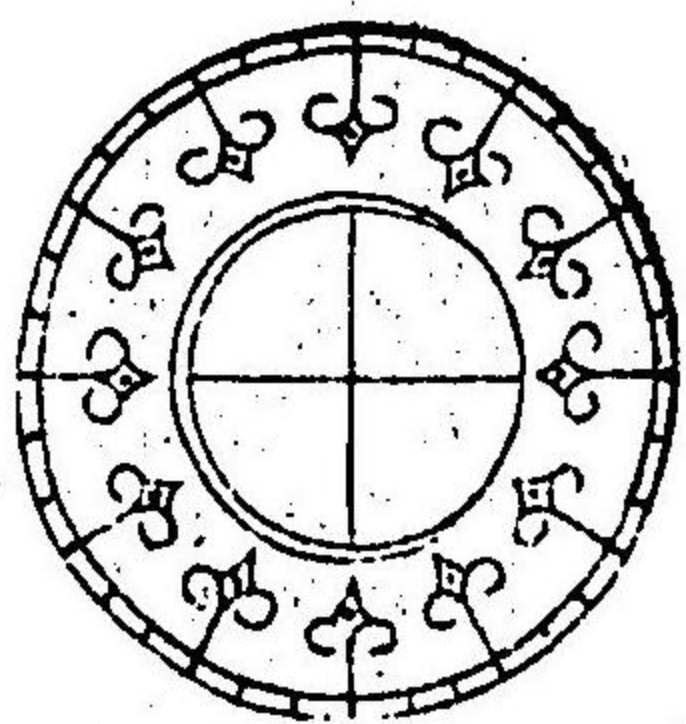
ノ比例

線ト同

クツノ



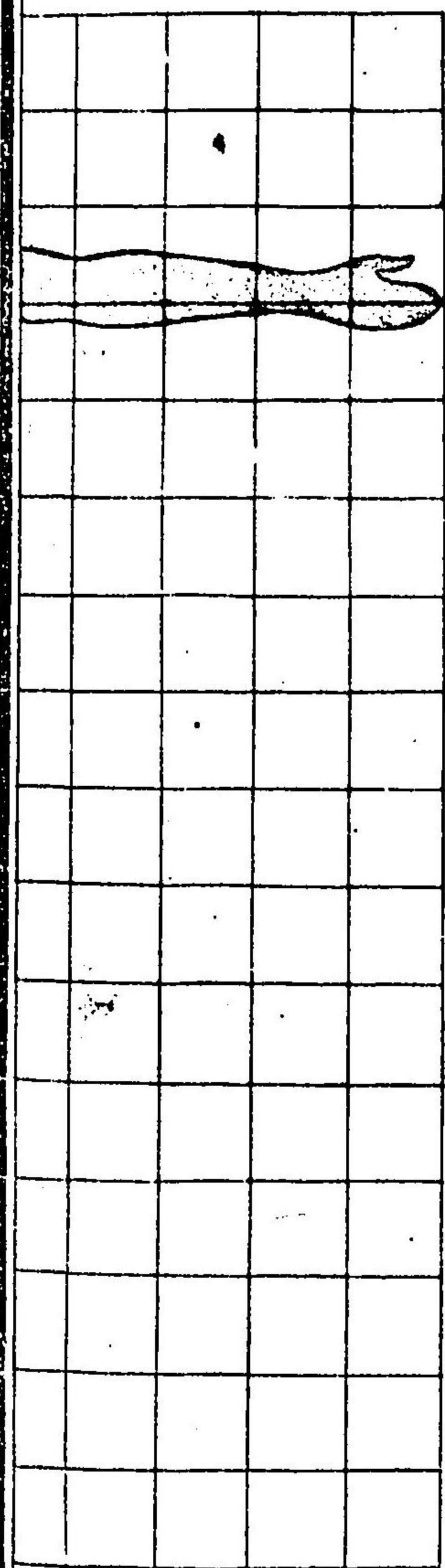
用ヲ達スルニ便ナルヘシ故ニ克ク此ノ比例尺ヲ精密ニ制作シテED二本ノ支尺ヲ左右ニ動かス
テ得セシメハ材料ノ大小長短ニ拘ラス自在ニ用ヲ達セシムヘシ亦新ニ二寸ノ材料ヲ變シテ四寸ノ龜ノ甲ヲ八寸ノ大ヒサニ作ラントスルニ當ツテモ同シ理屈ニテC点ニ接スル尺ヲツノ八寸ノ處ニ迂シB点ニ接スル尺ヲ四寸ノ處ニ進メハ大小度ル所皆同クD点ニ向テ線線ヲ張ルヘシ左レハEB尺ノ部内ヲ經過スル即チ龜ノ甲ノ巾三寸トスレハ其三寸ノ處ヲ見定メDC尺ノ部内ニ三寸ヲ倍獲シタル距離ヲ生スヘシ之レ即チ八寸ニ對シテノ寸法タルヲ知ルヘキナリ



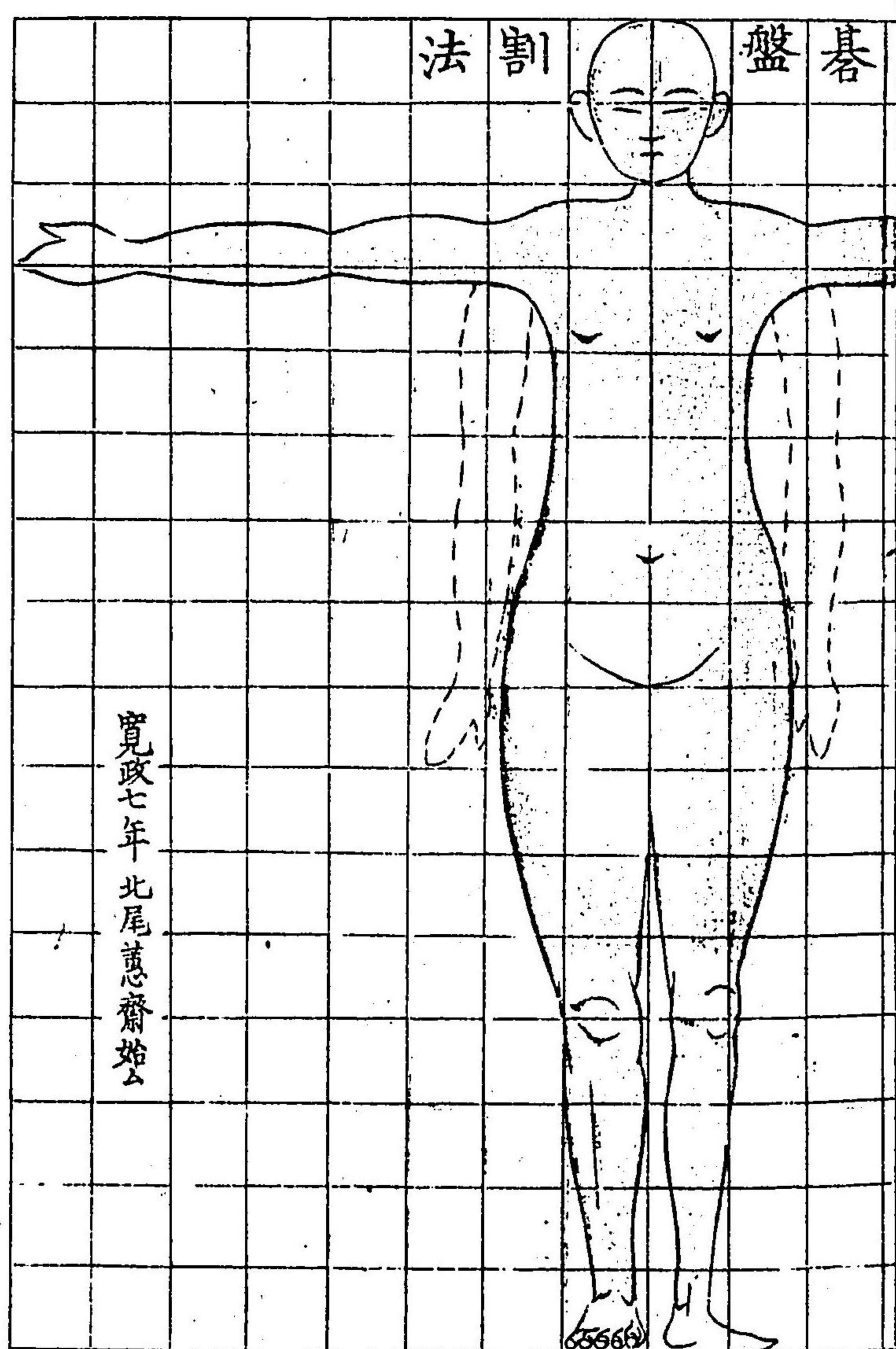
明 玉 始

人躰ノ割合

人躰ノ割方ニ四種アリ、何レモ其物ニ依テ應用セシ者ナレハ皆左ノ圖ヲ見テ悟ルヘシ。一ハ碁盤割トテ十六卦四面ノ圖ヲ製シ、以テソノ中央ニ人躰ノ形ヲ画ク。凡ハ骨格ノ割合宜キヲ得ルナリ。二ニハ六割法トテ頭ノ頂上ヨリ足ノ指底迄ノ寸法ヲ六寸ト見積ル。凡ハ之レヲ切半シテ三寸ノ処ハ即チ耻骨部ト定メ、是ヨリ上部ヲ三分ノ一部即チ一寸ヲ顔及頸トス。餘ノ二部ナルニ寸ヲ胸腹ニ充テヘシ。肩ノ廣サハ顔頭ヲ以テ準トセハ、則チ一寸ニシテ中心ヨリ左右ニ五分宛ヲ出タスヘシ。臂ト腕トハ一寸毎ニ屈接シテ五分ハ又チ手トナル。而シテ之レヲ左右ニ伸張スル。凡ハ両手ノ指先ヨリ六寸トナル。是レ亦タ碁盤割ト同シ。理屈ニシテ、只卦ヲ引クノ勞ヲ省クノミ、但皮肉ノ輪廓ヲ



画ク。凡ハ耻骨ノ下端ニ二分計ノ優餘ヲ置クヘシ。是レ所證坐点トモ名クヘキ哉。下部ハ即チ耻骨ヨリ足



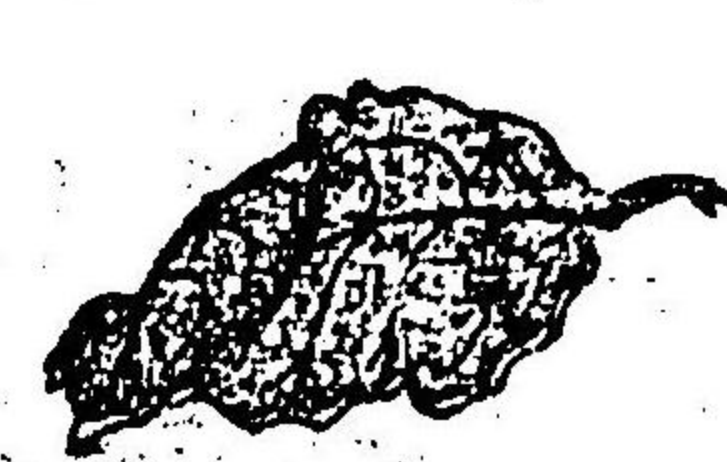
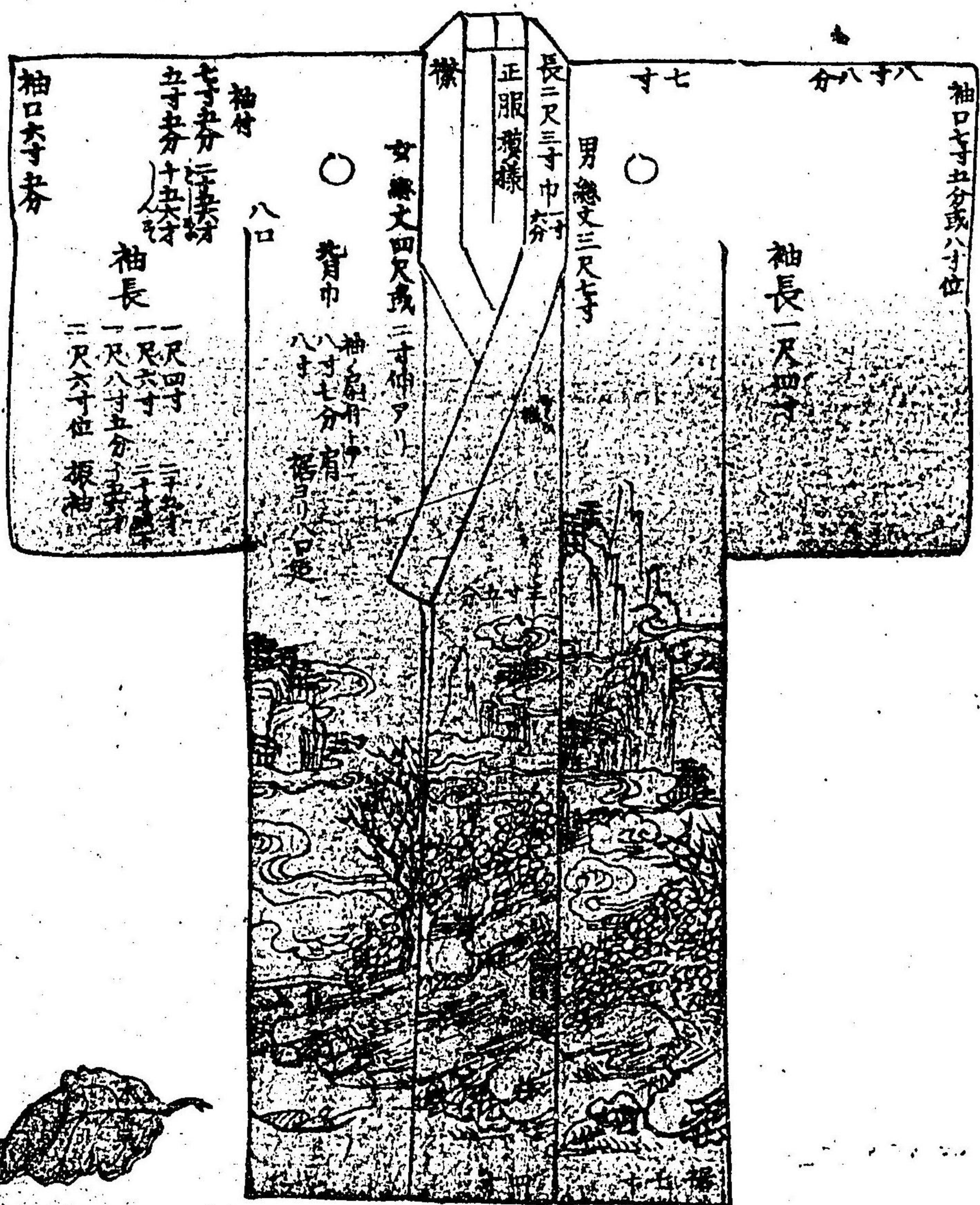
迄ヲ切半シタル一寸五分ノ処ヲ膝トセハ、割合甚タ全フスヘシ。三ニハ九割法トテ兒童ノ割方ナリ。凡テ小兒ハ徒然見ル。凡ハ頭部甚タ大ナリ。是レ身體ノ生育ハ支体ニ長スル者矣。小兒ヲ寫ス。凡ハ此ノ割方ニ基ケハ、ソノ連合ヲ失ハス。諸ソノ割方ハ頭ノ頂上ヨリ足ノ指底迄ヲ五分シテ、ソノ一部ヲ

寛政七年北尾蕙齋始

衣服

人跡ノ割方ハ前圖ノ解釋ヲ以テ畧知ルヲ得ルモ之レニ如何ナルモノ
 ヲ着ケテ装ヒヲナスヤ果シテ衣服ヲ以テ肉体ヲ翳ス丁音人ノ常ニ知ル
 処ナリ然ルニ僅カク衣服ノ為メニ人体ノ外貌ニ變革ノ生スルヲ尤モ
 多ク就中繪画彫刻ニハ概テ名ケテ衣紋ト云四季アリ模様ヲ殊ニス都鄙
 アリ貴賤アリ皆以テ形容ヲ分ツ衣服ノ功用亦大ナリ人物ヲ描クヲ學
 テ日々已レカ心ヲ修メ已レカ手ヲ磨キ致シ挽マサレハ自然ツノ手ニ光
 輝ヲ發スルヲ自己ノ甚タ近キヨリスル処ナリ然ルヲ吾人共ニ之レヲ棄
 テ、只々人ノ製圖或ハ筆痕ニ依頼シテ自治ノ力ニ乏ク古今大家カ名筆
 良刻ヲ見テ是レニ迷フヲ多シ自己カ技藝ノ光輝ハ修業ノ餘ニアルヲ知
 ラスシテ克ク人ノ筆痕ヲ模範トスルヲノミ之レ務ムルヲ勿レ噫終身師
 ニ學テ師ニ如カサルハ是レ則チ古人ノ遺言ナリ然レモ尚筆痕ヲノミ模
 擬スルノ道ニ趣キキハ人情ノ通弊ナレハ克ク自ラ考ヘテ以テ千遍万
 習ノ餘ハ雛形漸ク進ンテ画トナリ彫刻トナルノ意ヲ慮ルヘシ借上古未
 タ人間タルノ名ヲ知ラサル以前ハ果シテ人ハ諸動物ノ間ニ混交シテ躰

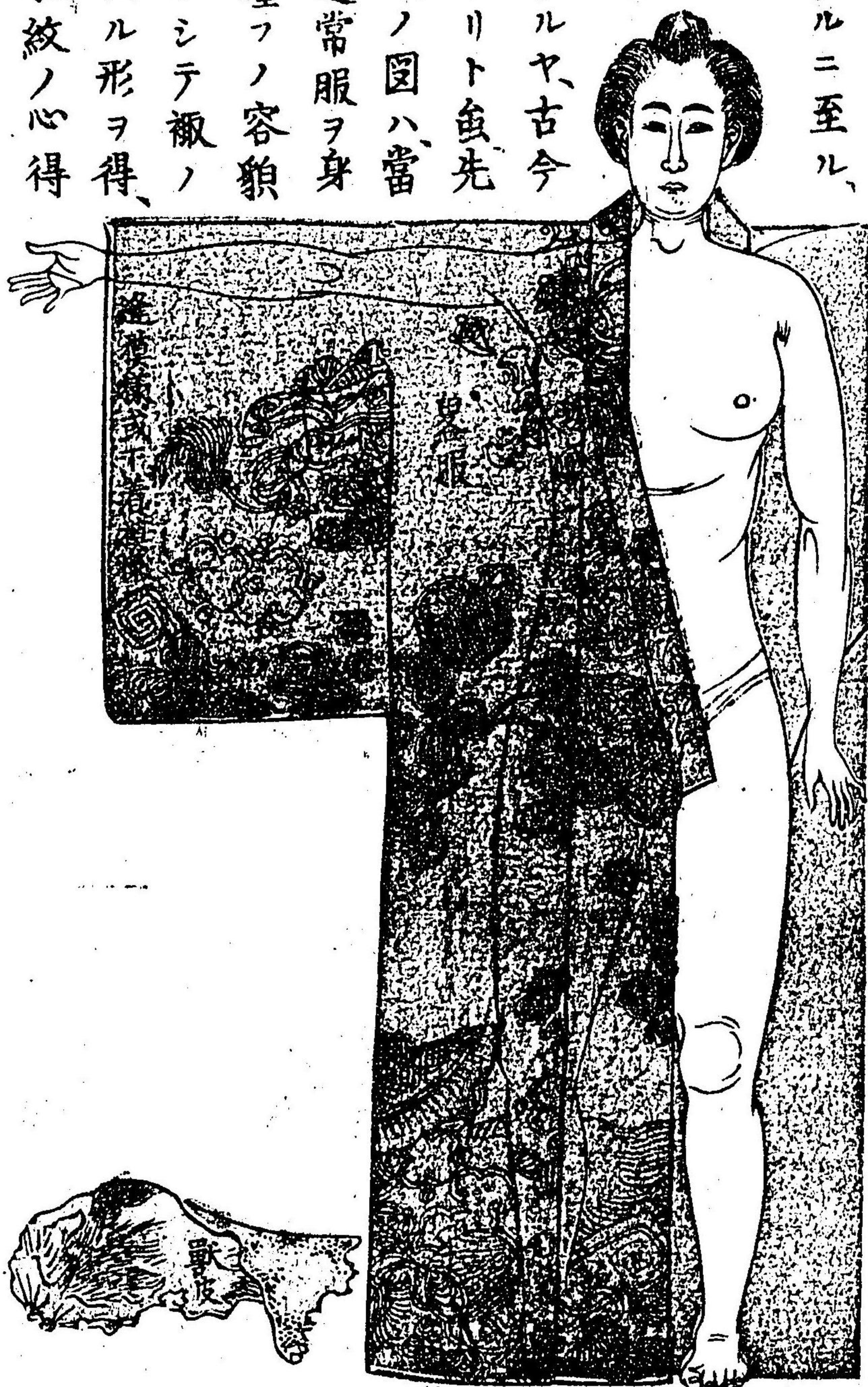
蟲ノ部内タルヲ疑ヒナシ然ルニ人事關ケテ禽獸ト全クソノ智恵ヲ異ニ
 スルヲ悟
 リタル以上
 ハ自ラ人間
 タルノ分定
 マリ各義務
 ヲ帯フルノ
 世界トナル
 茲ニ於テカ
 始メテ貴賤
 上下ヲ示ス
 ニ衣服ニア
 ラサレハ其
 躰ヲ別ツ
 能ハス又寒



身章撮要云
 衣服身之章
 也古者未
 有絲麻而
 衣鳥獸之
 皮自義黃
 而降衣裝
 制興聖人
 物取義乾
 莫不有制
 寓乎其間
 者或曰周
 抱成王宴
 故施袍居

描法十八則
 高古遊絲描
 琴絲紋描
 線描行雲流
 水描馬蝗描
 葉描釘頭鼠
 尾描柳葉描
 曹衣描釘頭
 泥描竹葉描
 折芦描葉枝
 描水紋描枯
 柴描減筆描

熱ヲ防ク一能ハス木葉ヲ綴リ羽毛ヲ編シテソノ身ニ纏フ一ハ則チ衣服
 ノ始メニシテ漸ク年ヲ歷月ヲ重ヌルニ隨ヒ思情日ニ濃カニシテ寒熱ノ
 加減ヲ慮リ禮式通常ノ裝飾及ヒソノ模様ノ分別ヲ創造シテ以テ衣服ヲ
 着クルニ至ル
 而シ
 テソ
 ノ服
 制タルヤ古今
 殊ナリト魚先
 ツ此ノ圖ハ當
 世通常服ヲ身
 ニ纏フノ容貌
 ヲ示シテ概ノ
 生スル形ヲ得
 聊衣紋ノ心得

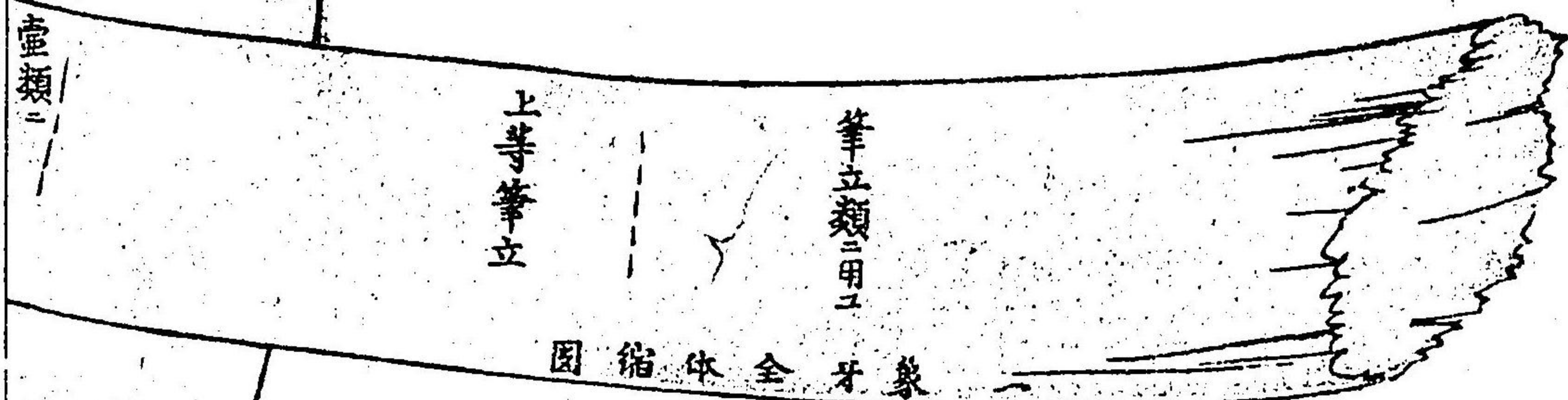


フ傳フルノミ
 是レヲ心得テ
 後運筆ノ發達
 運刀ノ截味各
 其心意ニ任セ
 修業
 ノ成
 切ヲ
 待テ以テ
 世ニ顯セ
 ハ當ラス
 ト虫遠ラサル
 ノ繪画或ハ彫
 刻品ヲ製作ス
 ルコトヲ得ン



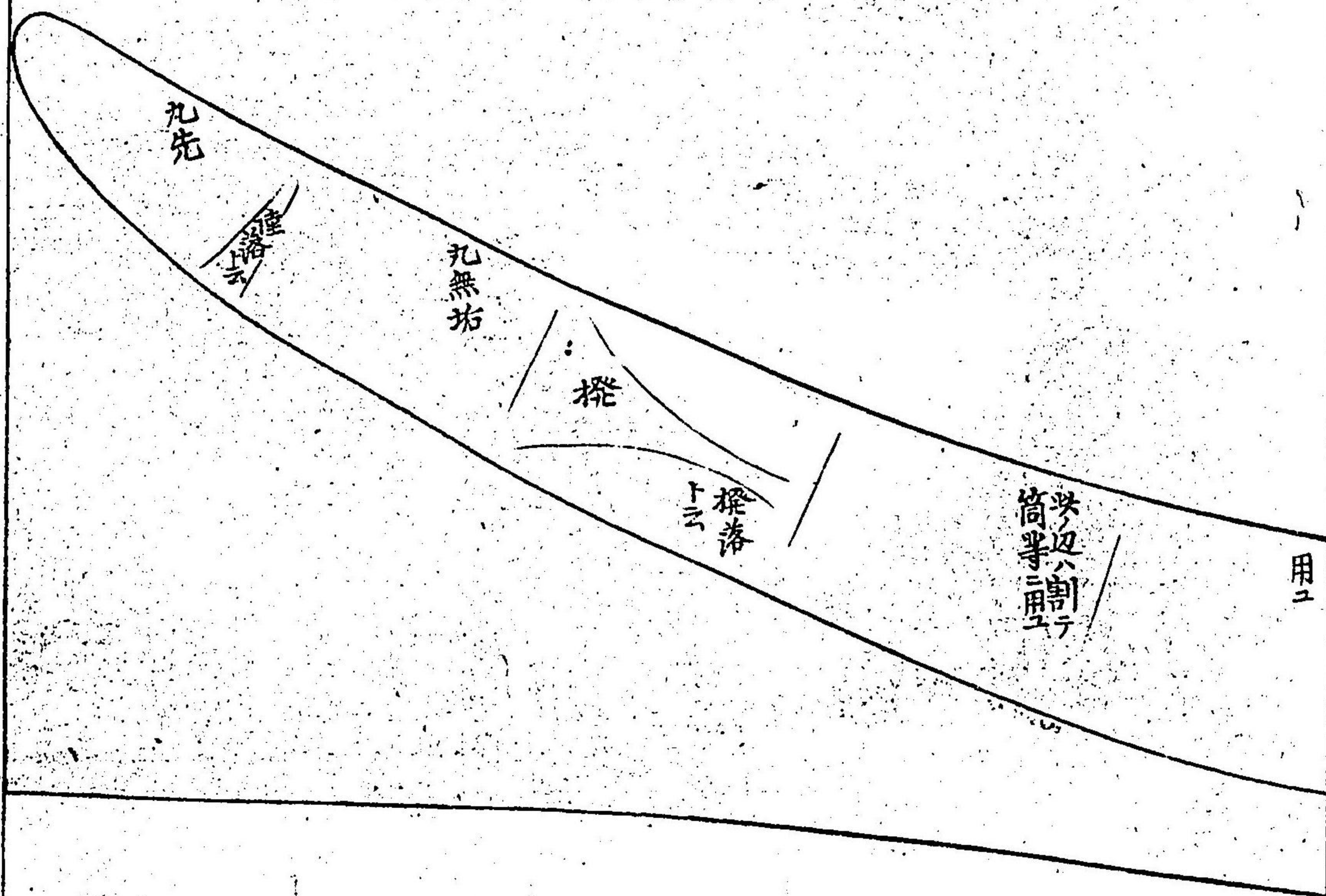
象牙

象牙ノ全躰ハ四ノ如キ者ニシテ是レニ大小アリ
 其大ナル者ハ長九尺輪切ニシテ無垢ナル処直經
 七寸餘アリ其重量ハ凡ソ十八貫目ヲ呈ス小ナル
 者ハ呎レヲ半房水地ト称ヘ長二尺ニシテ輪切ノ
 直經一寸八分重量凡ソ五六百目アリ呎ノ質タル
 ヤ水色ヲ含テ点目細密ニ味アル水地多クハ安南
 水地ト称ヘテ其價貴ク点目粗麁ニシテ輒モスレ
 ハ割レノ生スルヲ印度水地ト称スルカ印度水地
 ハ磨ク時モ稍勞力ヲ加ヘサレハ光澤生セスシテ
 着色ノ時ニ當テハ班点ノ生スルヲ免レス而シテ
 亦此ノ一般磨クヘキ事
 実ハ実業者ノ克ク知ル
 処ニシテ別ケテ述ル
 ヲ欲セサレト只素人ノ

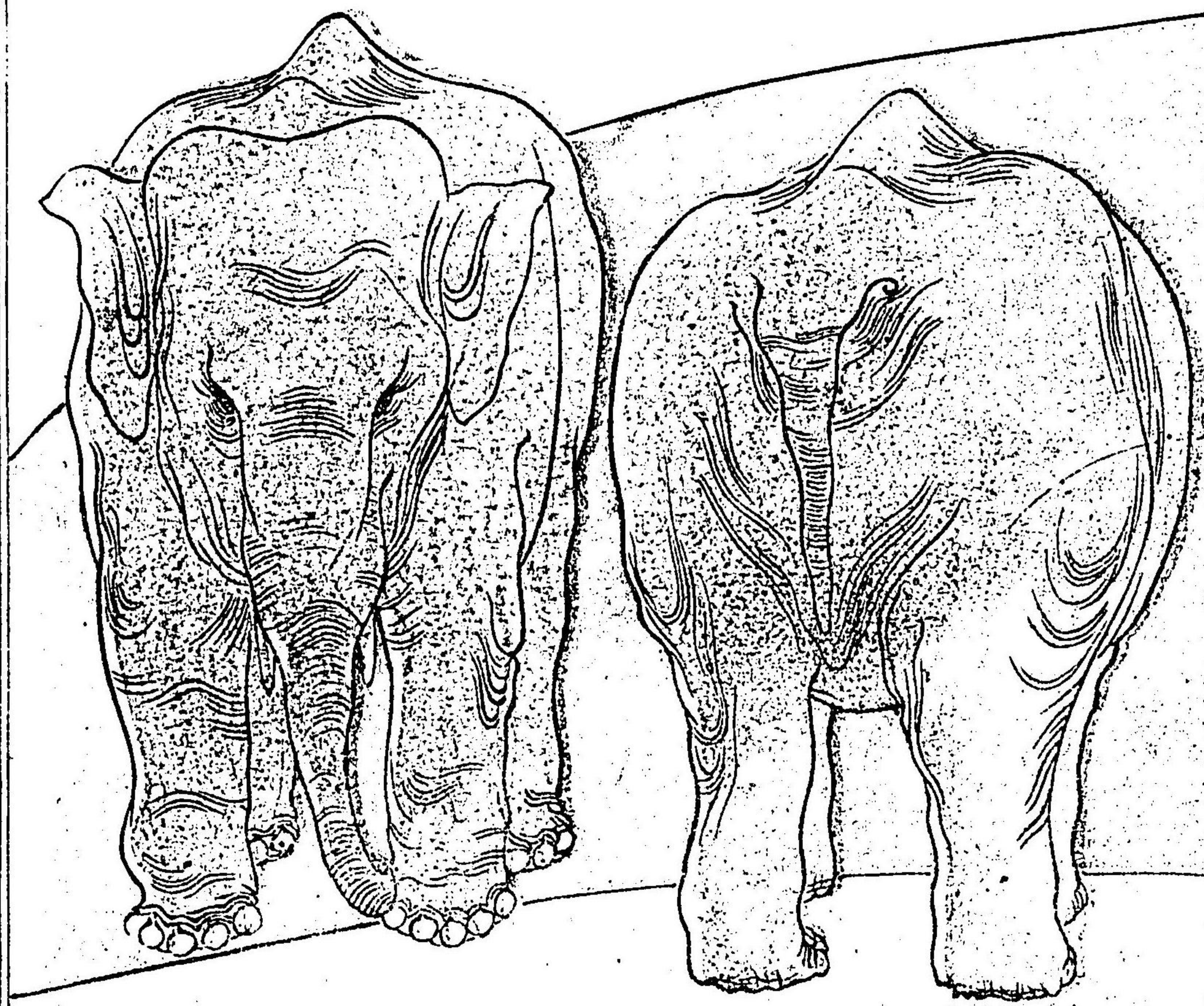


為メニ聊其仕方ヲ述ヘ
 ン其磨クヘキ物品ハ木
 賊掠葉磨砂角粉或ハ新
 藁トス皆之レヲ水ニ浸
 シテ其潤タル後幾偏ト
 ナク他ヲ觀ニス腕ノ勞
 痕ヲ恐レス一心ニ磨擦
 セサレハ光澤ヲ生セシ
 ムルヲ能ハス尚又精密
 ナル彫刻物ノ間隙ヲ磨
 ク片掠葉ヲ使フ自由
 ナラス故ニ楊枝ニ精粹
 ナル砂或ハ角粉ヲ付着
 シ以テ磨擦セハ刀痕ヲ
 失ハスシテ光澤ノ生ス

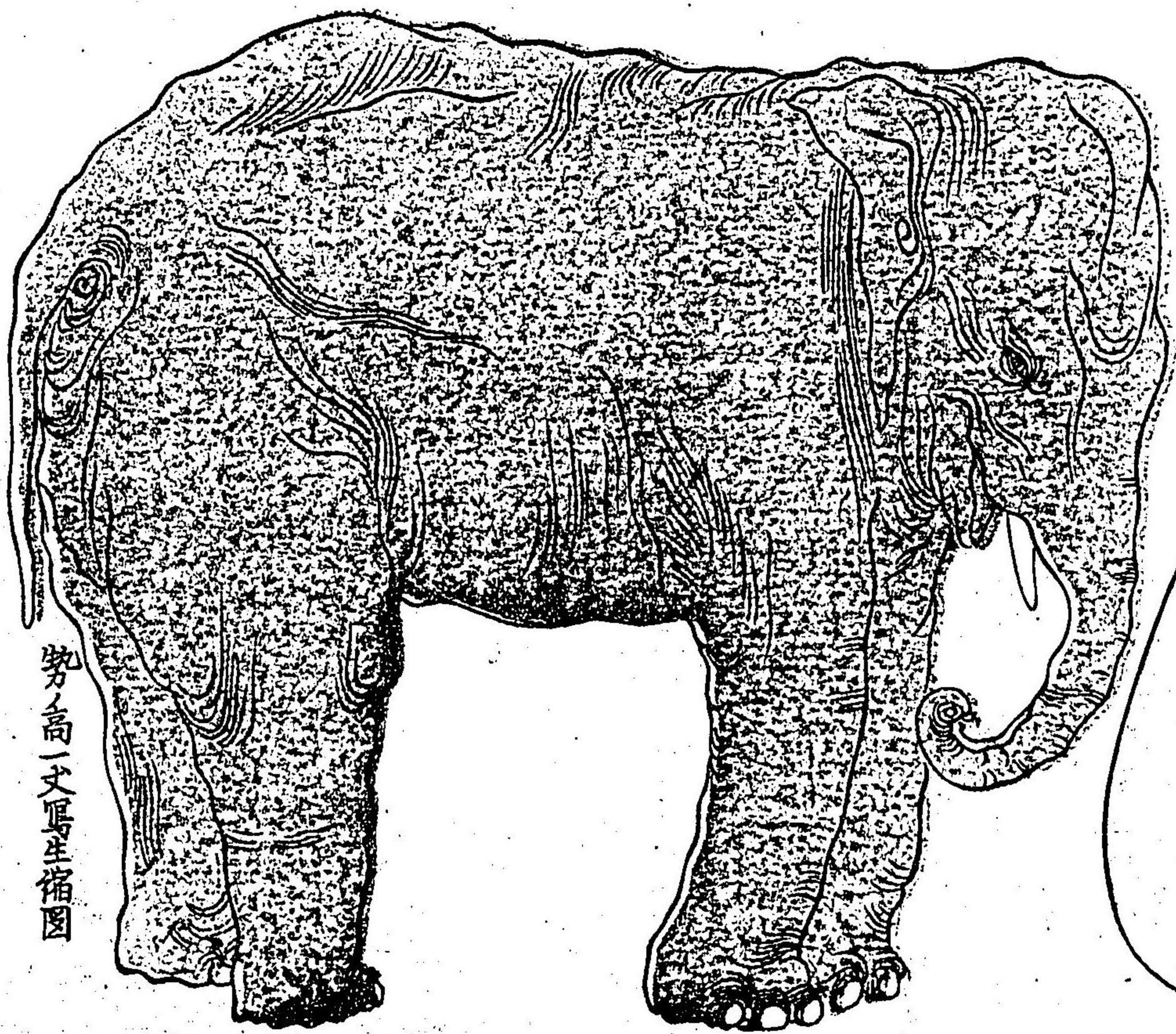
大丸先現品如圖重量一貫二百目代價凡四拾五圓



ルアリ、而シテ堅實ノ象
 牙ハ、掠葉ヲ要スレ、木
 賊ヲ用サルヲ好シトス
 古ヨリ象牙ヲ貴重スル
 ハ深ク其意ヲ傳ヘサレ
 凡、其象タルヤ、千斤ノ重
 キヲ載セテ重シトセス
 馴レテ變スヘキ、迅ノ一
 大獸自ラ他ノ走獸ト異
 ナリ、克ク語音ヲ弁ス、壽
 亦長シテ命數ヲ知ル人
 稀ナリ、兩長牙アリ、頭俯
 シ可ラス、頸回シ可ラス
 口、曠ヲ隱ス、地ヲ去ル
 遠シ、運動鼻ヲ以テ用ヲ



ナシ一軀ノ力皆鼻ニア
 リ、將ニ行ントスル片先
 鼻ヲ地ニ柱シ以テ足ヲ
 移シ、殊ニ鼻孔深ク、開闢
 以テ物ヲ取ル、水ヲ飲ム
 ニモ鼻ヲ以テ吸テ之ヲ
 捲ク、足柱ノ如ク指ナク
 只凡甲アリ、前ハ五個、後
 ハ四個、形粟ノ如シ、幾歳
 ニシテ一度牙ヲ換ルヤ
 脱スル片深ク之レヲ藏
 ス、故ニ削木ヲ以テ之レ
 ニ代フル片ハ漸ニシテ
 得ヘシト、象牙ノ得難キ
 ハ金玉ト均スルモ宜ナ



勢高一丈寫生備圖

子曰射有似
乎君子失諸
正鵠反求諸
其身

ル哉殊ニ彫刻家之レヲ得テ稍慮ヲ廻ラサ、ル可ラス心智ヲ施サ、ル可
ラス、一個ノ片塊モ其人ノ智能ニ由テ奇觀ヲ顯ハス、無用ノ牙塊、變シテ有
用ノ物体トナル豈ニ技術家ノ智慧ト云ハサルヲ得ンヤ、予ヲ張テ鴻鶴ヲ
得ント欲セハ先ツ其心ヲ正フス、且ツ其畧ヲ利ストハ是レ如何ナル意ヲ
指シナルヤ深ク推察セサルヘカラス、從是以下ハ右ノ刀鋸等ヲ借テ其順
序ニ基キ、実物实体ニ當リ、題ヲ設ケテ以テ其道具ノ働キヲ試ミレ矣、

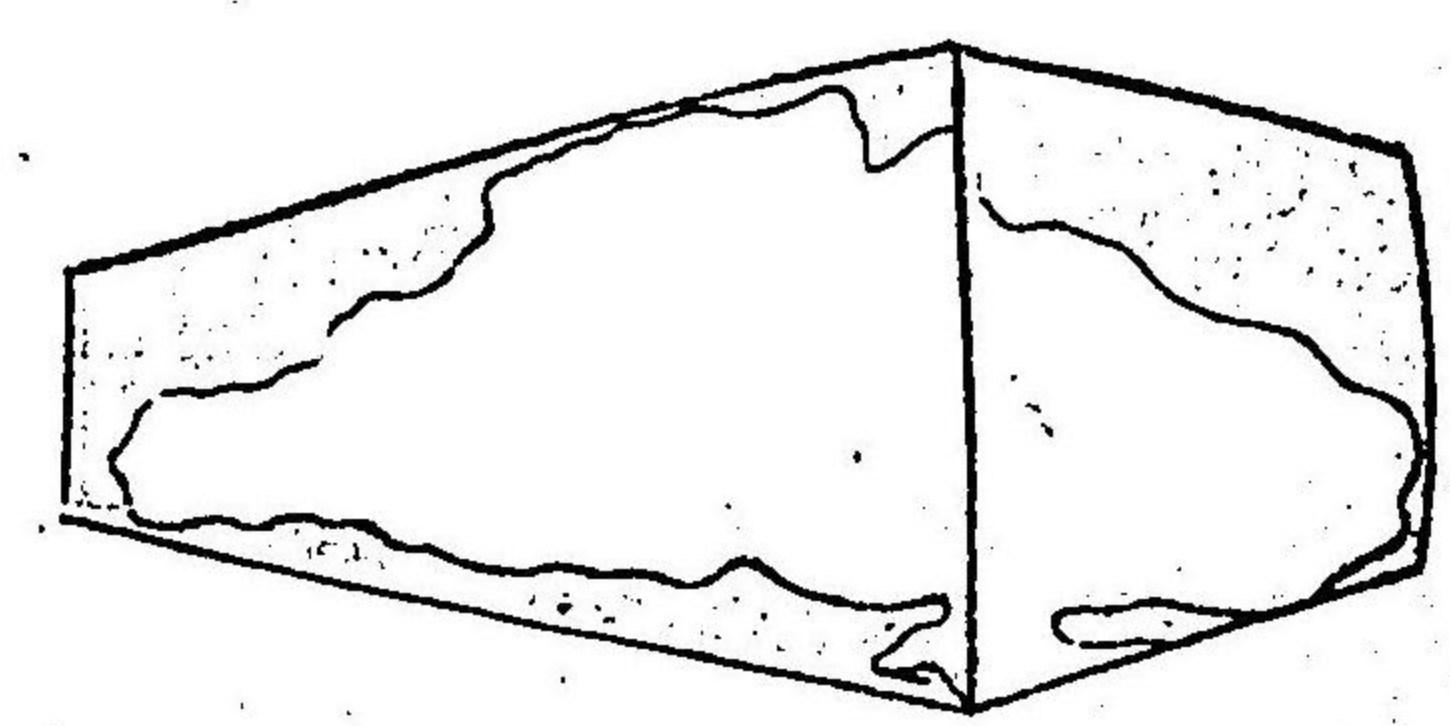
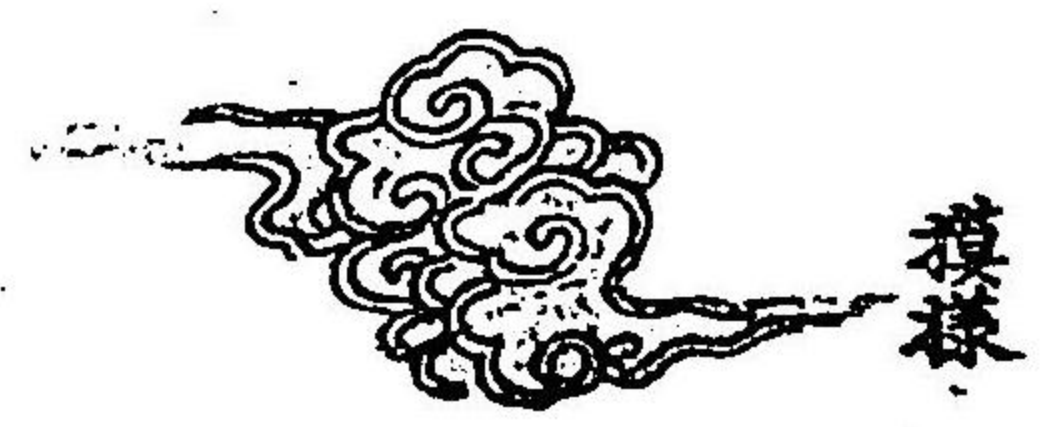
題意

千百人目的ヲ同フシテ、進路ヲ定メ、無形上ノ思慮ヲ發起セシムルハ、題ヲ
以テ引誘セサルヲ得サル者ナリ、所謂一隅ヲ舉ゲテ三隅ヲ及スノ理ニシ
テ、各意匠ニ依リ、小心ト云一事ヲ遺サス、放膽ト云神情活動シテ、自ラ是等
ニ分別生シ、偶其目的ヲ同クスルモ、製体ノ變化必スソノ人ニ起ルヘシ、今
吾儕リニ政和ノ世ニ生レ、徽宗皇帝カ竹鎖橋邊賣酒家、踏花歸去馬蹄香ト
次ノ二題ヲ命セラルレハ、如何ナル工夫ヲ回ラスヤ、酒家ト花トニ注目ス
ルトハ、吾人等ノ通例タルヘシ、然ルニソノ魁選ニ中リタル善画ハ、橋頭竹
外ニ於テ一酒帘ヲ掛ケテ酒字ヲ書スル而已ト、教蝴蝶ヲ掃テ飛テ馬後ヲ

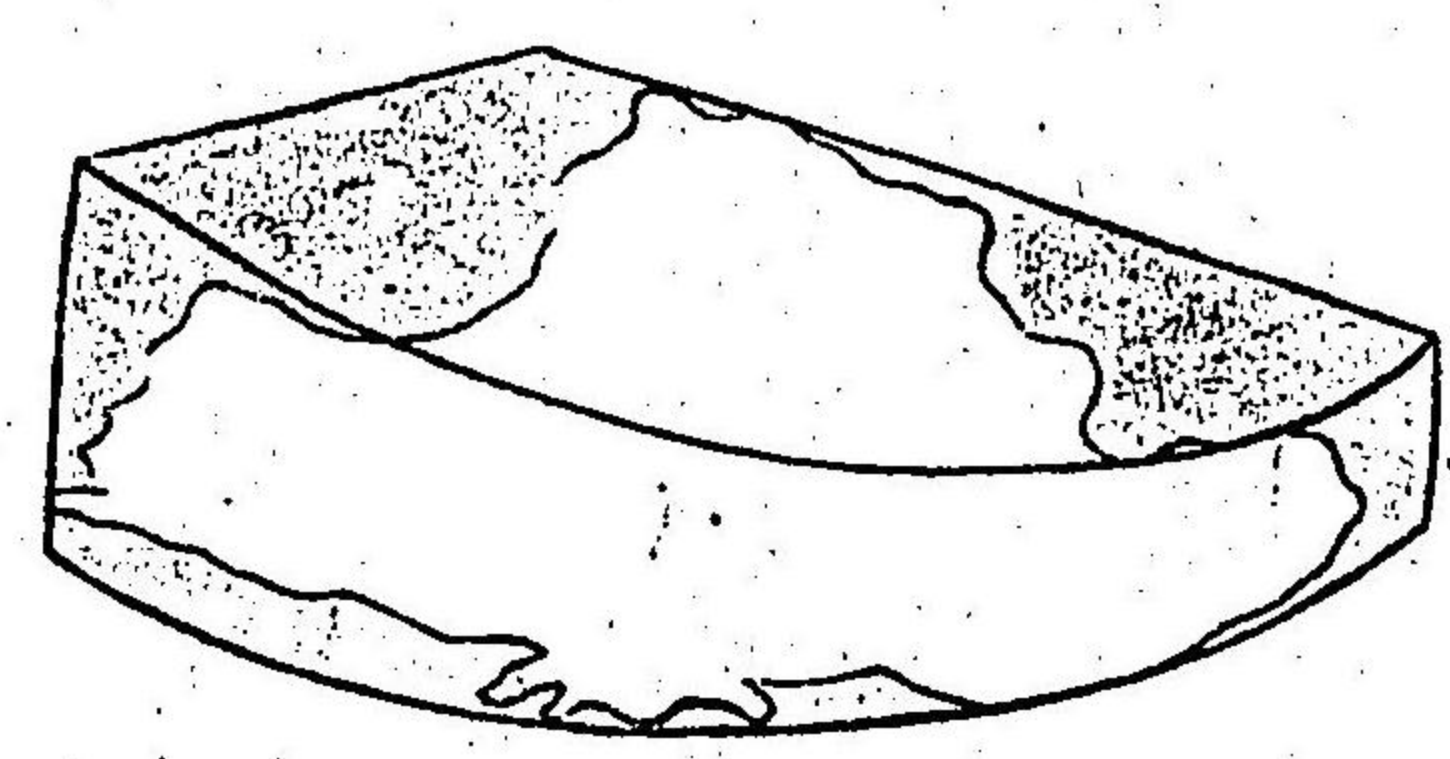
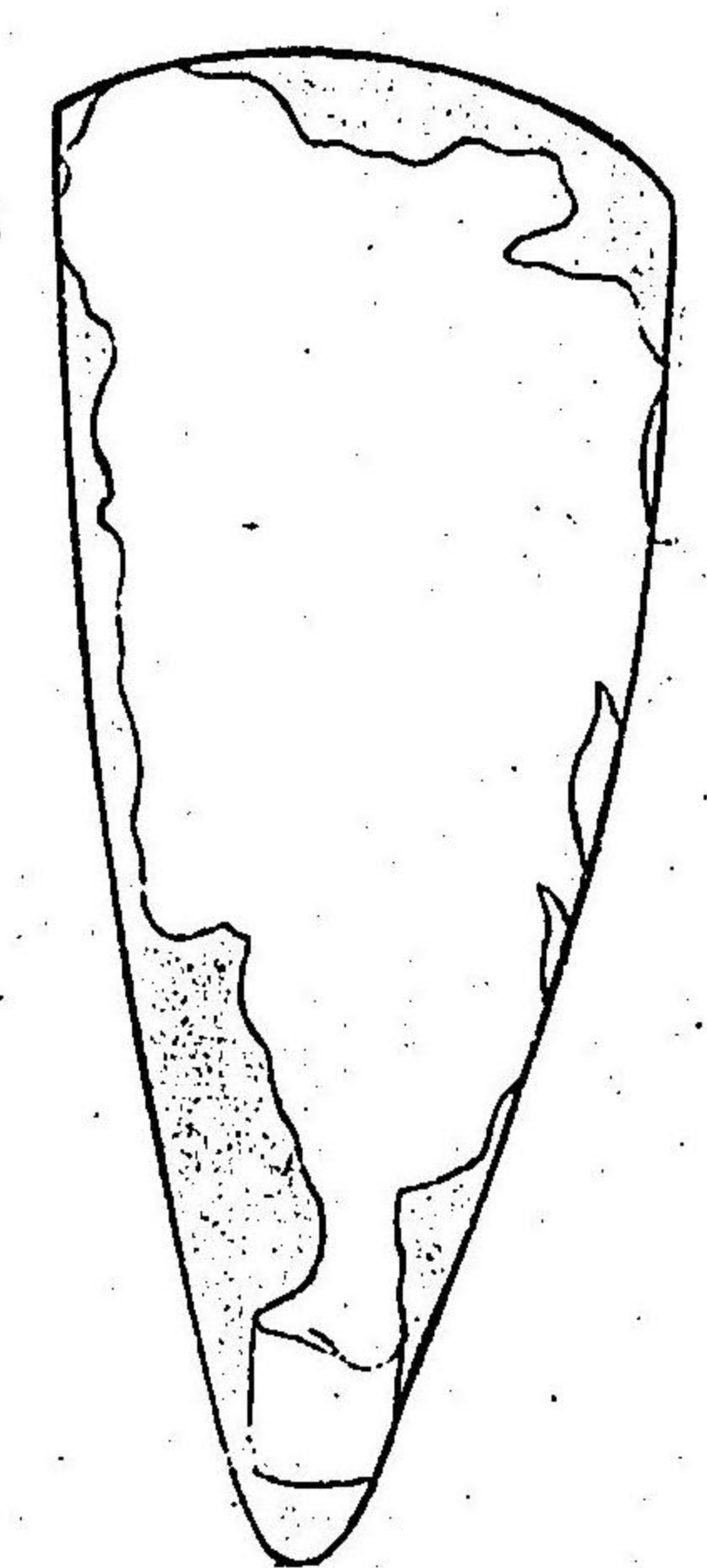
逐フ而已トハ、皆意外ニ出テ、其意ヲ形容シ得テ尤モ妙ナルヘシ、凡テ問
題上ニ向テ意味ヲ論スルキハ、直接間接アリ、厩戸皇子、菅原道真ノ肖像ト
云ヘハ、即チ直接ニシテ、深意ノ在アルニ非ラス、一路清廉之図、一品當朝之
図、杯トハ、意味間接ニシテ、之レヲ隱題ト称ヘ、則チ音相通スルヲ以テ、描ク
ト多シ、一路ノ路ハ、鷺ト音相通シテ、水邊葦葭ニ鷺ヲ描クヲ以テ、其意ヲ表
ハス、亦濱邊ノ浪ノ擣ヂタル処ニ、鶴ノ居ル畫ヲ描クヲ、之レヲ一品當朝之
図ト題スルナリ、是昔文一品ノ官位ノ服ノ衣紋ハ、仙鶴ノ補子ナリ、故ニ一
品ハ、一濱ニ音相通シ、當朝ハ、當潮ニ音相通シタル故ニ、文一品官ノ朝庭ニ
當スルト、云意ヲ祝シテ、一ノ濱邊ニ、鶴ノ居ル畫ヲ掛ケテ、文官ノ人ヲ請フ
ニ、用ユルナリト、堂上白頭、福祿壽、玉堂富貴、一笑、桃柳四燕、九臯鳴鶴、雞群鶴
立ノ類ハ、皆間接ノ隱題ナリ、亦山水ノ画題ハ、多ク直接ノ命題ナリト、畫文
意ニ牽束セラレテ、文句ノ儘ノミニ、許リ描キテハ、繪画ノ趣向、甚タ薄ク、且
ツ氣韻風致ニ乏シ、故ニ、四趣四季トテ、一ハ遠近、二ハ道路、三ハ水湖、四ハ堂
宇是等ノ位置經營ヲ心得テ、後文句ハ、規矩ニ据置キ、文意ノ外ノ餘情、人深
クアラレトテ、描キ、且ツ彫刻スルハ、美術家ノ本色トセサルヲ得ンヤ

在山泉水清
 出山泉水濁
 社子美
 避世嫌山茂
 連入藏姓稀
 崔塗

一 避俗愛鈍
 象牙丸先陸落^{ロウゾウ}合木地 高二寸七分 蝦蟇之廣三寸一分
 明治十九年三月廿六日作

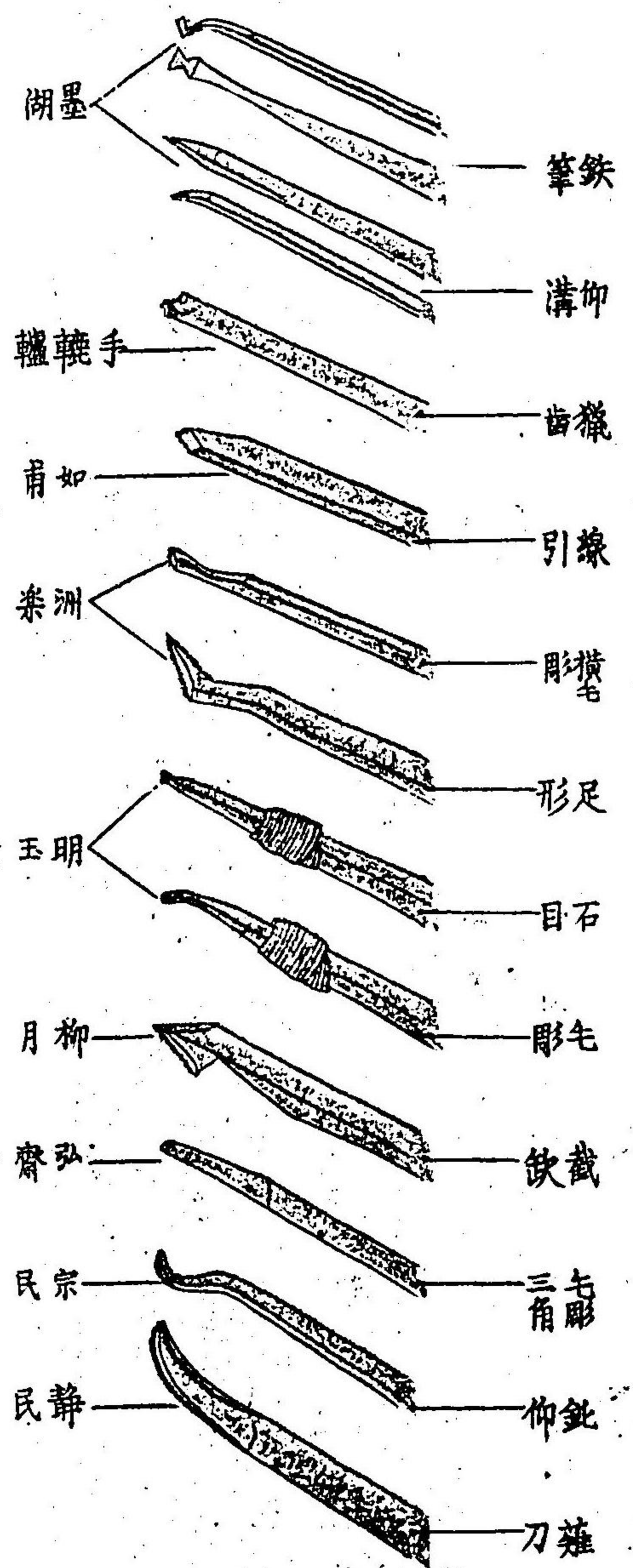


背面寫生



變形小刀

前ニ掲ケタル小刀ヲ以テ一般ノ彫刻ヲナシ得ルト雖モ更ニ又左ニ載セタル諸形ノ小刀ヲ用ユレハ大ニ便利ヲ感スヘシ是皆實業者カ彫リノ模様彫リ等ノ仕上ノ場合ニ臨ミ適宜ニ改良シタルモノニシテ其鋒ト柄ノ長短ハ各自ノ便宜ニ造レルモノナリ總テ是等ヲ研ク片ニ尤モ砥石ヲ撰ハサルヘカラス蓋シ截味ハ元ヨリ下鋼ニアリト雖モ砥石ニ因テ利鈍ノ變更ヲ未タスモノナレハ能ク之ヲ心得置クヘシ



着色心得

○古代色

矢車

矢砂氏云當時矢車越幾斯ナ

波木

桃皮氏云是モノ又波木越幾斯ナルモノアリ

矢車

○紫色色
茜根 粉或茶

録礬

丹柄

丹皮

矢車

茶汁

倍ニ晚茶ト云時々加ヘテ年中消渴セサルヲ用ユヘシ

施

蘇木

黃柏

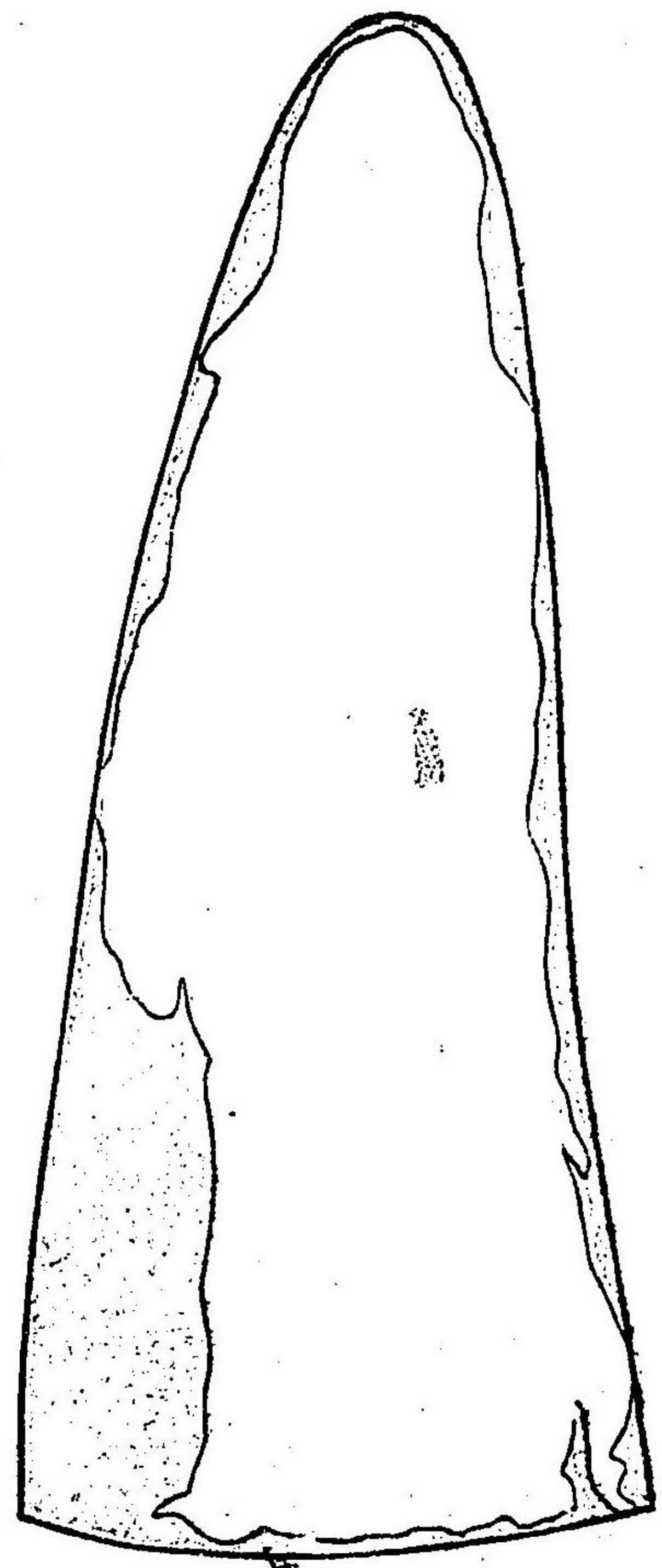
○補裨色

象牙彫刻品ニ用ユル漆艸漆皮類ハ大畧如斯モノニシテ此漆材料ヲ煮ルニハ尤モ鉄釜ヲ忌ムヘシ青銅又ハ銅鍋ヲ用ユルヲ好シトスレ氏士鍋ニ過キタル者ナシ而シテ着色以前ニ酢汁ヲ以テ先ツ象牙ヲ煮和ラクルヲアリ借亦着色ノ濃淡ハ時々ノ流行ニ沿テ變更スルモノナレハ斯ニソノ法ノ一定ヲ示ス難シ故ニ帝ソノ心得ヲ記シテ參考ニ拱スルノミ以下二十二設題宛ノ製作物ニ施色シタルハ皆之ニ倣ヘリ

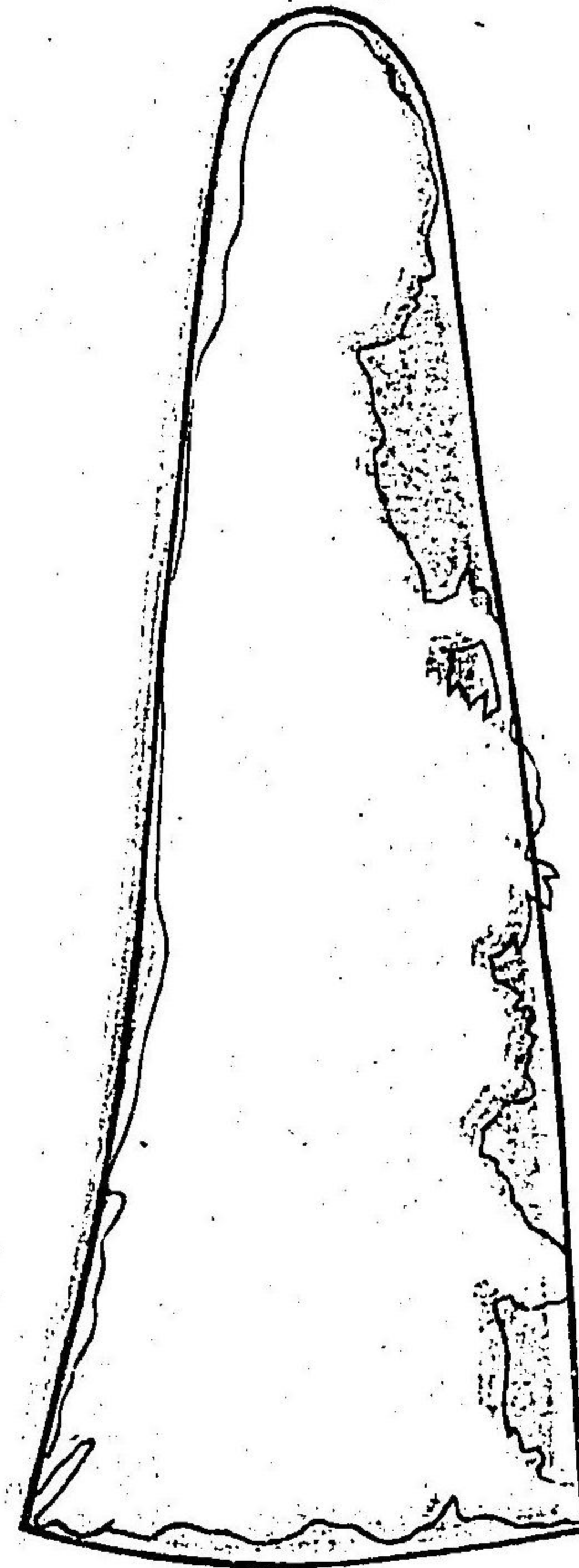
莊子曰：厲之人，夜半生其子，遽取火而視之，汲汲然唯恐其似已。註曰：惡人生，子恐其似已，是自知其惡也。彼且自知，而世之惑者，皆不自知，則不如厲人矣。以前面大惑，終身不解，大愚終身不靈。

二 主美弃醜

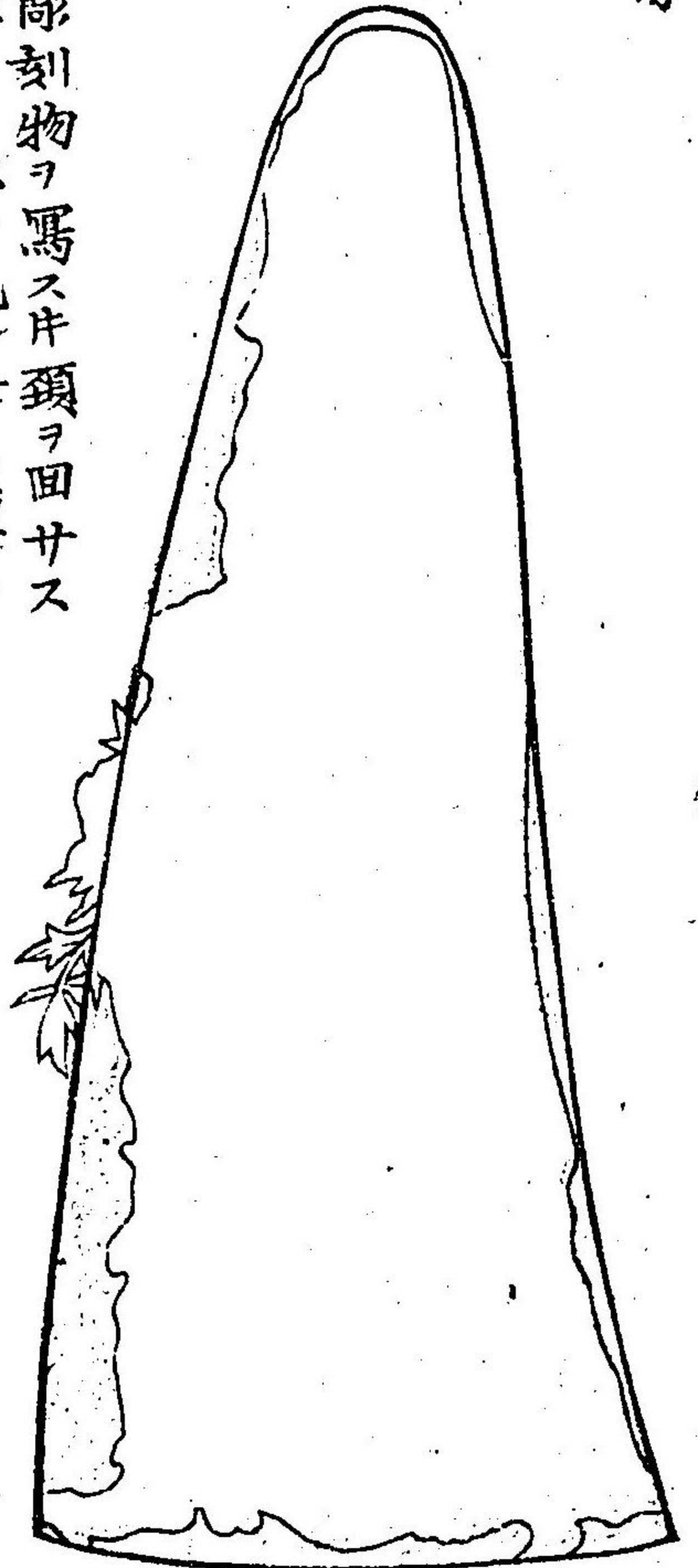
丸先 高四寸 底闊一寸三分
明治十九年五月一日作



底闊一寸五分



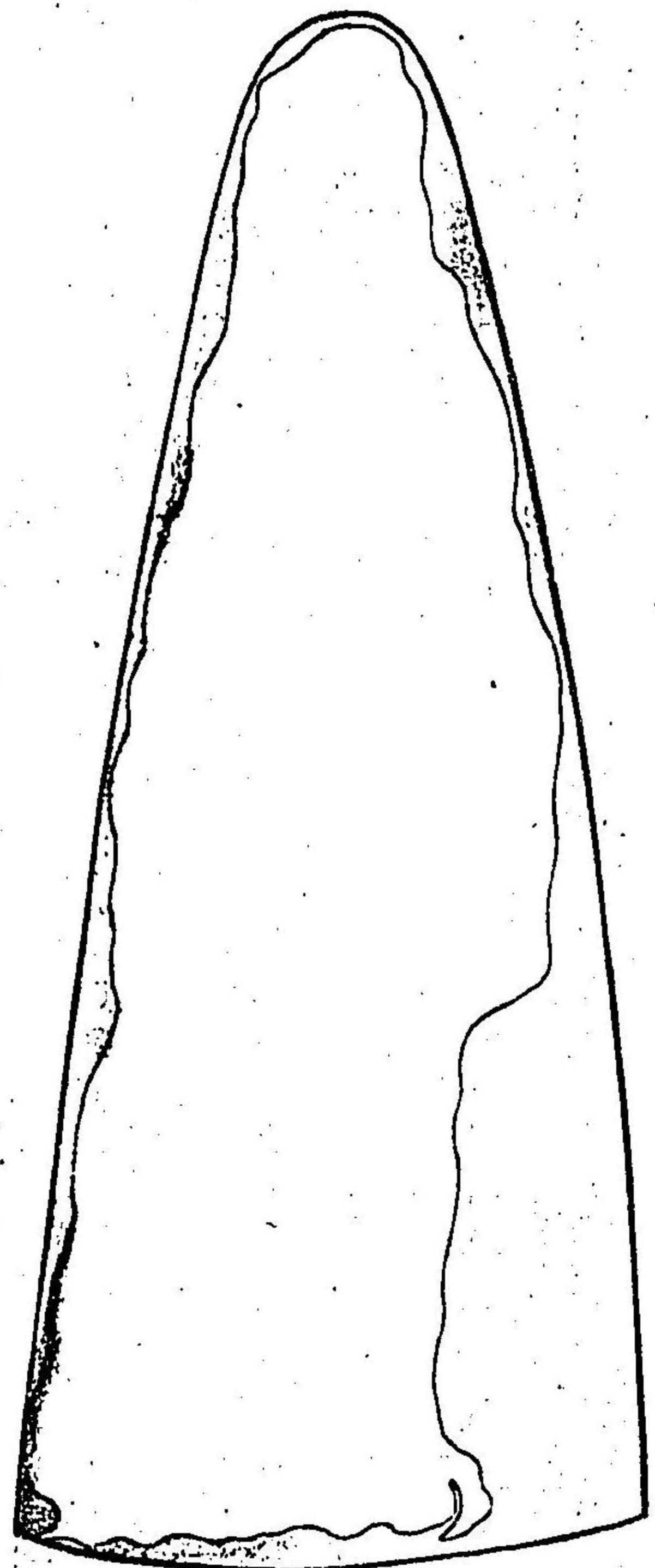
底溜一寸七分



木地外ニ出タル輪廓ハ該彫刻物ヲ寫ス片頸ヲ回サス
躰ヲ振サス凡右目ヲ閉ジ左目ヲ以テ見ル処ヲ寫者ナ
レハ少ク裏ノ部分ヲ前面ニ浮伸シテ寫シタル者ナリ
凡テ木地外ニ出タル筆痕ハ如斯モノト知ルヘシ



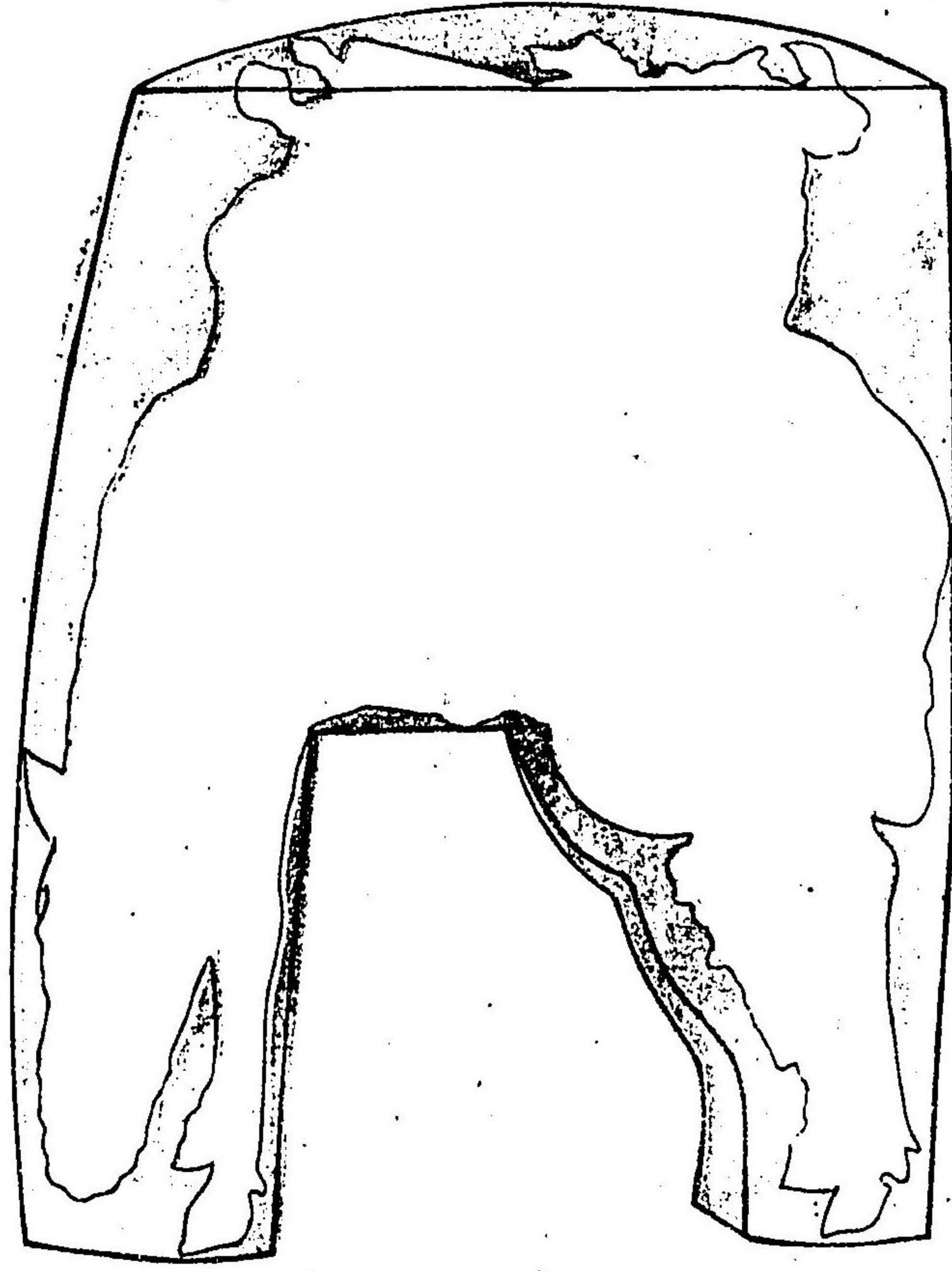
底溜前部同

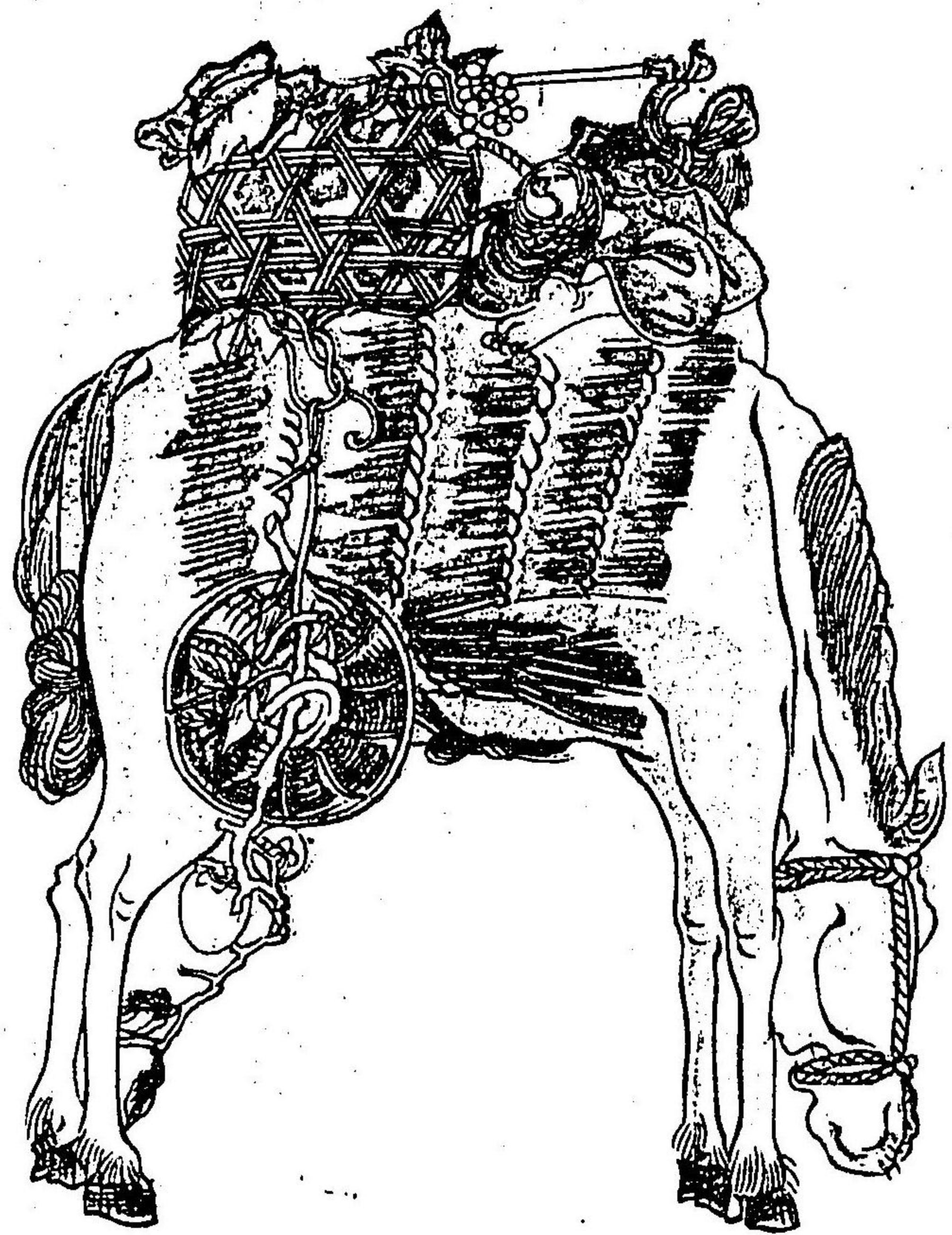


燕外山將遍
 人間日易斜
 不知棊換世
 柯爛未還家
 李俊民

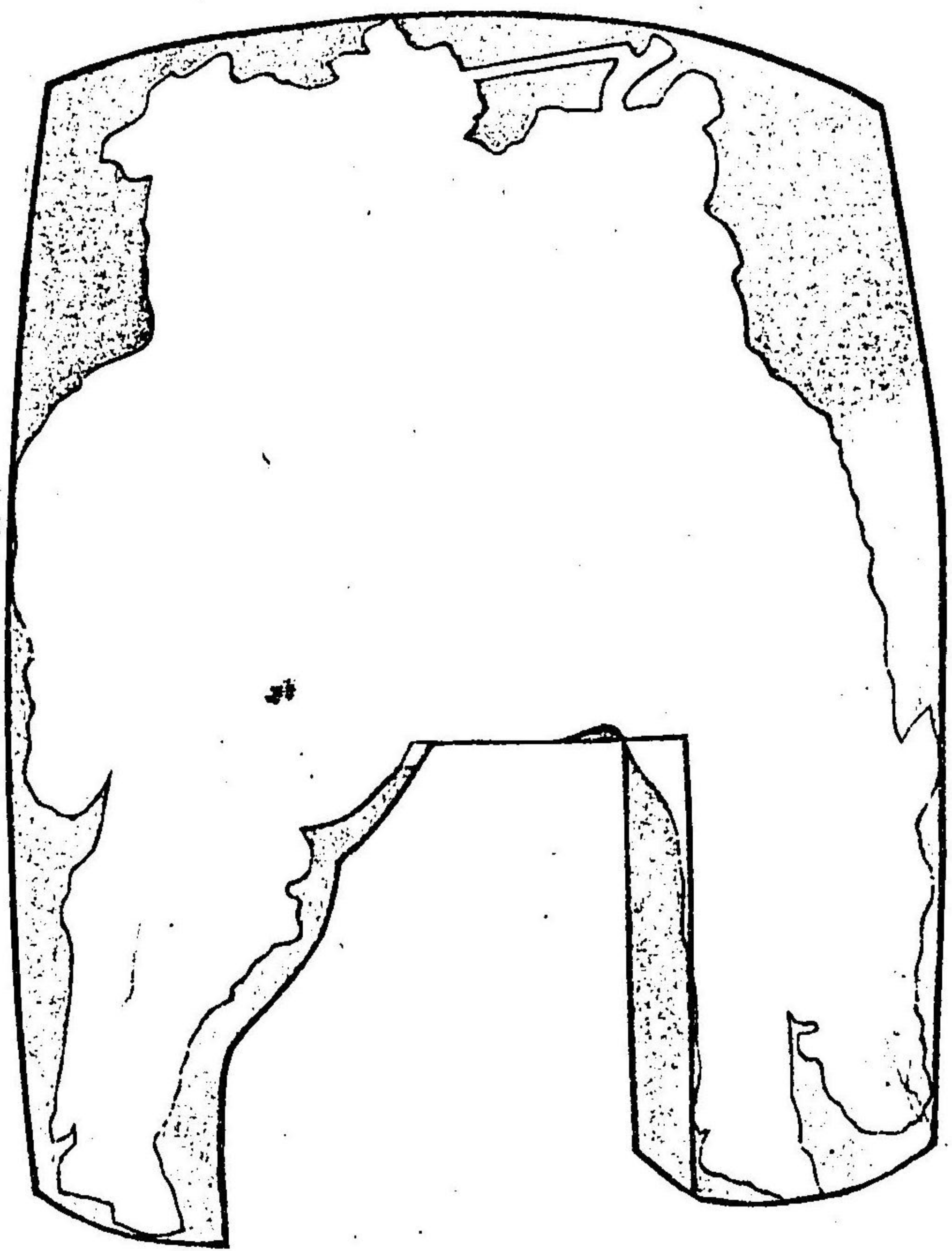
三牧童思婦 割木地
 高三寸五分 上市寸六分 中市稍廣 下市二寸九分
 與巾一寸 明治十九年六月廿五日

截口面



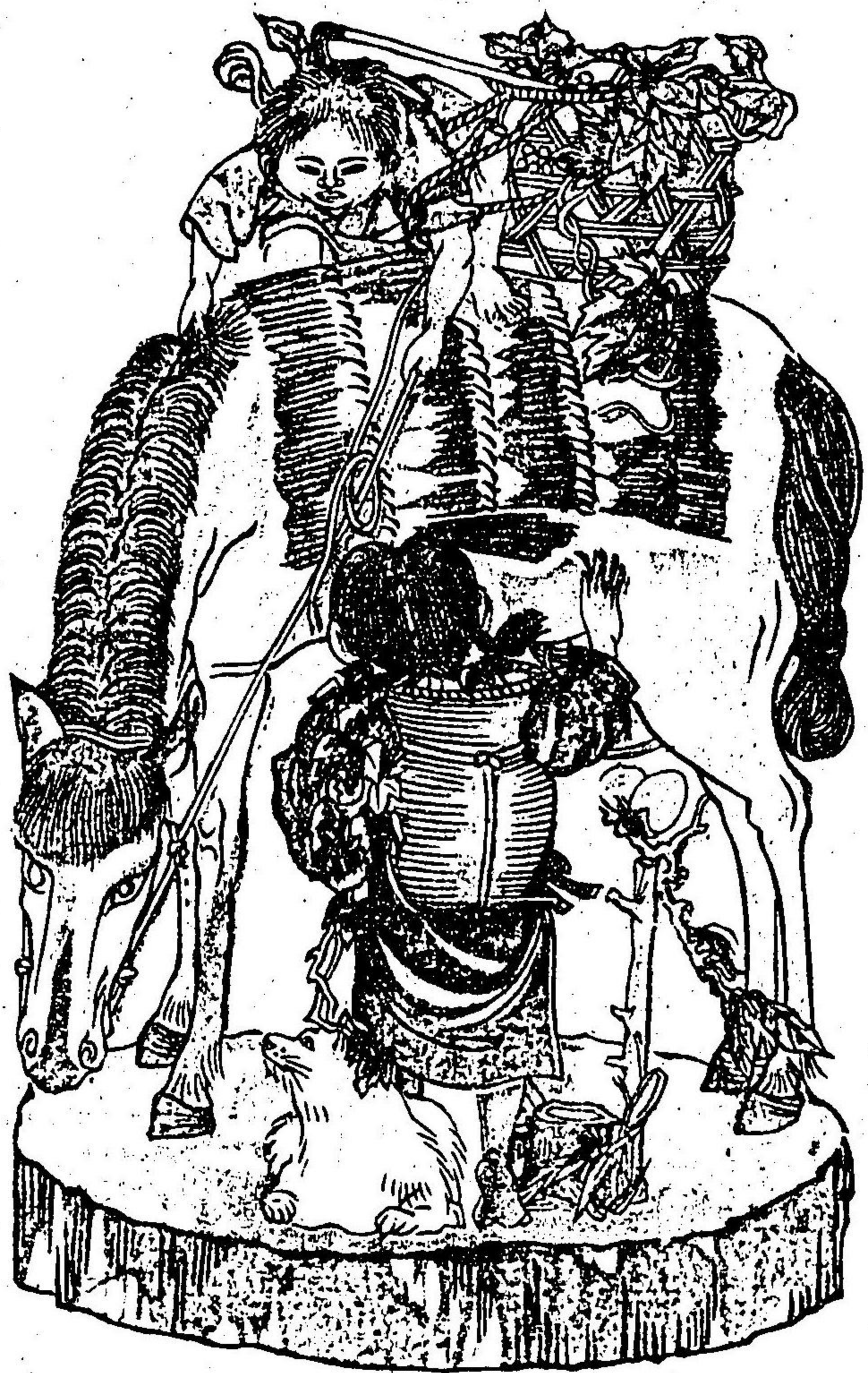


下
乾

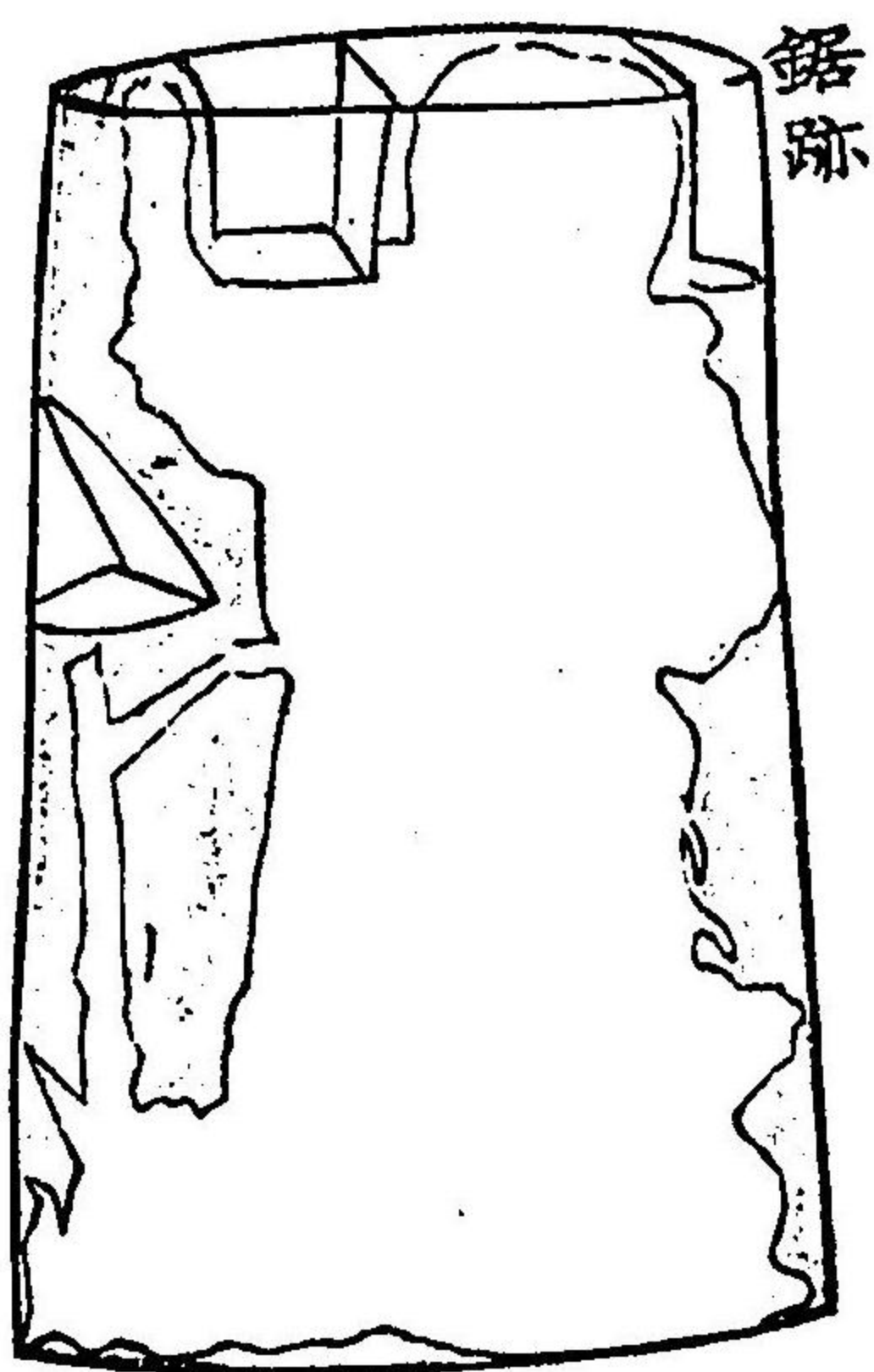


下
乾

合製全圖



六三九



鋸跡

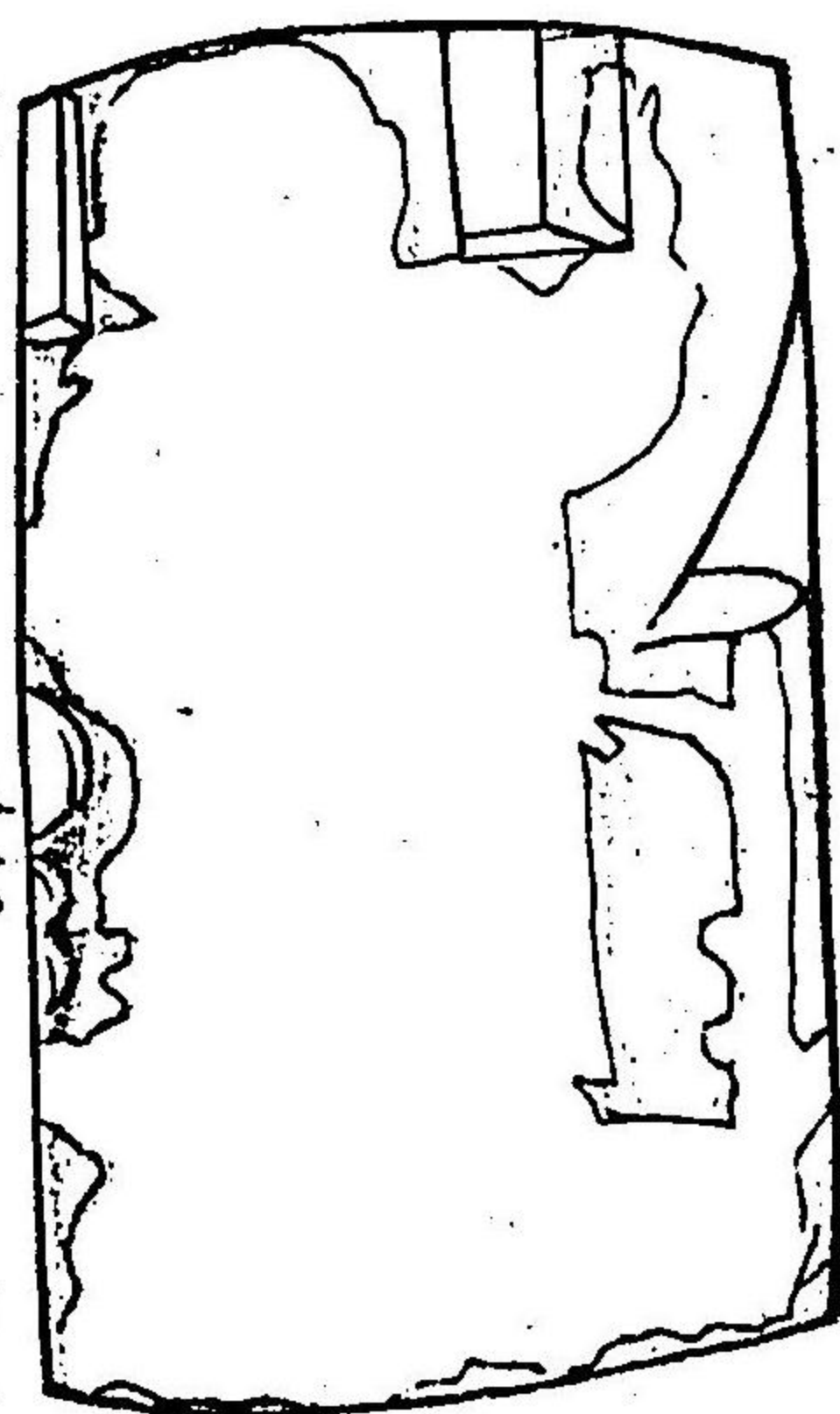


細牛房

高二寸三分巾一寸四分上奥一寸二分底稍濶



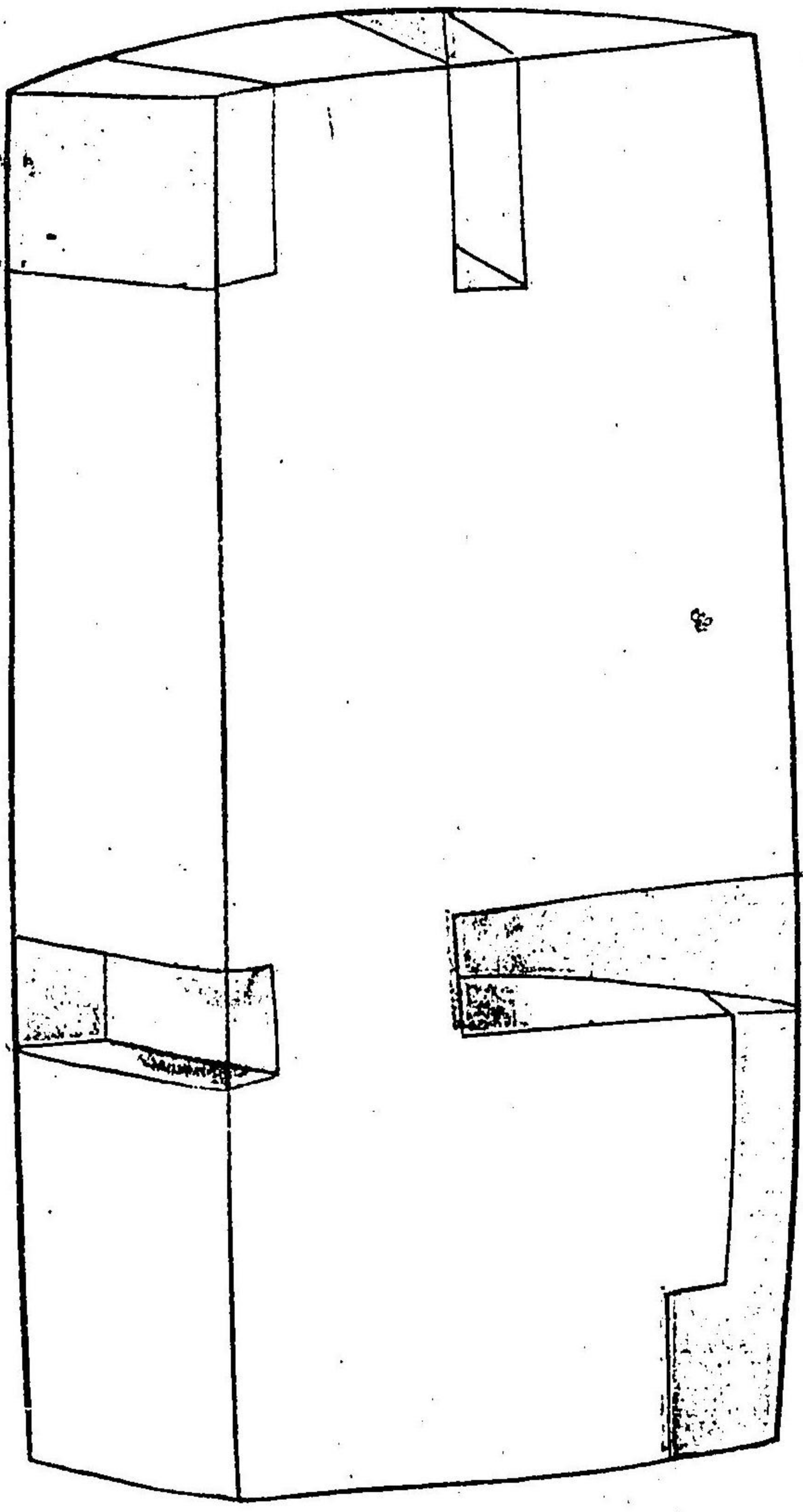
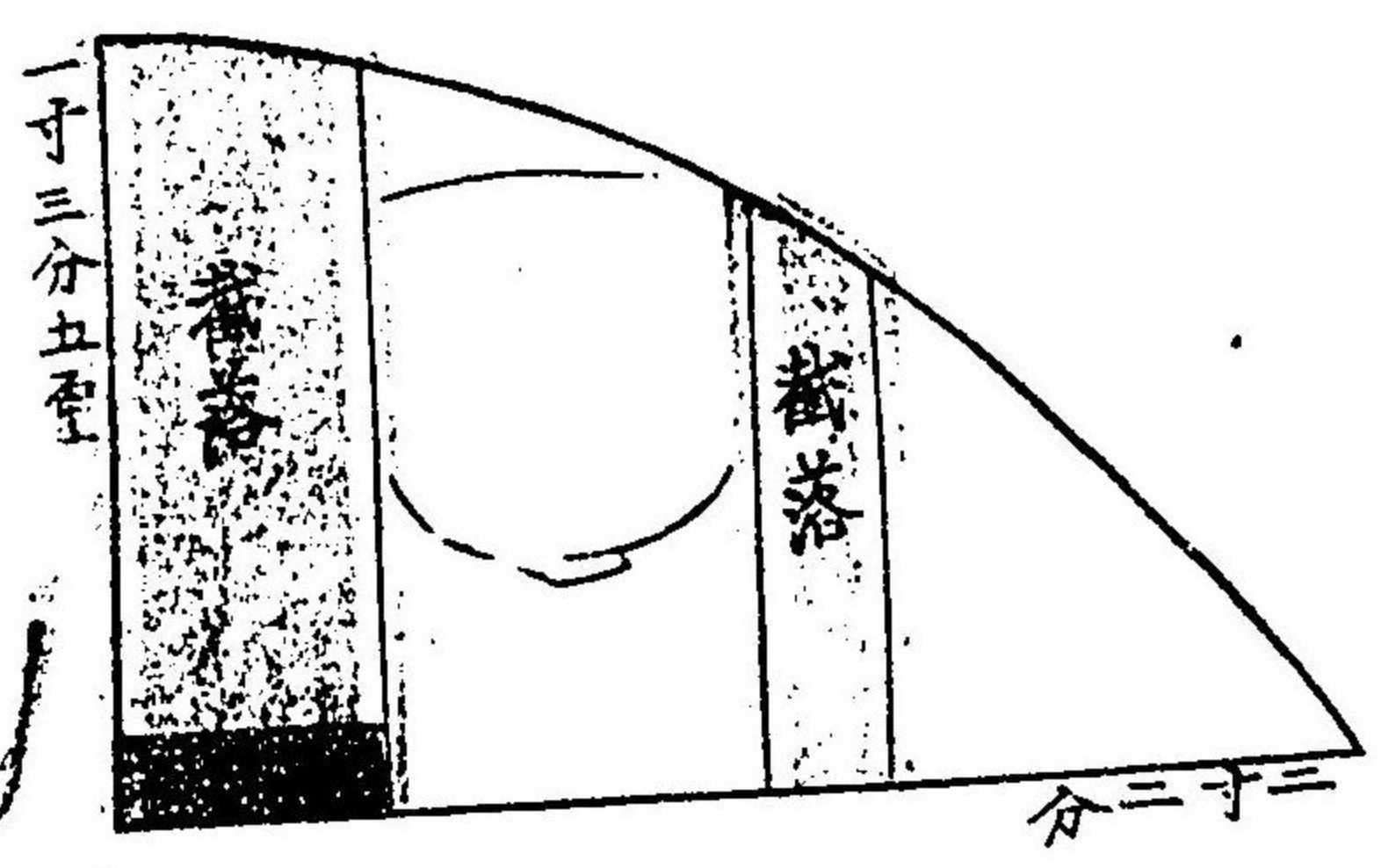
木跡



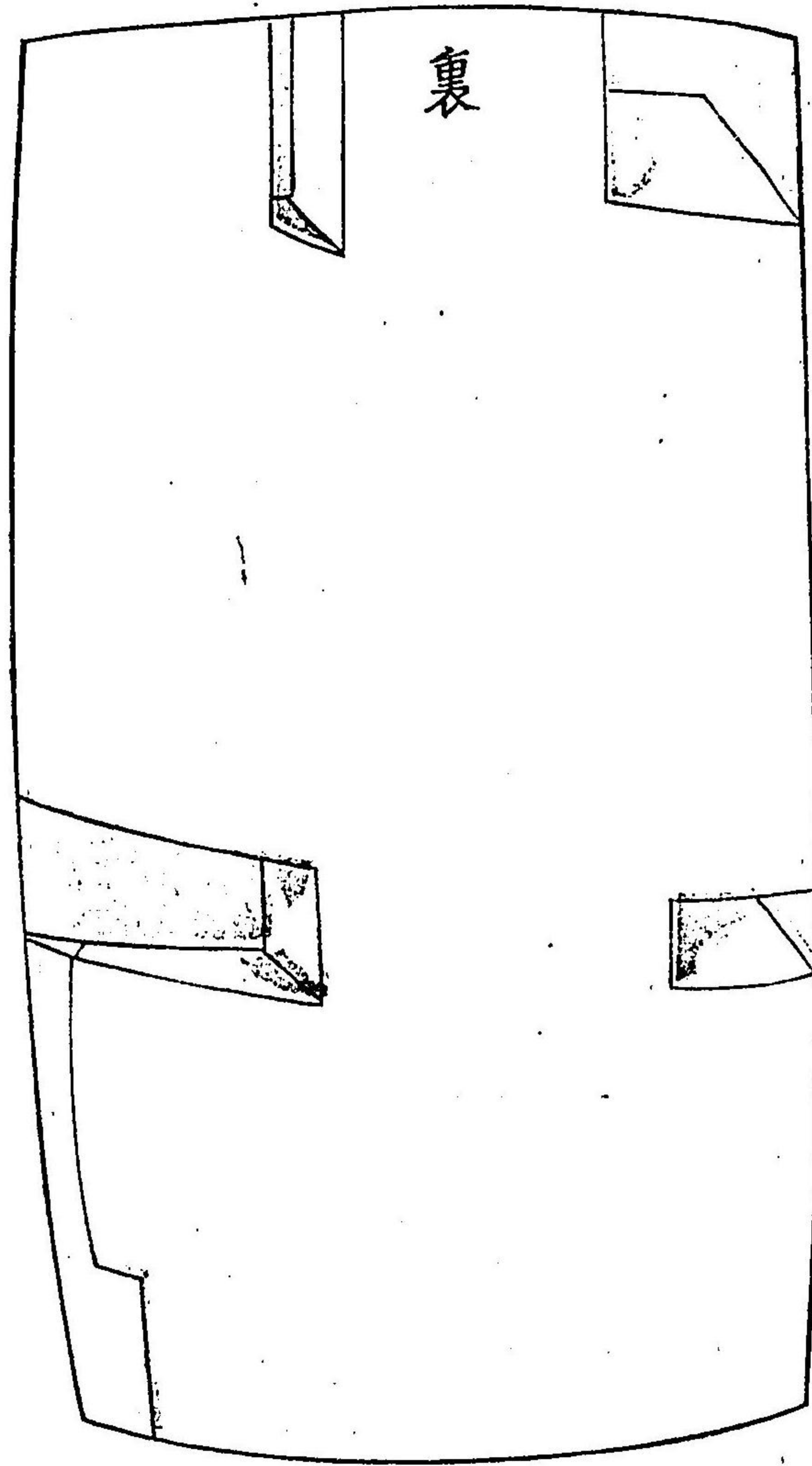
子曰、姓相述也、習相遠也、淮南子曰、揚子見蓬路而哭之、為其可以南、可以北、黑子見練絲而泣之、為其可以黃、可以黑、高誘曰、憫其本同而未異、

四 育兒嬉戲

發落ノ三角木地 高四寸六分 前巾二寸二分
 奥巾一寸三分五厘 明治十九年八月一日



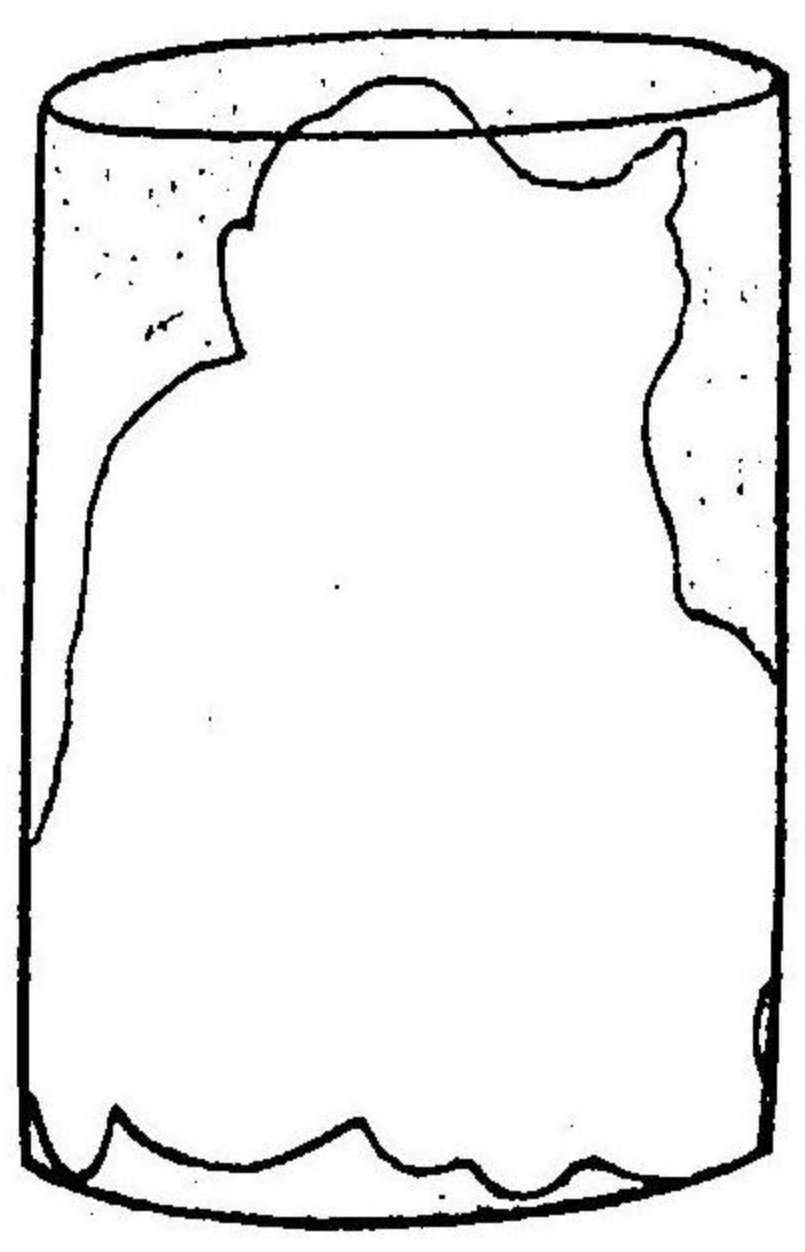
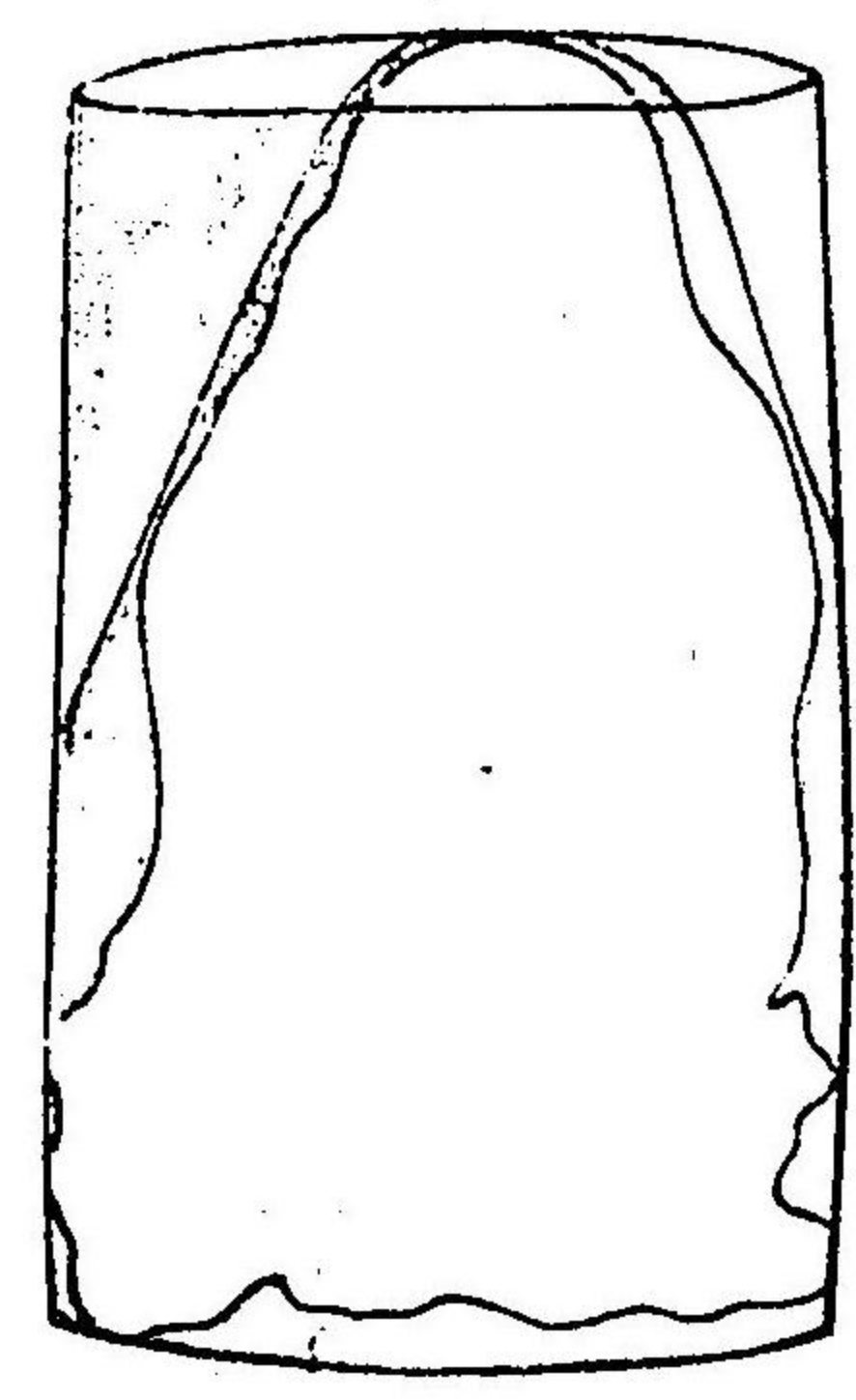
材料ノ如何ニノ
 ニ拘泥シテ彫刻
 セハ活潑ナル勢
 カヲ加フル能ハ
 スシテ透成物目
 ラ妙趣ヲ失フ故
 ニ冗木地ノ出ル
 ヲ惜マス切斷ス
 ヘキハ切斷シ然
 レハ其彫刻物ノ
 小館セサルヲ注
 意スヘシ



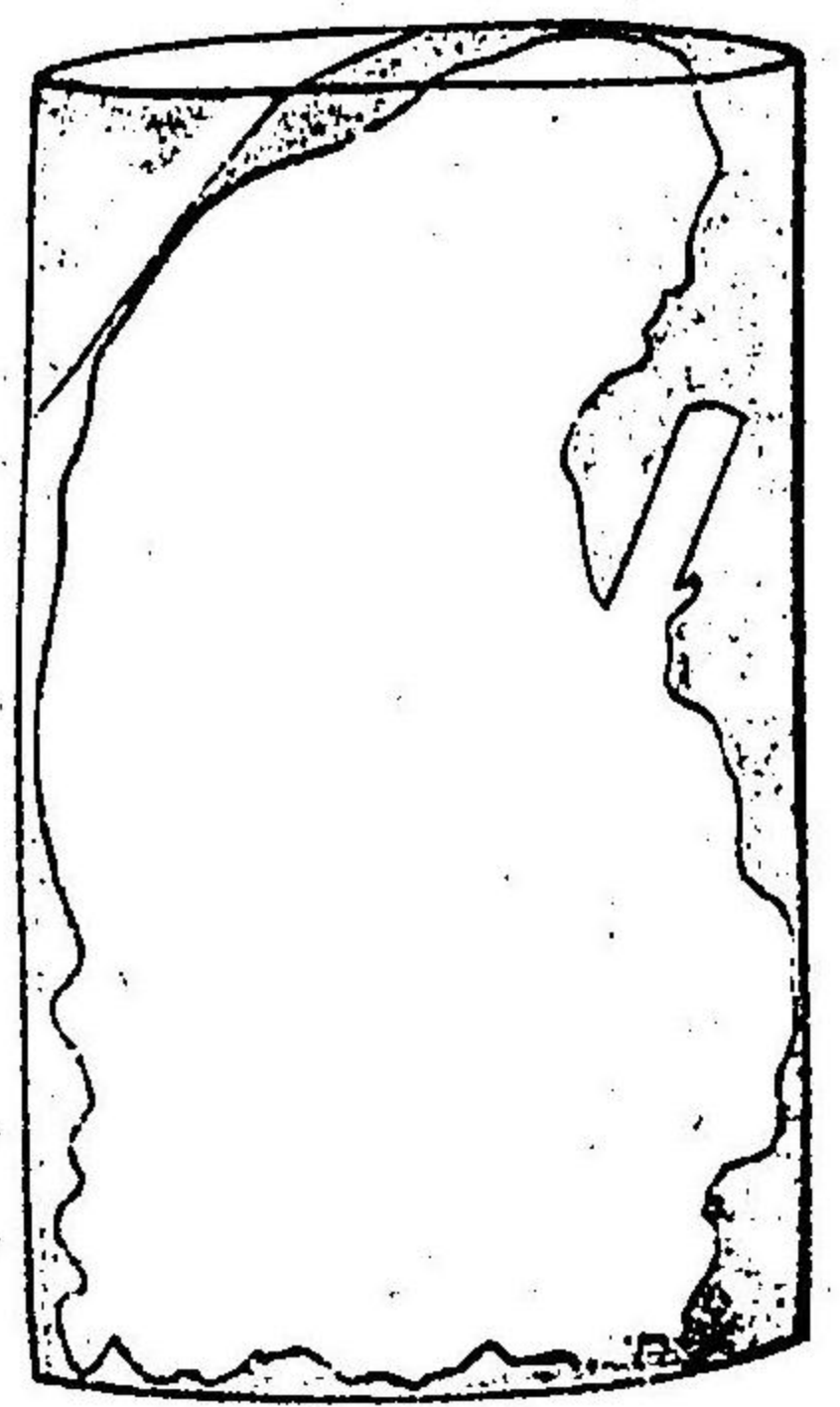
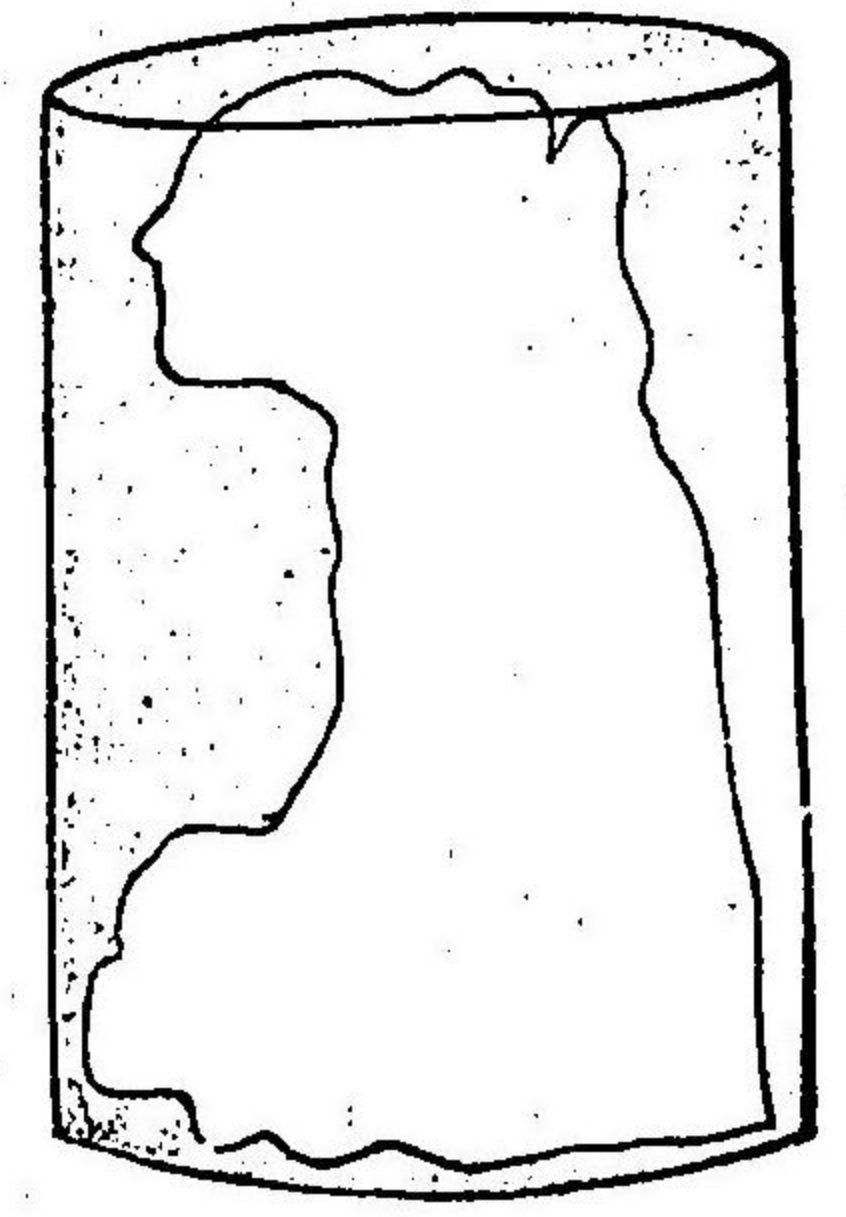
孟子曰、為長者折枝、語人曰、我不能、是不為也、非不能也

五 勿侮長者

樟腦木地俗人造象牙ト云、黃石公高二寸巾一寸三分、張良高一寸六分巾一寸一分五厘、明治十九年八月十日作

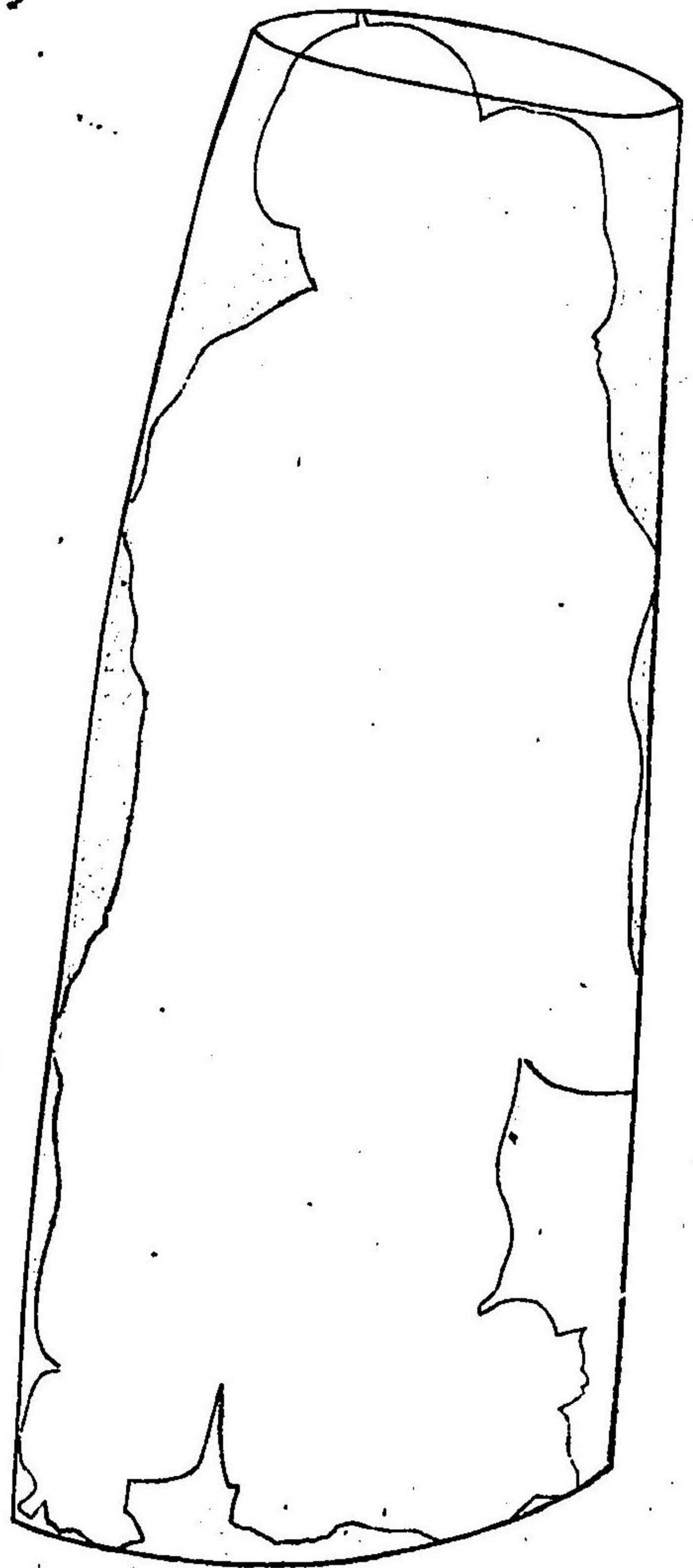


此ノ木地ハ木彫小刀ヲ用エ、
黃石公張良共ニ模倣ヲ附セス

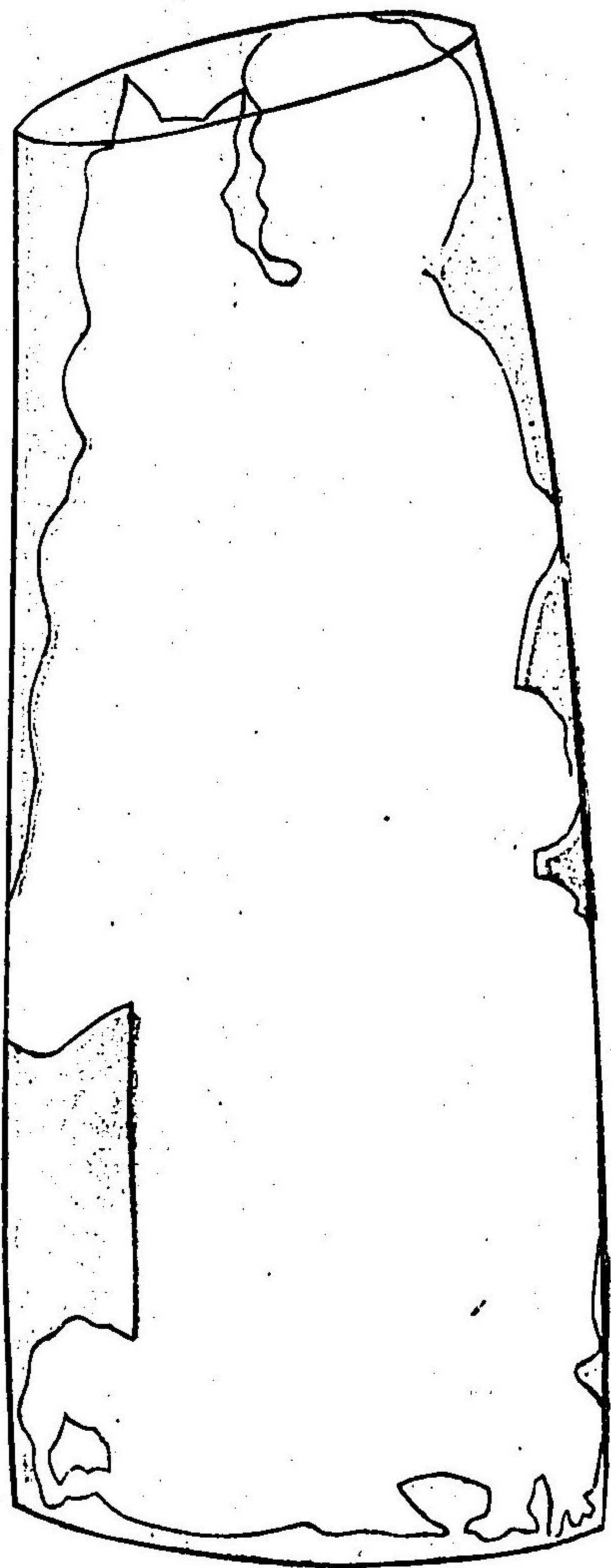


高夜啼
 慈鳥失其母
 啞々吐哀音
 晝夜不飛去
 經年守故林
 夜々夜半啼
 聞者為沾襟
 聲中如告訢
 未及反哺心
 百鳥豈無母
 爾獨哀怨深
 德是母慈重
 使爾悲不任
 昔有異起去
 母致喪不臨
 哀哉若以輩
 其心不如禽
 慈鳥復慈鳥
 鳥中之曾參
 白樂天

六 猫兒失母 午房水地 玉截 卜去 高四寸六分 底中一寸四分 上巾一寸四分
 明治十九年八月廿九日作



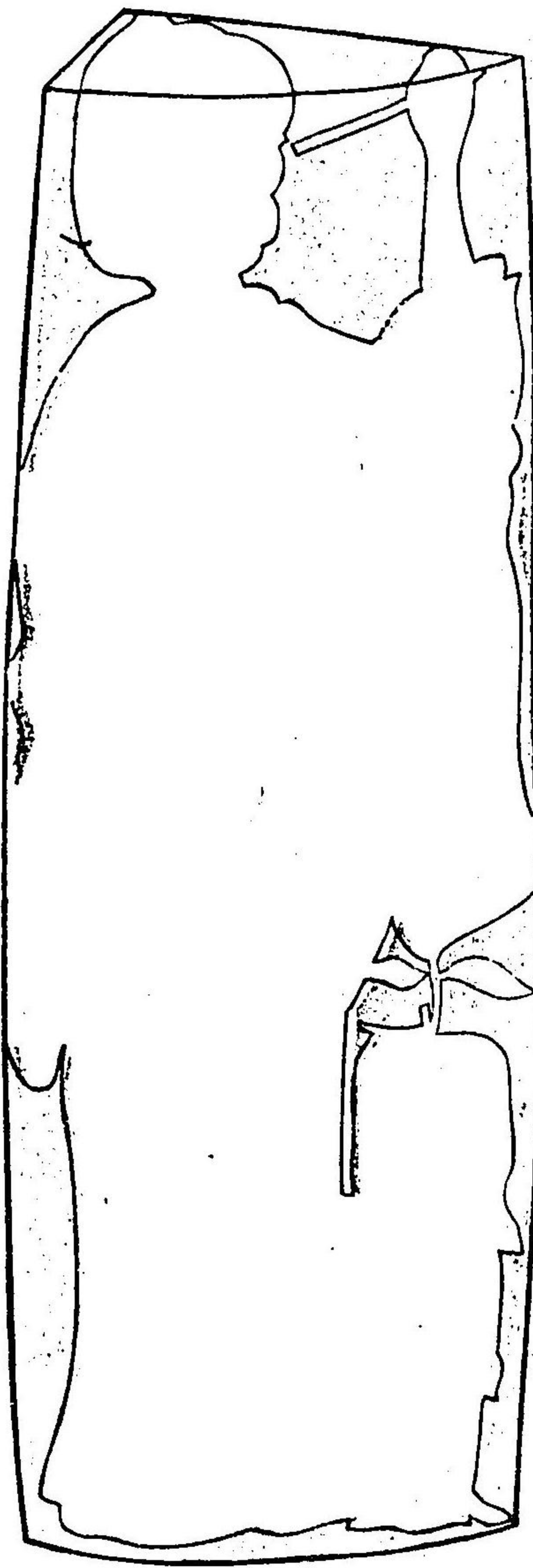
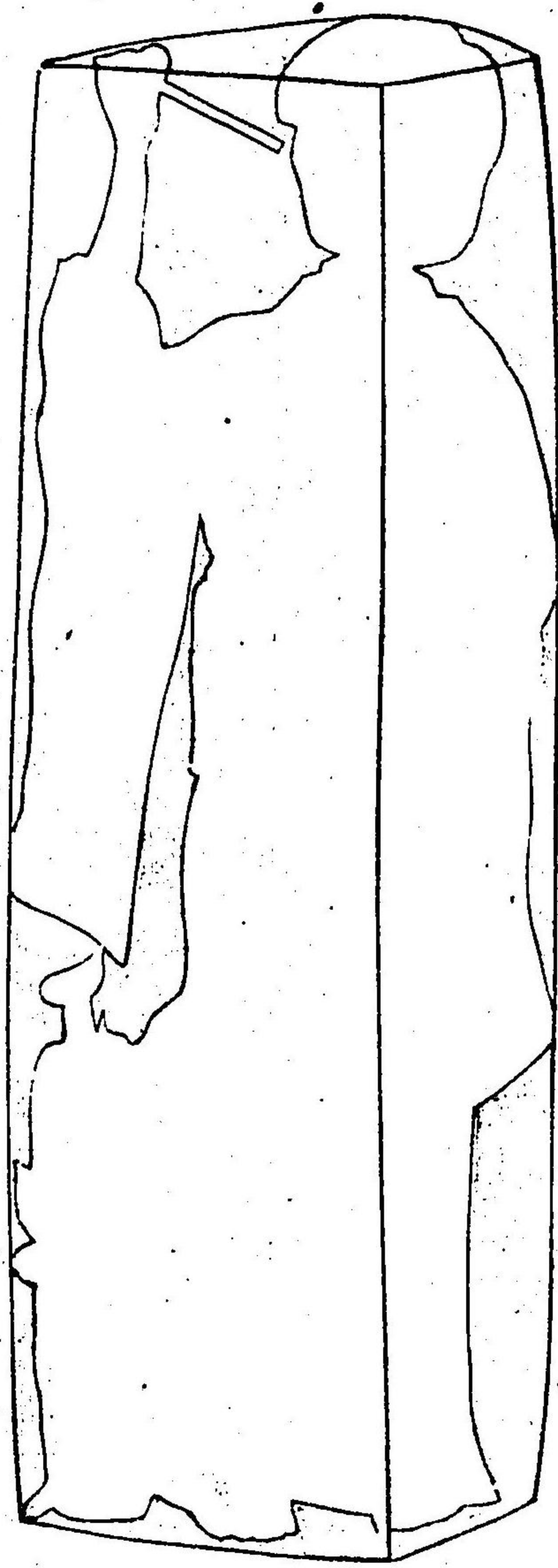
初心ノ克ク用ユル材料ナリ



詩云陽池在
 桑其子七分
 淑人君子其
 儀一兮其儀
 兮一兮心如
 結

七 婦容可愛

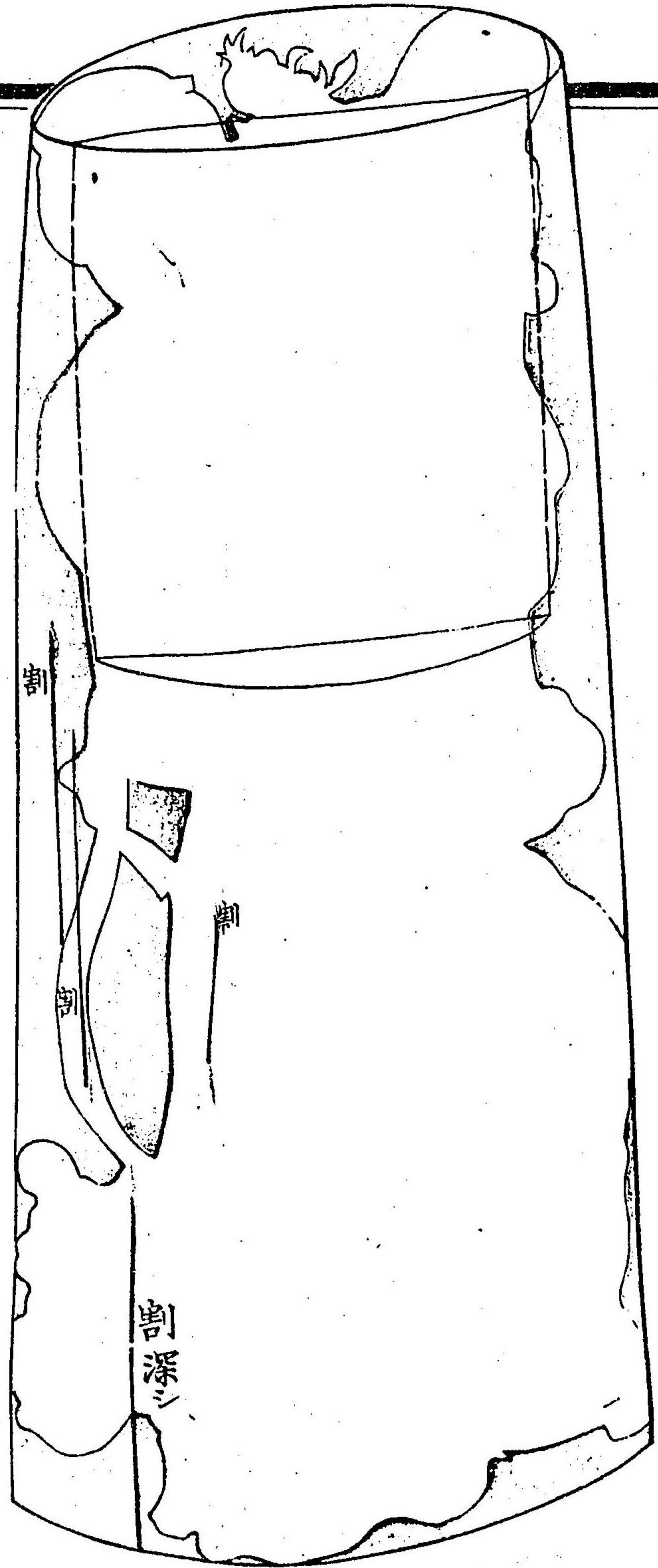
撥落三角木地高五寸二分巾一寸九分上下同
 明治十九年十月廿三日作



孟子曰、老吾
老以及人之
老、幼吾幼
以及人之幼、

八新婦愛兒 大玉截 高六寸七分 巾三寸 與巾凡三寸五分割深

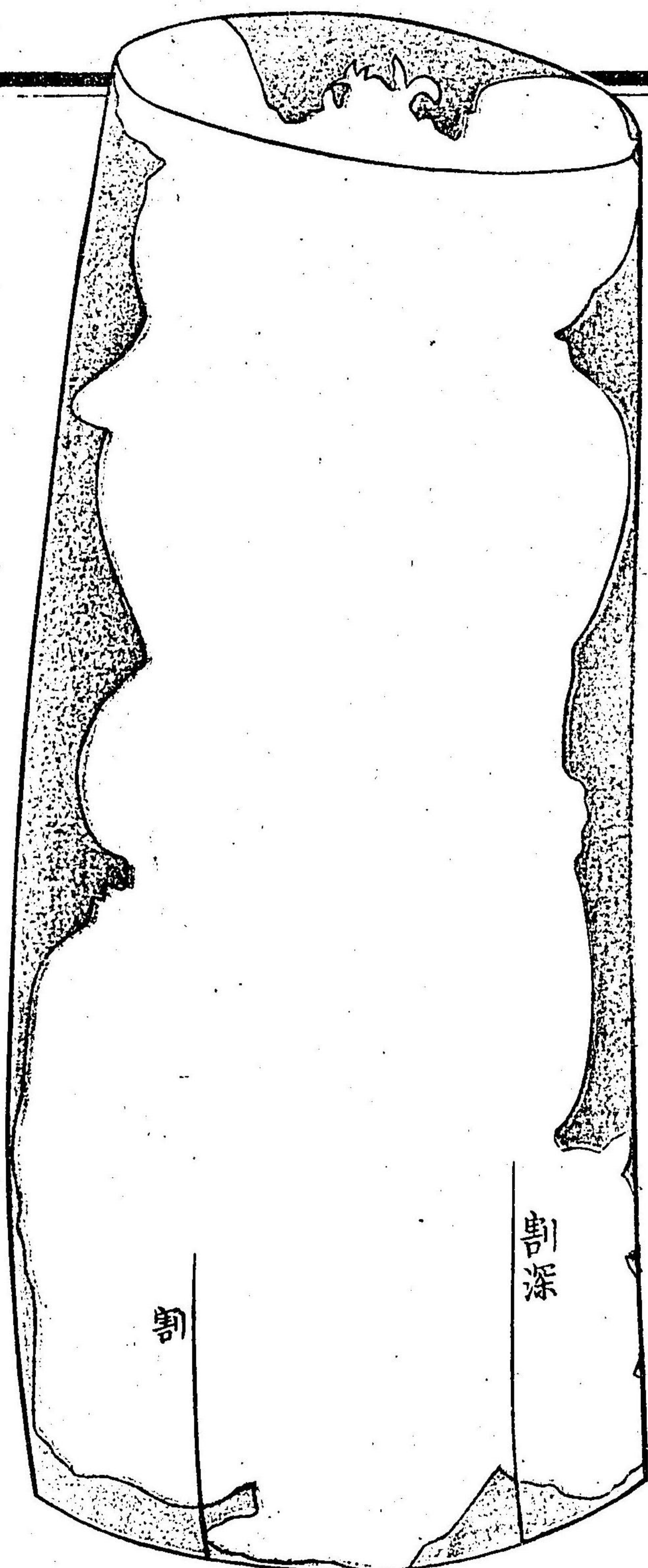
明治三十年二月廿六日作





七
靴

材料ニ割アルキハソノ左右ニ鍔金ヲ使ハス只割ニ方ヲ穿
ツテ後圖ヲ紫スレハ落成シテ材料ノ小縮ヲ見サルヘシ



割

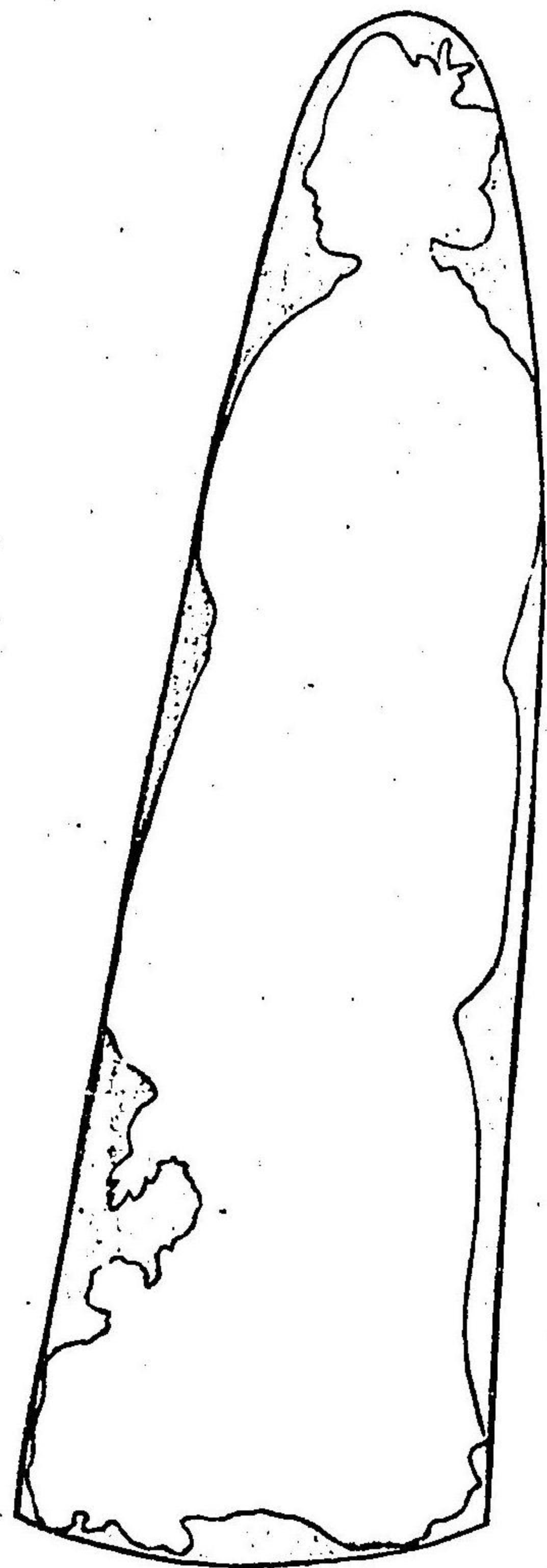
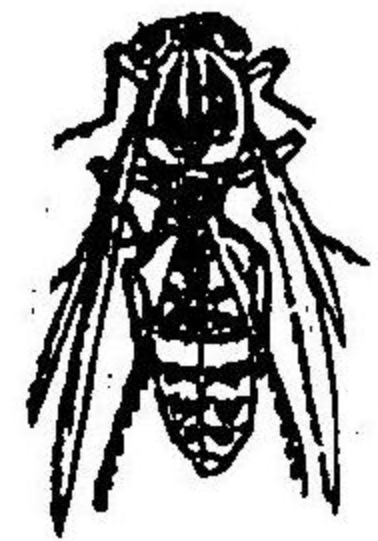
割深

十八

孫叔敖母，曰
有陰德者，天
報以福

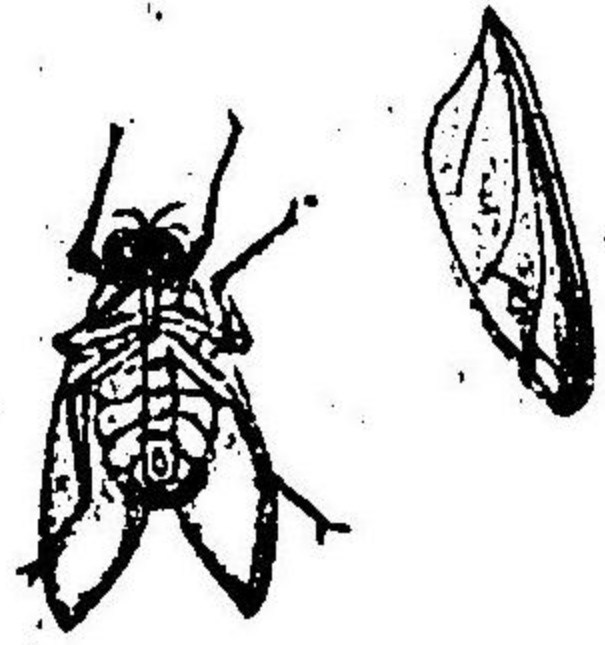
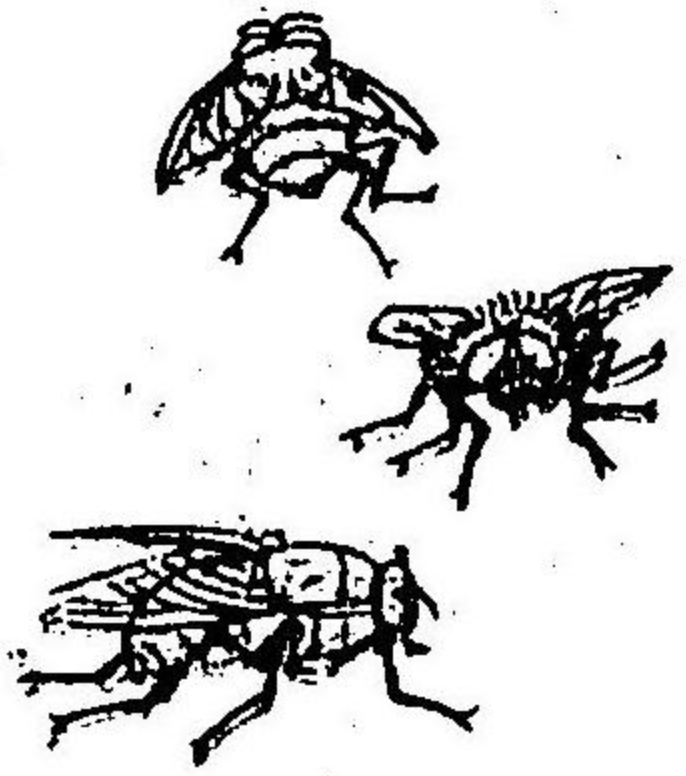
丸
蚋蜂逃生

丸先 高四寸五分 底一寸四分 上市如圖
明治三十年四月二日作

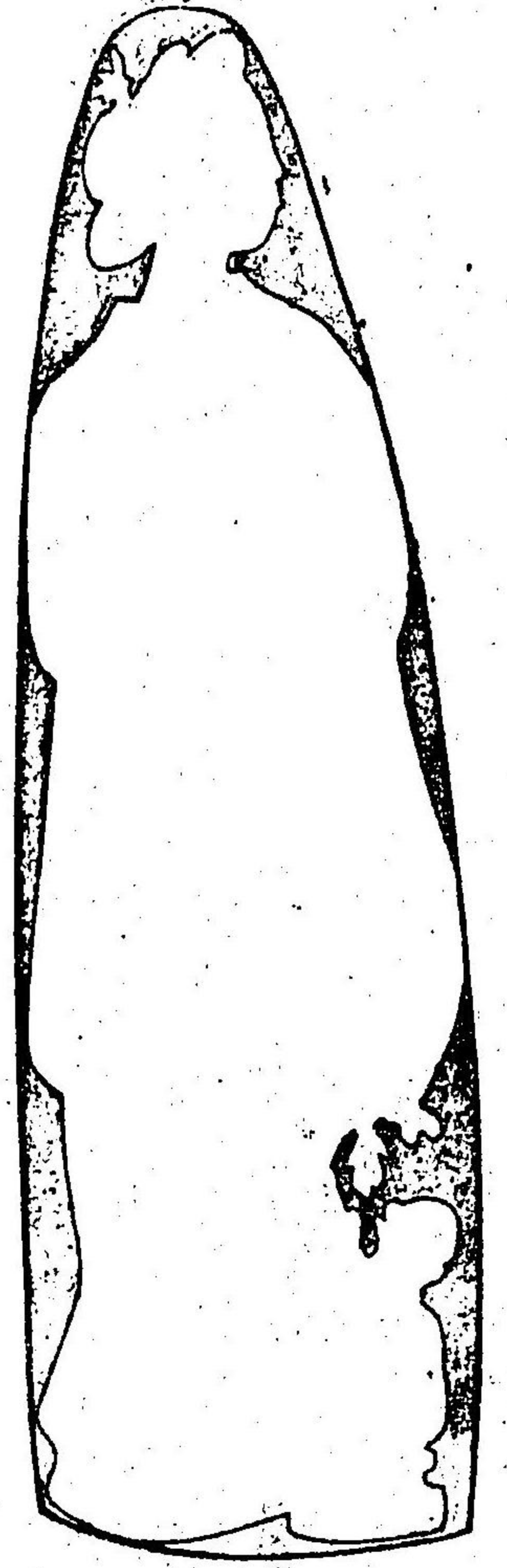


蚋

底巾一寸一分五厘



裏底巾一寸三分



岩環

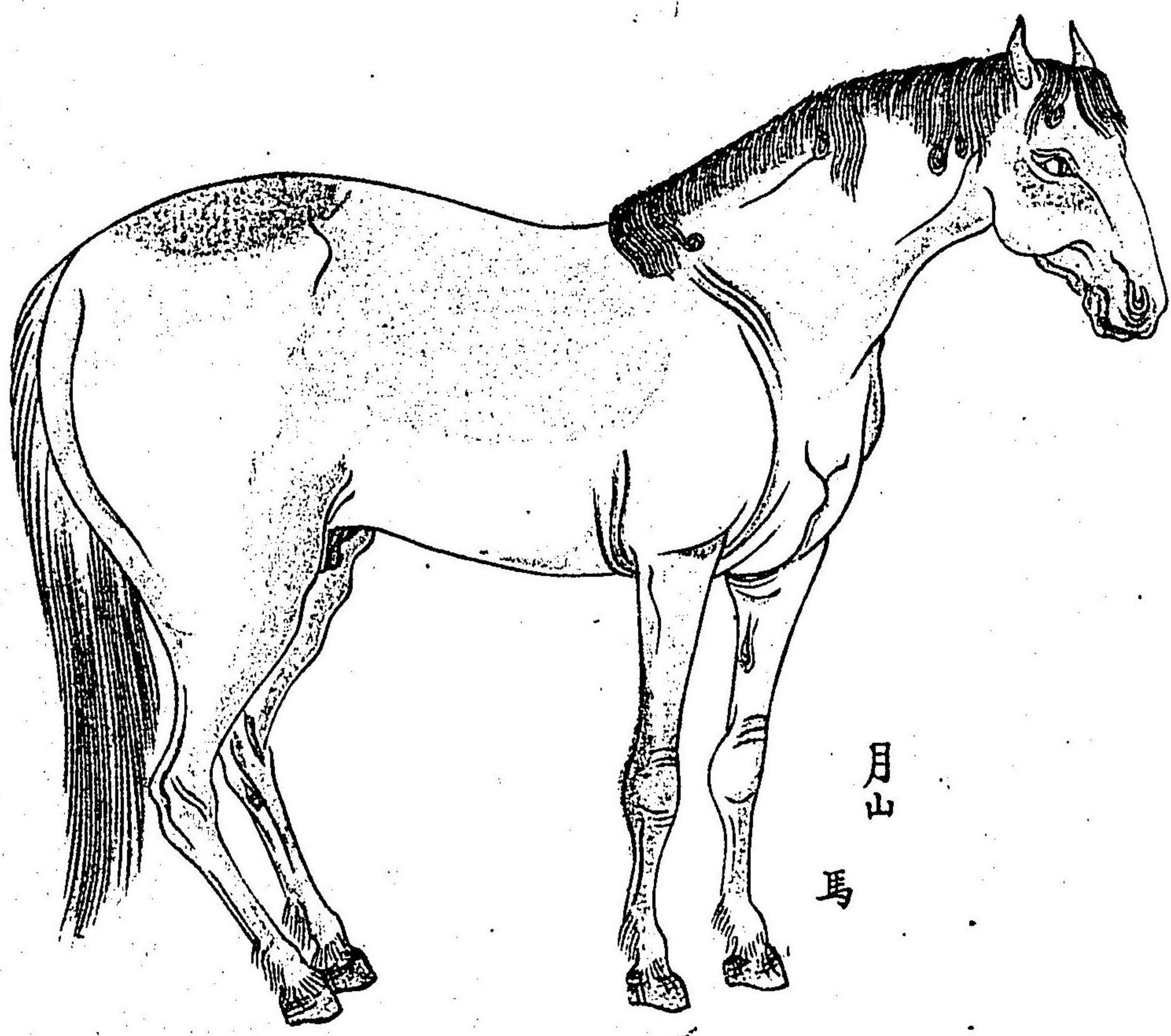


田公喜
菊

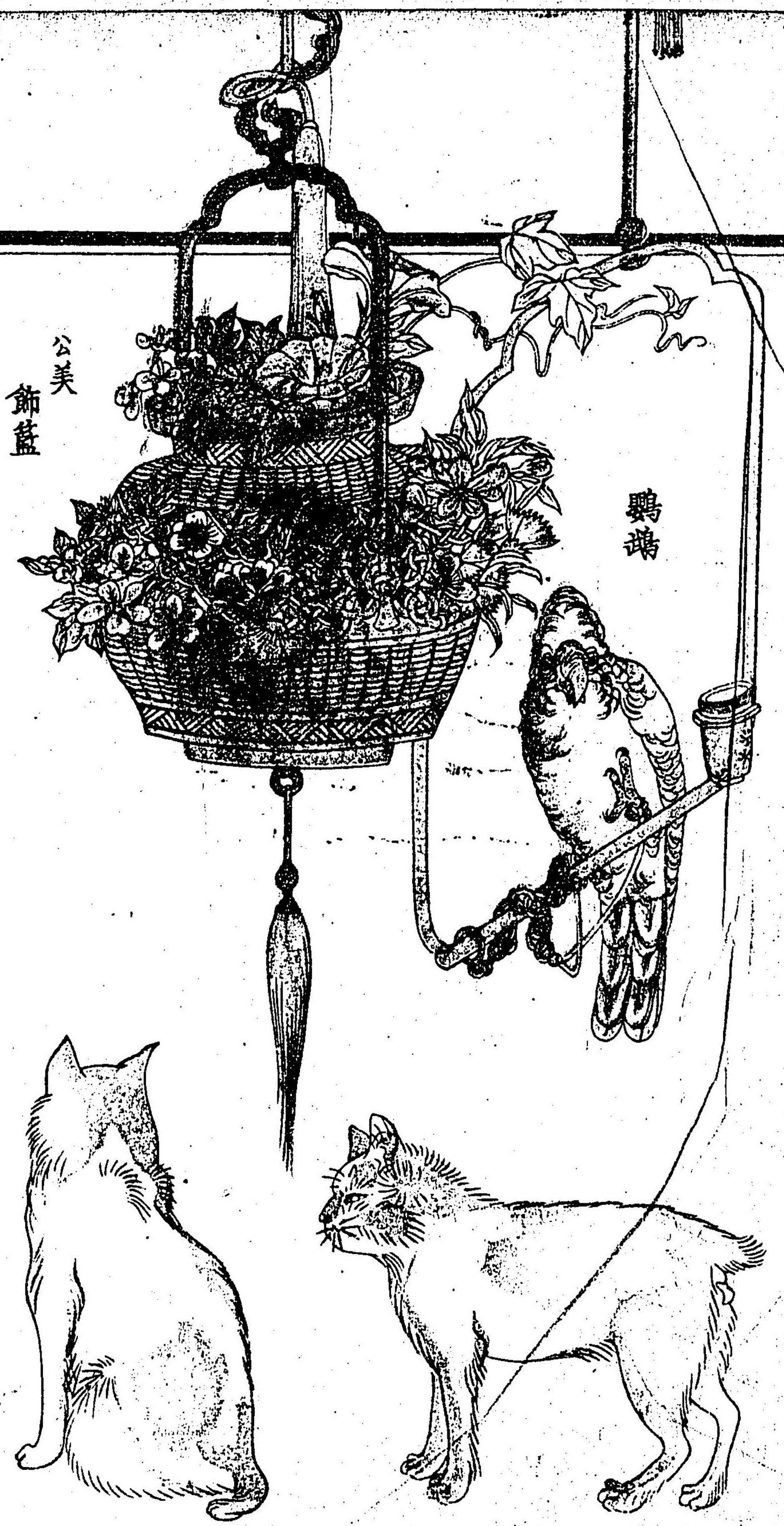


参考

蜂蚋ヨリ茶葉ニ至ル迄
 ノ間ノ諸圖ハ彫刻物ニ
 アラスシテ唯名家ノ画
 又ハ写生ノ画ヲ示シテ
 彫刻上ノ参考ニ供セ
 シモノナリ



月山馬

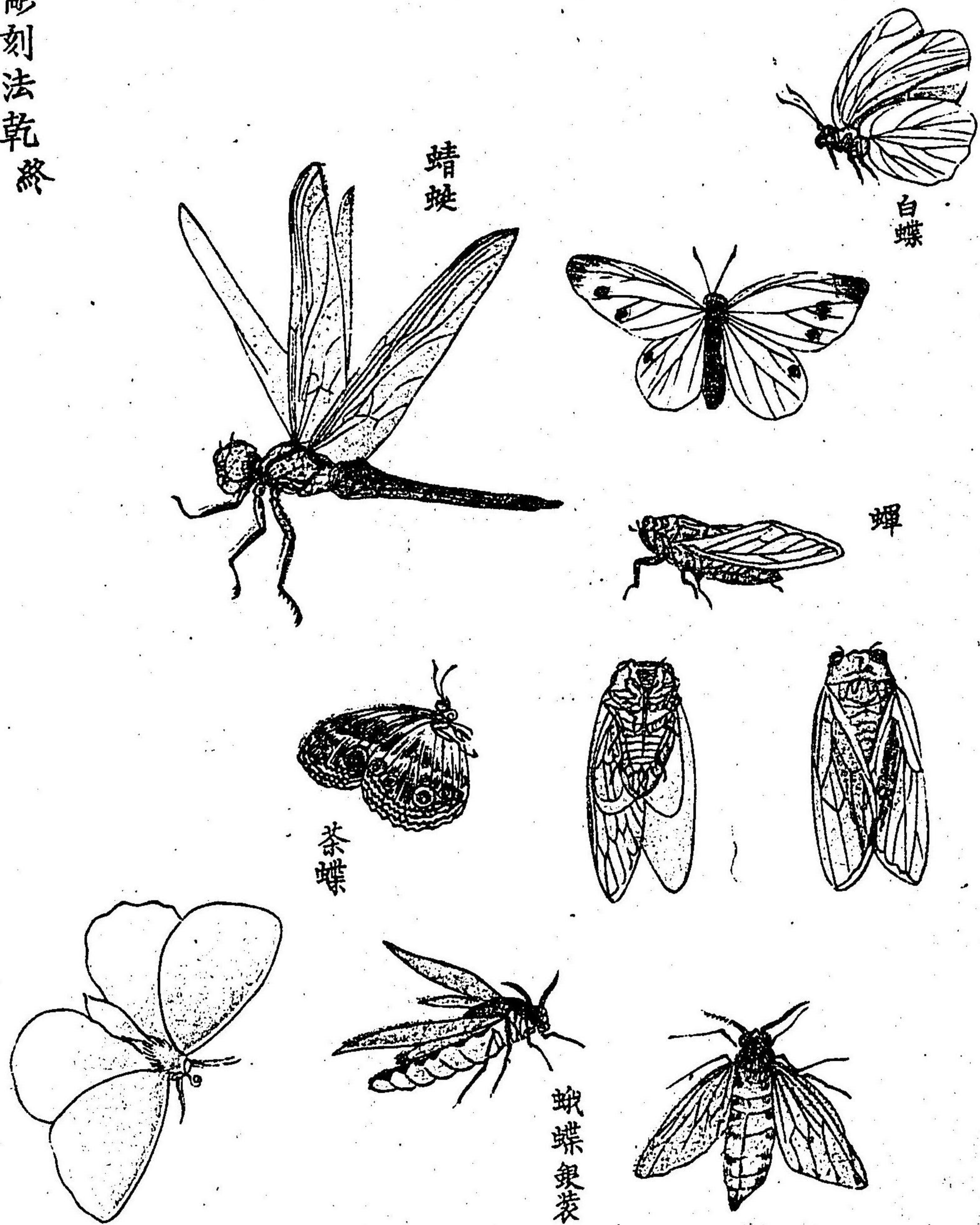


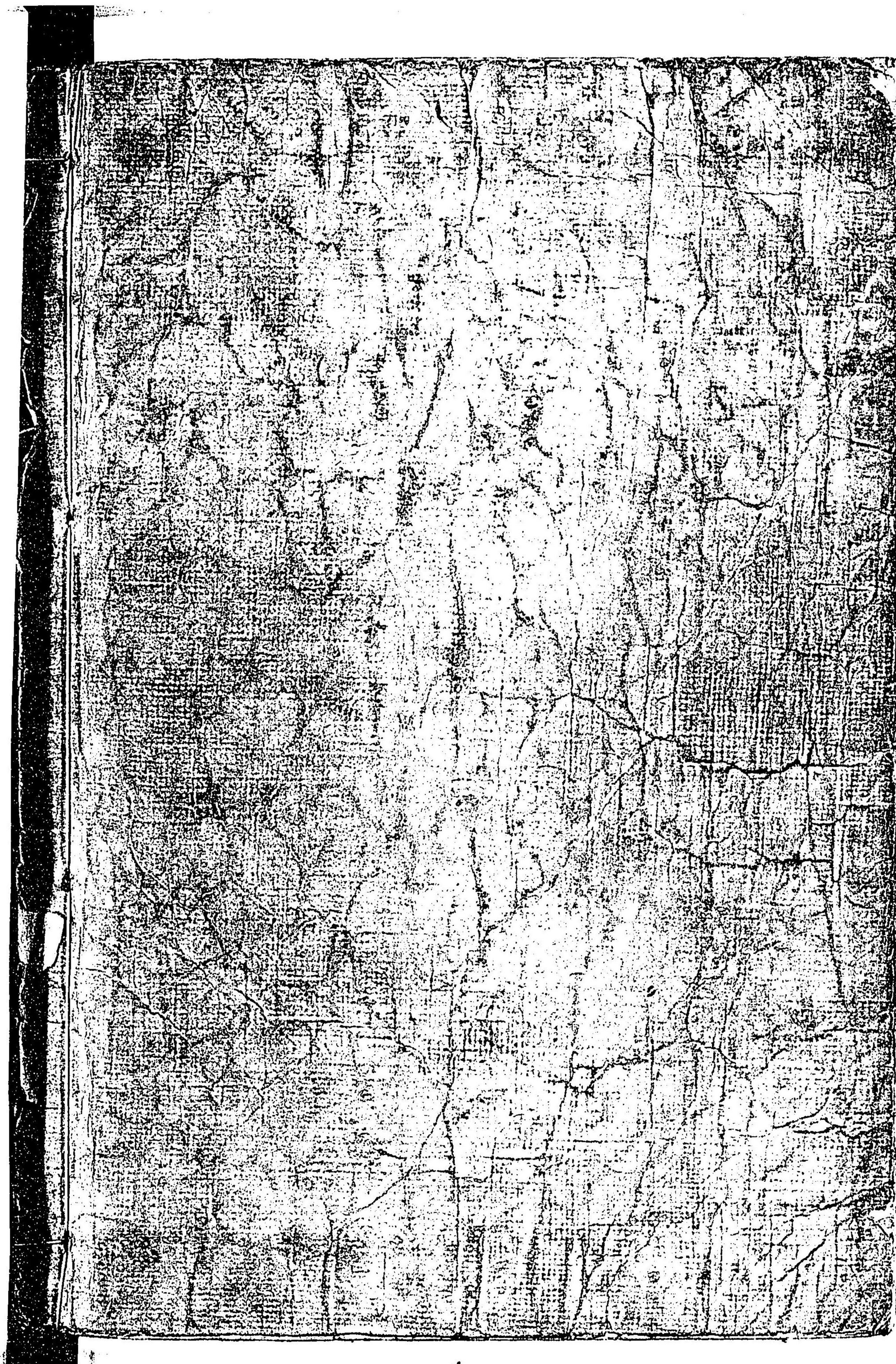
公美飾籃

鸚鵡

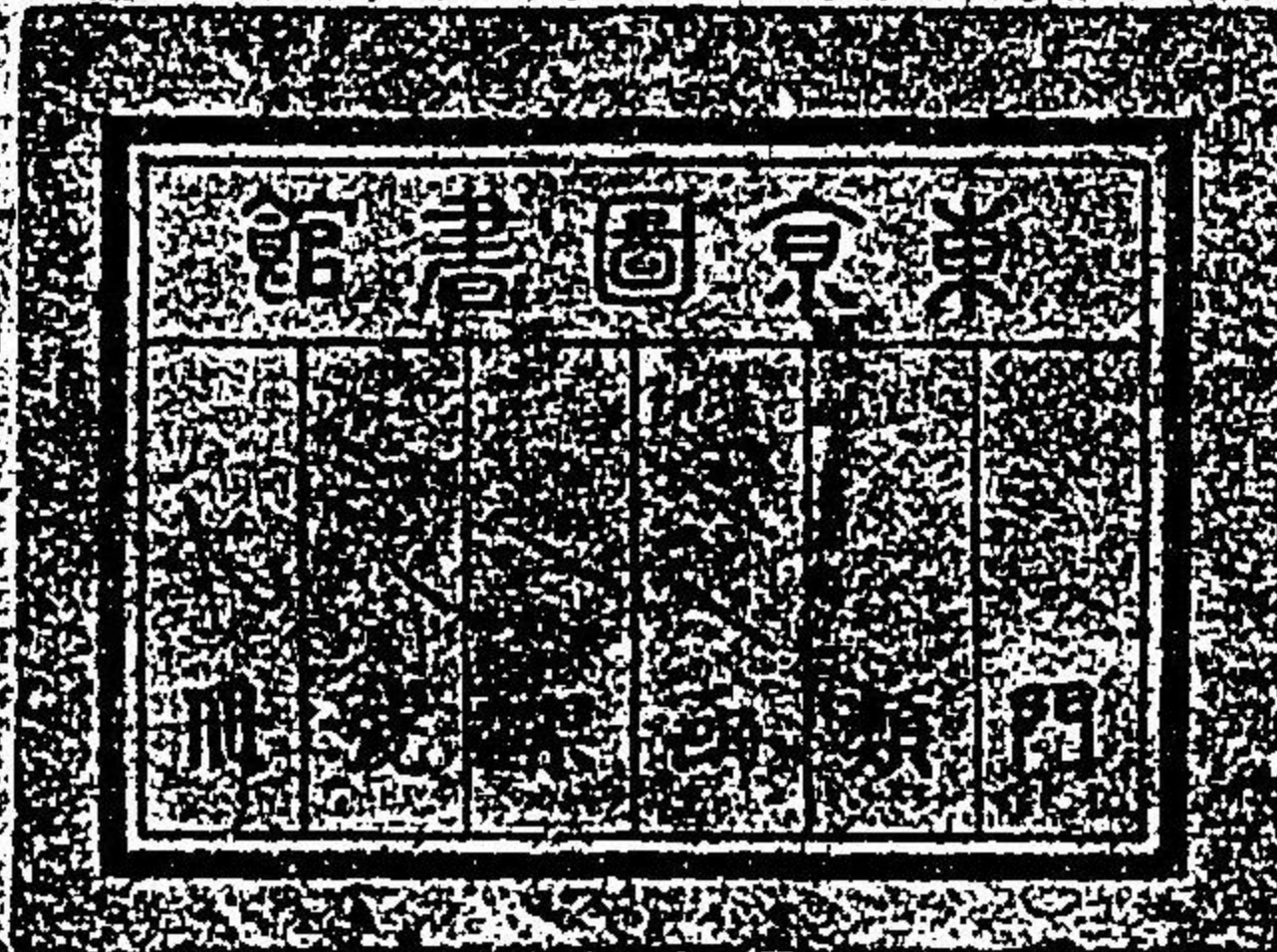
猫

象牙彫刻法乾終





11
15



069435-001-8

11-15

象牙彫刻法

相馬 邦之助/著

上

M23

CEB-0077

